

懐かしい地元 の追想

新・知内町史

III



知内町

新・知内町史

Ⅲ

懐かしい地元の追想

写真と年表でつづる知内

【表紙写真】 昭和初めころの村中（現・元町）の商店街

左側に吉田商店、菅井商店、敦沢旅館。道路はさんで反対側右端から阿部島商店、武藤床屋（吉田新松商店？）、2階建が松本旅館（現・大野 捷）、林菓子店、缶詰工場と続きます。

発刊の辞

知内町長 大野幸孝

1986（昭和61）年6月に発刊した『知内町史』から30年近くの年月が経過し、この間、わが国経済は安定成長期からバブル経済期、そしてバブル経済の崩壊とともに経済が縮小する時代、いわゆる失われた20年と呼ばれる低成長期に突入した激動の時代でありました。

本町では、この間大野重樹町長から脇本哲也町長そして大野幸孝町長へと町政が引き継がれ、1987（昭和62）年には第3次、1996（平成8）年には第4次、2006（平成18）年には第5次の知内町総合計画を策定しました。

特に、第4次総合計画ではまちづくりのイメージテーマを『笑顔かがやく躍動の舞台（まち）』に設定し、町民が健康・快適で将来を安心して暮らすことのできる「定住」と町民相互あるいは来訪者とのふれあい豊かな「交流」を二つの柱に新たなまちづくりを進めてきたところであります。

この間、本町の基幹産業である農業は、ニラ・ほうれん草・トマトなどの施設園芸作物が飛躍的に生産を増やし、漁業では、カキ・ホタテなどの養殖漁業が定着し、産品としてのブランド化が図られました。

また、町民が安心・安全そして快適に生活するため、防災計画の見直しや避難所への災害用備蓄品の配置、上水道の拡張や下水道の整備、養護老人ホームの開設や保健医療総合センターの整備も行われました。

さらに、学童保育の開設や子ども医療費助成などの各種助成事業の拡充による子育て支援、町の次代を担う子どもたちのスポーツ・文化面での活躍も目覚しく、特に知内高校の町立高校で初の甲子園出場は、町民に大きな夢を与えてくれました。

このような一つひとつの出来事が、町に住んでいる人々の生活であり、町の姿であり、本町の歴史であります。これらのことを正確に記録し、その足跡を後世にしっかりと伝えるため、新しい町史を発刊することと致しました。

本町史は、これまでの町史とは異なった視点で、「知内町の概要」、「前町史以降の町の様子」、「写真と年表での町の歩み」の全3分冊で発刊することとしました。

先の上梓しました「知内町史」とあわせて、本町史が町民の皆様方にご愛読いただくとともに広く活用していただければ、発刊の目的を果たすことができるものと考えます。

発刊にあたり、資料収集にご尽力いただきました町史編纂委員各位と資料提供及び調査協力いただきました多くの町民皆様に心からお礼を申し上げます。

本町史が、町民皆様にとりまして、未来につなぐ架け橋となって、ふるさと知内町が更なる発展するための貴重な礎となることを願って発刊の挨拶と致します。

『新・知内町史』編集方針

編集長 根本 直樹

本町史の編纂は、平成20年に町から依頼を受けたことから始まりました。それは「(昭和61年発刊の)前町史で取り上げきれなかった部分やそれ以降の出来事をまとめて、町の歴史をつなげてほしい」というものでした。

新しい町史の目指す方向性として、まず、「基礎的な資料となること・利用しやすいこと・まちづくりに寄与すること」というポイントを挙げました。その後協議を経て、前町史を含む知内の歴史の概要、平成を中心とした現代の知内の概要、そして知内の歴史を写真と年表であらわしたものの3巻で1つの町史とする構成としました。

第Ⅰ分冊のタイトルは『「知内らしさ」の現在』としました。「現在」としたのは、ここにいる時間と場所から今一度ふりかえる気持ちを大切にしたいからです。児童・生徒らが郷土の学習に利用できるように、簡易な内容であることを心がけました。知内町の自然環境からはじまり、先史時代から昭和時代までの通史的な説明と、民俗的な特徴も少し含まれています。また、資料集としてこれまでの郷土誌等に掲載されたことのない文献をあげておきました。

第Ⅱ分冊は、『「生活者の自治」をめざして』です。地域の生活の歴史とまちづくりを連動させた巻です。昭和から平成に変わった時期の出来事が、これからのまちづくりを考えるうえでの参考になってほしいという気持ちが込められています。懐古ではなく、これからの知内町の希望を見いだす作業をこころがけたつもりです。自治体史として、町民主体に地域を表現できないかということを意識しました。現代に生きる町民の様子と課題とを記録化する作業だったと思っています。

第Ⅲ分冊は『「懐かしい地元」の追想』です。外からふるさとを懐かしむのではなく、地元人としてしっかり見届けることを意図しています。写真と年表は町民の声がもっとも多かった要望ですので、一つの分冊としてまとめました。

総題『新・知内町史』の「新」の意味合いは、現在との向き合い方を重視するという町史としての新しい意図によるものです。過去の説明に終始するのではなく、先人達からつながる知内町民の「現在」を意識した、地域史としての構成と記述をこころがけたつもりです。知内町のこれからに向けて、何らかの役割を担えることを願っています。

懐かしい地元の追想

- ◆ 発刊の辞—— 知内町長 大野幸孝
- ◆ 『新・知内町史』編集方針—— 編集長 根本直樹

◆ はじめに

【写真編】 懐かしいふる里の記憶 7

【年表編】 懐かしい「地元の追想」 59

[凡 例]

- 1 【写真編】は、明治時代から平成に至る写真・図を、テーマを立てて掲載しました。
- 2 【年表編】について
 - (1) 知内に関わる内容はより大きな活字で示し、他に道南、北海道、日本、世界の動きについて適宜記しました。
 - (2) 配列は各年の初めに月日不明の出来事を掲載し、その次に 1 月から順次記述しました。各月はまず日にち不明の出来事を掲載し、その次に日にち順で記述しました。典拠のあるものは [] で示しました。
 - (3) 本文の表記は原則として常用漢字、現代仮名遣いとし、歴史的用語・学術用語・人名等はこれに従わなかったものもあります。保健婦と保健師など現在と異なる名称は、史料の価値を優先して当時使用されていた名称のままとしました。敬称はいかなる場合でも省略しました。
 - (4) 知内の始まりについては「北海道巡回紀行」に拠りました。これは、1886 (明治 19) 年 4 月から 6 月にかけて、当時北海道庁理事官であった青江秀あおえひいづが函館支庁管内を巡回したときの記録 (の写本) です。ここには、旧家雷公神社祠掌大野重敬の祖先にふれた文章が記載されているので、引用して年表に記載しました。
 - (5) 歴代首長について、今までに発行された『知内町史』や『知内の歩み』『町勢要覧』等に不備な点があったことが判明したので、修正して掲載しました。
- 3 本分冊は主として高橋豊彦が編集に当たり、多くの方々の助力を得ました。ここに感謝申し上げます。

はじめに

本分冊『「懐かしい地元」の追想』は、知内の写真編と年表編です。

【写真編】については、知内町郷土資料館が収蔵している写真のほか、これまで町内で発行された記念誌等で掲載された写真、および『広報しりうち』で使用された写真や個人の方からお借りした写真の中から精査して掲載いたしました。紙面の関係上限られた枚数にならざるをえませんが、過去の記憶がよみがえることができたという言葉を聞くことができれば幸いです。

【年表編】については、これまで知内の始まりは「大野土佐日記」に依拠して、荒木大学が知内に渡って来たといわれている 1205（元久 2）年から始まるのが普通でした。ところが砂金掘りを扱った書籍の記述などで、荒木大学が建久年間（1190～1199）に渡ってきたと誤用されている例がありました。このような記述の訂正も考慮しつつ、今回の年表では、雷公神社宮司大野家の祖先のことにふれている 1192（建久 3）年から始めました。

また、知内町が、自治制施行 123 年及び開基 789 年のメモリアルイヤー記念事業の一つとして 1995（平成 7）年に発行した、能代久司編纂『知内町史記年表抄—知内の歩み』（以下『知内の歩み』）が、1994 年までの本町の出来事について詳細にふれています。今回の【年表編】は、分量の制約もあり、1994 年までは『知内の歩み』から基本的な項目を抜粋するとともに、『知内の歩み』の誤記の訂正と、記載されていなかった事項の補足を行いました。そして、1995（平成 7）年からはできるだけ多くの事項を採りあげることになりました。

「読めて調べることのできる年表」を目指し、採りあげた項目の出典が判明しているものについては、極力表内に挙げるようにしています。

写真編・年表編とも、今後大いに活用されることを願っております。

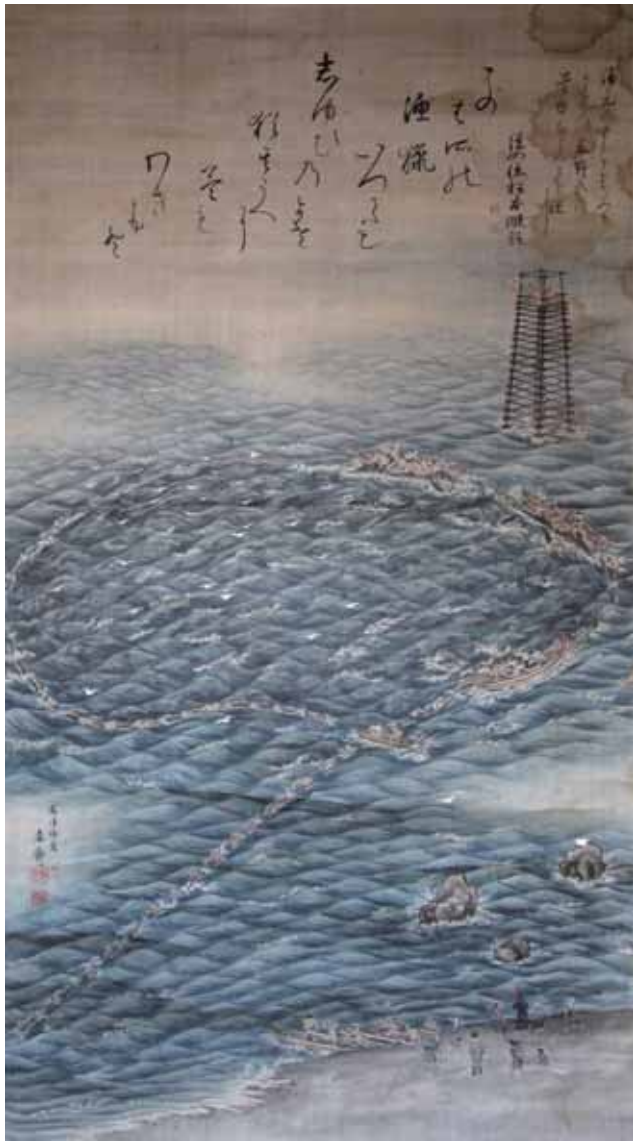
[高橋豊彦]

【写真編】

懐かしいふる里の記憶

- 明治時代の涌元の様子を絵から見てみる・8
- 明治から大正のころ・9
- 明治から大正の人々・11
- 水力発電所にかかわった人々・12
- 大正時代の鮭人工孵化場・13
- 昭和のはじめのころの知内・14
- 昭和のはじめのころの漁業・18
- 昭和戦前の営み・19
- 昭和の戦時中の営み・21
- 昭和戦後の始まり・24
- 松前線の思い出・29
- 海峡線の開通・31
- 村から町になったころ・32
- 災害編・36
- 知内火力発電所ができることになって・38
- 知内にやってきた企業・40
- 国営灌漑排水事業・41
- JR 知内駅に道の駅「しりうち」が併置・42
- 甲子園への道・43
- 青森県今別町との海峡を挟んだ交流・44
- まちが始まって800年・46
- カキとニラのPRを目的に始まる・47
- 思い出の学舎・48
- あとがき・58

1. 懐かしいふる里の記憶—明治時代の涌元の様子を絵から見てみる—



三半船(さんぱせん)と呼ばれる船で鮭を捕獲している様子が描かれています。



中央の帽子をかぶり洋服を着て双眼鏡を持っている人が、藤野文蔵のようです。庶民のいであちと大分ちがうようです。

「鮭漁掛図」(縦182cm×横121cm)は、明治20年代の涌元の浜の鮭漁の様子を描いたものです。藤野文蔵が梅斎という絵師に書かせたと伝えられています。上が全体図。右上と下に拡大して絵を掲載。当時の風俗と鮭漁の様子を見ることができます。



藤野文蔵

「鮭之塚」は鮭漁で財をなしたため、鮭大尽(まぐろだいじん)と呼ばれていた藤野文蔵が鮭の供養のために、1890(明治23)年7月に涌元神社境内に建立しました。塚石の表に施主 藤野文蔵 船頭 館 徳蔵と刻字されています。建立後も15年ほど大漁が続いたということです。



鮭之塚

1. 懐かしいふる里の記憶—明治から大正のころ—



1910(明治43)年頃の知内村役場は字坊主石2番の4(現-元町353)旧役場庁舎西隣にありました。「在郷軍人会」を設立し、その記念で撮影したと考えられる写真です。



「大正3年消防組織記念火演習」1913(大正2年)年のノダップ付近(現-元町)開拓の頃と変わらない家並み。左奥に見える屋根は、知内尋常小学校。中央の木が雨石の松です。

1. 懐かしいふる里の記憶－明治から大正のころ－



1913(大正2)年頃の知内農場(火災後の再建された事務所)



知内農場での軽種馬調教



山田 慎

1851(嘉永4)年越前国丹生(福井市錦下町)の豪商山田又左の長男として出生。山田銀行を設立。道内に本店を置いた私立銀行のさきがけとなりました。明治14年知内の未開地1,800町歩の払い下げを受けて知内村牧畜会社を設立して欧米式の農業を行ないました。



知内牧畜会社に雇われたアイヌの人たち
明治30年頃家畜を熊から守るため八雲から来ていました。危険のないときは飼草の乾燥や積み込みなどを行っていました。

1. 懐かしいふる里の記憶—明治から大正の人々—



年代不明の写真[大正時代初め]
旅行に行った時の記念写真のよう
です。前列左端が永田八右衛門、
その右隣が南一松ということです。

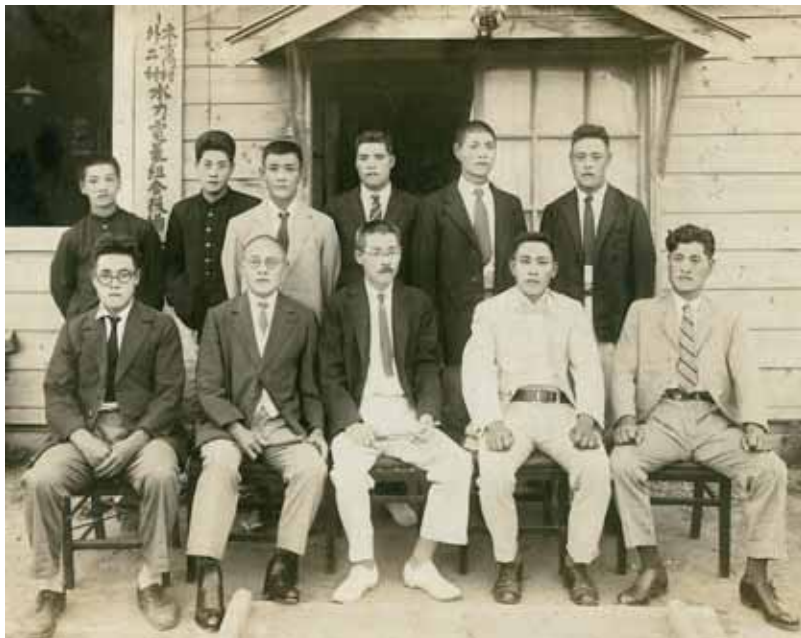


知内で最初の乗合自動車
旧菅井商店前で撮影した写真。
上磯自動車会社が、1919(大正8)
年7月から知内～上磯間に乗合自
動車を運行。当初1日2往復。冬季
は運行を休んでいたということです。



知内尋常小学校の奉安殿前
前列右から二人目が1914(大正
3)年12月～16年7月21日まで在任
していた第6代村長 千葉忠次郎で
す。

1. 懐かしいふる里の記憶－水力発電所にかかわった人々－



木古内村外二村水力電気
組合役場前

1923(大正12)年1月木古内村、知内村、茂別村は「木古内外二村電気組合役場」を設立し、頃内川に水力発電所を設ける工事等の事業を開始しました。事務所は木古内村役場付近に置かれました。



頃内川水力発電所
1924(大正13)年11月に完成
しました。



頃内川水力発電所の
貯水槽(ダム)
1927(昭和2)年頃に撮影。

1. 懐かしいふる里の記憶—大正時代の鮭人工孵化場—



知内川河口付近の鮭の曳網漁(大正時代)



袋沢にあった「鮭人工孵化場」の養魚池

大正初めのころ写真。明治44年から主任技師は土岐足彦で、助手が1名いました。



「鮭人工孵化場」内部の分水桶

1. 懐かしいふる里の記憶—昭和の初めのころの知内—



1928 (昭和3) 年11月10日の昭和天皇即位の礼の時の村中 (現・元町) の様子。



知内村信用組合を発展的に解消し、「知内信用購買販売利用組合」が新組織として誕生した1932 (昭和7) 年の写真。



1930 (昭和5) 年頃撮影と思われる「知内医院」。資料がないので場所等不明の写真です。

1. 懐かしいふる里の記憶－昭和の初めのころの知内－



知内漁業協同組合事務所玄関前で
1940(昭和15)年頃撮影。



矢越漁業協同組合の建物



1941(昭和16)年3月渡島知内駅前に新設された知内信用購買販売利用組合の「農業倉庫」です。

1. 懐かしいふる里の記憶－昭和の初めのころの知内－



役場庁舎の上棟式
[1931(昭和6)年8月]



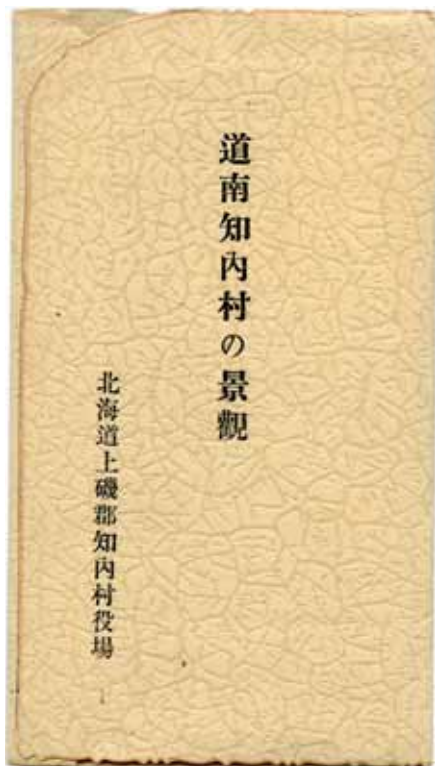
役場庁舎は知内村元町351に建てられ1971(昭和46)年まで使用されていました。



「小辻商店」知内で最初に商いを始めた店です。

1. 懐かしいふる里の記憶－昭和の初めのころの知内－

1936(昭和11)年知内村発行の
絵はがき



元町の市街地(右:敦沢旅館)



姫の湯



和楽園ユートピア



姥杉と姥杉社



浦元の港

1. 懐かしいふる里の記憶－昭和の初めのころの漁業－



1935(昭和10)年頃の
前浜のにぎわい

イワシの荷揚げ光景
(前浜: 齊藤漁業部)



イワシ搾粕製造光景
(前浜: 齊藤漁業部)



イワシ搾粕製造光景
(前浜: 齊藤漁業部)

1. 懐かしいふる里の記憶－昭和戦前の営み－



元町の西側から撮影された商店街
右から阿部島商店、齊藤百貨店があり
道路向側の2階建の家屋に左下の富
士写真館がありました。



富士写真館1939(昭和14)年ころ元町の松本旅館を
借りて開業していました。



戦前の教科書販売の様子
齊藤百貨店で販売していました。

1. 懐かしいふる里の記憶－昭和戦前の営み－

消防組から警防団へ
戦火の足音



知内消防組第二部記念写真1927(昭和2)年～1930(昭和5)年ころ村役場庁舎前で撮影。



戦時下の防衛の任を担当するため消防組と防護団が合併し、1939(昭和14)年4月1日から「知内村警防団」に改組するため、知内村消防組は解散することになりました。



警防団員服務規定(草案)

1. 懐かしいふる里の記憶—昭和の戦時中の営み—

出征兵士を送る



1935(昭和10)年に出征しました。



1939(昭和14)年に出征しました。



出征兵士を送る列車
(昭和15年ごろの森越駅)



戦時体制と
職業訓練

東部国民勤労訓練所
記念写真
(昭和18年10月)

1. 懐かしいふる里の記憶—昭和の戦時中の営み—

沈黙の帰還兵



日中戦争で初めて戦死した2名の村葬が、1938(昭和13)年6月知内尋常高等小学校運動場で営まれた。



知内尋常高等小学校運動場で営まれた村葬



知内尋常高等小学校運動場で営まれた村葬



忠魂碑での慰霊祭
年代不詳

1. 懐かしいふる里の記憶—昭和戦時中の営み—

銃後の暮らし [1938 (昭和13) 年頃]



大日本国防婦人会と愛国婦人会の集会
昭和11年から13年の間の写真。場所は
知内尋常高等小学校体育館。



大日本国防婦人会と愛国婦人会のトラピスト
修道院見学旅行



大日本国防婦人会と愛国婦人会の女性たち



大日本国防婦人会と愛国婦人会による慰問袋詰め作業

※ 愛国婦人会は、戦死者の遺族や傷痍（しょうい）軍人の救護を主な目的として1901（明治34）年創設された婦人団体。

大日本国防婦人会は、1932（昭和7）年10月、軍部の総力戦体制・国防国家体制づくりに全面的に協力する趣旨で設立されたわが国最初のファッション的婦人団体。ともに1942（昭和17）年「大日本婦人会」に統合されました。[国史大辞典ほか]

1. 懐かしいふる里の記憶—昭和戦後の始まり—



戦争が終わって戦地からの復員

南方戦線に配属になりビルマで抑留された旧日本軍兵士。



満洲でソ連軍の捕虜になりシベリアに抑留された旧日本軍兵士。

1. 懐かしいふる里の記憶—昭和戦後の始まり—

戦後の若者たち
戦後民主主義は
音楽から始まった



元町の青年団員



知内日進青年団の楽団
1951（昭和26）年正月



元町の演芸会で演奏する楽団

1. 懐かしいふる里の記憶－昭和戦後の始まり－

戦後の若者たち
戦後民主主義は
演劇から始まった



上雷の青年団



知内日進青年団が重内青年団



小谷石の矢越青年団

1. 懐かしいふる里の記憶－昭和戦後の始まり－

戦後の若者たち
盛んだった青年団活動



浦元谷地青年団
1952（昭和26）年



前浜青年団
1955（昭和30）年



緑葉青年団陸上競技大会参加
1959（昭和34）年

1. 懐かしいふる里の記憶－昭和戦後の始まり－

渡島知内駅前周辺 [1954 (昭和29) 年度版知内村勢要覧より]



渡島知内駅前周辺 [日本通運-三井林業事務所-澤岡旅館-中村魚屋-小辻商店-漁協倉庫-戸井商店-斉藤木工場]



駅前通りと国道228号線 [駅前通りに町口商店-国道沿いに谷口自転車店-安藤洋服仕立店-吉田精米所-仙北-嶋内鍛冶屋-駅前駐在所ほか]

1. 懐かしいふる里の記憶－松前線の思い出－



思い出の駅舎

松前線は1912(大正元)年に松前鉄道期成同盟会が結成され、建設促進運動を始めました。しかし世界恐慌(昭和4年)やそれに続く満州事変(昭和6年)の勃発などで順調には進まず、1936(昭和11)年に着工し、沿線住民の日雇いや朝鮮人労働者そして函館刑務所の囚人を使いながら、1937年に森越駅と渡島知内駅が開業。翌38年10月湯ノ里駅が開業。重内乗降所は、1962(昭和37年)12月開業しました。

森越駅1987(昭和62年)



重内乗降所1987(昭和62年)



湯ノ里駅1987(昭和62年)

1. 懐かしいふる里の記憶－松前線の思い出－

さようなら松前線
1988(昭和63)年1月31日



渡島知内駅ホームに到着した
さようなら列車



木古内駅へ向かって出発する
さようなら列車



渡島知内駅を立ち去る
別れを惜しんだ人たち

1. 懐かしいふる里の記憶－海峡線の開通－

海峡線の一番列車が
通過した日
1988(昭和63)年3月13日



青森駅へ向かって通過する旅客一番列車の「はつかり10号」



一番列車を迎える約千人の知内町民



1. 懐かしいふる里の記憶—村から町になったころ—

知内町になった祝賀行事
1967(昭和42)年11月3日



知内町広報「しりうち」10月1日号



元町の道路を行く知内小学校児童による旗行列
(このころの町道は、舗装されていませんでした。)



知内中学校グラウンドの「祝 知内町」は知内中学生による人文字

1. 懐かしいふる里の記憶—村から町になったころ—

娯楽の殿堂でした



知内劇場（館主・上野克巳）
知内郵便局の裏にありました。



チャンバラ映画のヒーロー丹下左膳
昭和42年11月3日

往時の文化のシンボル 消える知内劇場

数々の映画を提供

今後は道道拡幅で近く解体

北海道新聞道南版夕刊
1983(昭和58)年8月1日

「知内劇場」は、昭和30年代に建てられた、知内町の中心地である。この劇場は、往時の文化のシンボルとして、多くの人々に愛され、数々の映画を提供してきた。しかし、近年は道道拡幅計画が進み、この劇場の解体が決定された。この劇場の解体は、知内町の歴史と文化の消失を意味する。この劇場の解体は、知内町の歴史と文化の消失を意味する。この劇場の解体は、知内町の歴史と文化の消失を意味する。



知内劇場発行の御招待券

1. 懐かしいふる里の記憶－村から町になったころ－

知内町民センターの完成
1971(昭和46)年10月5日



町民センター落成記念誌



完成時の町民センター



町民センターの裏 (現-中央公民館側)



町民センターから国道228号線沿いを眺望す [寄宿舎や旧知内和洋裁学院 (旧知内村公民館) が見えます]

1. 懐かしいふる里の記憶－災害編－

小谷石集中豪雨災害
1973(昭和48)年9月24日発生



湯の沢地区



中の沢地区



上の沢地区

1. 懐かしいふる里の記憶－災害編－

小谷石集中豪雨災害からの復興
1976(昭和51)年8月18日



災害復興工事光景



小谷石 災害報告書
[1974(昭和49)年発行]



災害復興記念碑と慰霊碑



災害復興後の小谷石



小谷石災害復興記念式典

1. 懐かしいふる里の記憶—知内火力発電所ができることになって—

北海道電力株式会社知内火力発電所工事の着工にいたるまで



知内町漁組と漁業補償で合意 [1978年12月]

知内町火力発電調査委員会
地区別懇談会の開催周知チラシ
[1978 (昭和53) 年3月13日]



知内火力発電所敷地内で北電関係者・町・工事業者など約100人が参列し、地鎮祭並びに安全祈願祭が行われました。



北電/知内地点-可能性調査のあらし



1. 懐かしいふる里の記憶—知内火力発電所ができることになって—



建設工事中



知内火力発電所の全体



発電機により作られた電気を送電系統につなぐ「通気併入式」を実施。発電が開始されました。
[1983(昭和58)年8月2日]

1. 懐かしいふる里の記憶－知内にやってきた企業－



三洋食品株式会社 北海道知内工場 (本社:千葉県市川市)
1977 (昭和52) 年「農村工業導入促進法」に基づき元町に工業団地を造成することになって誘致されました。翌78年2月1日から操業を開始し、知内町の企業誘致第1号となりました。



ノムラ産業株式会社 知内工場 (本社:札幌)
1997 (平成9) 年、知内発電所2号機の湿式脱硫装置用として、粉状炭酸カルシウムを年間約4万t供給可能な工場を発電所隣接地に建設し、パイプライン輸送にて直接、供給を開始しました。

1. 懐かしいふる里の記憶—国営灌漑排水事業—



知内ダム定礎式
1989(平成元)年10月5日

知内ダムは、知内川水系ミナゴヤ川の国有林内に農業ダムとして北海道開発局函館開発建設部が建設し、国営かんがい排水事業知内地区の基幹水源となるものです。

ダムは知内町内の水田の用水改良と畑地かんがいのための農業用水の安定確保供給を目的として築造されました。

ダム付近はおおむねU字形の地形で、地質は東北の日本海側から道南にかけて広く分布する新第三紀中新世の頁岩を基礎岩としています。新鮮な頁岩は暗灰色を呈し、緻密かつ硬質で固結度は高いです。

ダム形式は、重力式コンクリートダムです。

工事は1988(昭和63)年11月に本体基礎掘削、ダム用仮設備等に着手し、1989(平成元)年10月5日定礎式を行ないました。

1993(平成5)年1月11日総事業費120億円を投じた知内ダムが完成し、湛水式がおこなわれました。

堤高40.5メートル、堤長321メートル、堤体積168千立方メートルです。



1. 懐かしいふる里の記憶－JR知内駅に道の駅「しりうち」が併置－



当日配布された
テレホンカード

道の駅「しりうち」オープンと 中山間地域総合整備事業竣工セレモニー [1997(平成9)年4月30日]



道の駅「しりうち」オープンと中山間地域総合整備事業竣工セレモニーが、完成したばかりの知内町農村活性化センター前で行われました。

中山間地域総合整備事業(平成4年度～平成8年度)は、北海道が、主体となって農業集落排水、尾出橋、農村活性化センターなどの施設を整備したものです。

当日は、函館開発建設部長や渡島支庁長をはじめ、町議会議員、知内町中山間地域農村活性化総合整備事業期成会役員、各団体の代表など約150人が出席しました。

セレモニーでは、脇本町長の挨拶に引き続き、渡辺函館開発建設部長から「道の駅」登録証が町長に手渡されました。また、来賓の方々からの祝辞、藤本助役による事業概要説明、テープカットが行われた後、農村活性化センター、農村公園、さわやかトイレなどの施設を見学しました。



現在の道の駅「しりうち」

1. 懐かしいふる里の記憶－甲子園への道－

知内高校野球部



平成4年度秋季高校野球全道大会
準優勝した知内高校野球部
[平成4年10月10日]



第65回選抜高校野球大会出場
甲子園で入場行進[平成5年3月26日]



第65回(平成5年)選抜甲子園出場記念碑
[平成14年10月20日建立]

1. 懐かしいふる里の記憶－青森県今別町と海峡をはさんだ交流－

今別町と友好町締結
1990(平成2)年8月8日



今別・知内交流ゲートボール大会
[1993(平成5)年8月]



知内・今別婦人演芸の集い
[1994(平成6)年3月]

1. 懐かしいふる里の記憶－青森県今別町との海峡をはさんだ交流－

今別町との交流会



今別町地区総代連絡協議会と知内町町内会連合会との交流会が知内温泉で開催されました。
[1997(平成9)年8月28日]



今別町と記念交流会を開催
[2002(平成14)年7月12日]



両町で交換された「友好の証」

知内・今別友好町
締結20周年記念交流会
[2010(平成22)年12月18日]

1. 懐かしいふる里の記憶—まちが始まって800年—



フロンティア800年
2005(平成17)年

まちの始まりとしている「大野土佐日記」に記されている元久2年(1205)から、800年を迎えることにちなんで「フロンティア800」と銘打っているいろいろな記念事業を開催しました。

フロンティア800年記念
第21回サマーカーニバルin知内
[8月14日]



大野土佐日記

フロンティア800年記念
電気のあるさとシンポジウム
[11月4日]



フロンティア800年記念事業
小檜山 博講演会
「ひとりでは生きられない」
[11月12日]

1. 懐かしいふる里の記憶－カキとニラのPRを目的に始まる－



しりうち味な合戦・冬の陣 かきにらまつり

町特産品販売促進協議会と町の若者で組織するフロンティア21の共催で知内特産のカキとニラのPRを目的に1999(平成11)年2月14日第1回しりうち味な合戦・冬の陣・かきにらまつりが中央公民館で開催されました。

会場には、「大千軒岳」など早春の知内をイメージし、30種類以上の素材を使って作られた、巨大食材アートが訪れた人々の目を楽しませたほか、特産品や創作料理を販売する屋台が軒を連ねました。



第1回しりうち味な合戦・冬の陣
かきにらまつり(中央公民館)
[1999(平成11)年2月14日]

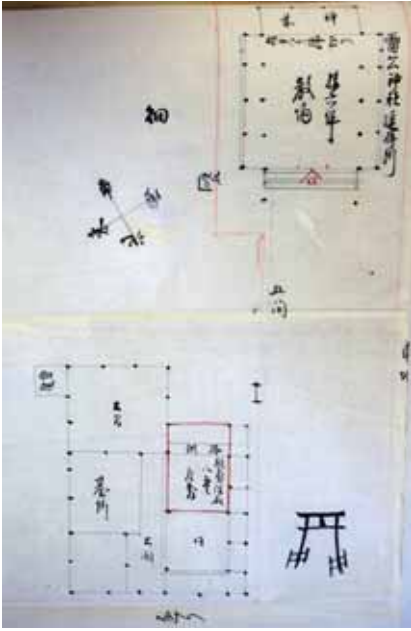


第4回しりうち味な合戦・冬の陣
かきにらまつりポスター

第4回しりうち味な合戦・冬の陣
かきにらまつり(中央公民館)
[2002(平成14)年2月17日]

1. 懐かしいふる里の記憶－思い出の学舎－^{まなびや}

知内小学校の変遷



遙拝所を利用した知内学校の図面

1879(明治12)年町内有志から寄付を募り知内小学校の前身である「知内学校」が雷公神社遙拝所を開放して設立されました。『開拓使事業報告第四編』によれば、男19名、女3名の計22名が入学しました。同年9月には教育令が公布され「公立知内小学校」になりました。同86年の「小学校令」により知内尋常小学校になります。



知内尋常小学校
[1897(明治30)年建設の校舎]



知内尋常高等小学校→知内小学校
[1936(昭和11)年建設の校舎]



知内小学校[1964(昭和39)年建設の校舎]

1. 懐かしいふる里の記憶－思い出の学舎－^{まなびや}

矢越小学校の変遷



矢越尋常小学校[1902(明治35)年建設の校舎]

矢越小学校は1882(明治15)年6月、知内村知内小学校矢越分校として創立されたのが始まりで、当時小谷石神社を仮教室として開校されました。田中業が仮教員となり、一学級が編成され、翌年には矢越小学校として独立し、民家(横潤・杉浦宅)を仮校舎として授業が始まりました。



矢越小学校グラウンド整備工事光景
[1953(昭和28)年頃]



矢越小学校
[1952(昭和27)年建設の校舎]



小谷石災害復後の矢越小学校
[1974(昭和49)年]



閉校した矢越小学校[2000(昭和12)年4月]

1. 懐かしいふる里の記憶－思い出の学舎－^{まなびや}



涌元小学校の変遷

涌元尋常小学校 [1915 (大正4) 年建設の校舎]
1883 (明治16年) 7月1日涌元神社拜殿を校舎
にあて、「知内小学校涌元分校」として開校式が
おこなわれました。1901 (明治34) 年10月「涌元
尋常小学校」として独立しました。
左の校舎は、1922 (大正11) 年5月10日に全焼
します。



涌元尋常小学校新築落成式典
[1923 (大正12) 年11月3日]



涌元小学校
[1951 (昭和26) 年1月完成]

1. 懐かしいふる里の記憶－思い出の学舎－^{まなびや}

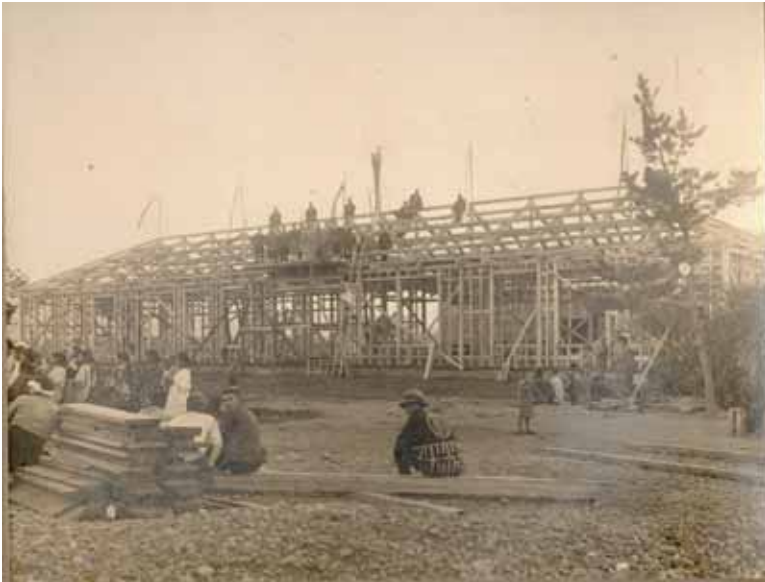
中の川小学校の変遷



中ノ川尋常小学校

[1894(明治27)年建設]

1892(明治25)年7月16日「知内尋常小学校中ノ川分教場」として開校しました。明治27年校舎を現在の中ノ川生活改善センター付近へ移転新築し、明治37年「中ノ川尋常小学校」として独立しました。1941(昭和16)年中ノ川国民学校と改称しましたが、昭和22年4月から「中ノ川小学校」になりました。1953(昭和28)年森越青年団が寄贈した現在地に校舎を移転しました。1990(平成2)年に新校舎が完成し、校名が「中の川小学校」に改められました。知内小学校と統合のため平成20年3月で閉校になりました。



中ノ川尋常小学校校舎上棟式

[1935(昭和10)]



中ノ川小学校

[1957(昭和32)年冬撮影]

1. 懐かしいふる里の記憶－思い出の学舎－^{まなびや}

湯ノ里小学校の変遷



湯ノ里小学校〔建設年代不明〕
1894(明治27)年1月八木留吉宅を校舎に借用し、「知内尋常小学校萩砂里分教場」として開校。同年9月萩砂里32番地(現湯ノ里郵便局付近)に移転。1902年11月校舎が狭隘となったので、当時の萩砂里番外地に移して適地を選定し校舎を新築しました。1905年3月「萩砂里尋常小学校」として独立。1937(昭和12)年「湯ノ里尋常小学校」となります。その後「湯ノ里国民学校」をへて戦後「湯ノ里小学校」になります。



湯ノ里小学校
〔1972(昭和47)撮影〕



湯ノ里小学校(現校舎になる前年)
〔1992(平成4)冬撮影〕

1. 懐かしいふる里の記憶－思い出の学舎－^{まなびや}

東萊小学校の変遷

当時の永田信熊村長から学校敷地の寄贈があったことと東萊沢開拓組合員の尽力により一教室、職員室、便所、住宅等を建設。物置をあわせて62坪の校舎を完成し、1952(昭和27)年2月「村立知内小学校東萊沢分校」が誕生しました。1962(昭和37)年4月1日「町立東萊小学校」になります。1980年3月21日閉校になり児童は知内小学校へ移りました。



東萊沢分校を卒業
[1962(昭和37)3月撮影]



東萊沢分校校舎完成
[1952(昭和27)年3月]



東萊小学校
[1965(昭和40)年代]



閉校直前の東萊小学校
[1980(昭和55)年3月]

1. 懐かしいふる里の記憶－思い出の学舎－^{まなびや}

重内分校の変遷



重内分校 [1955 (昭和30) 年建設]

1883 (明治16年) 福井県人が重内へ入植。知内小学校から遠隔の地にある開拓地のため、その子弟が学齢期に達すると、「知内小学校重内分教場」が開場しました。1895 (明治28) 年「重内尋常小学校」として独立しましたが、1897年11月本校に合併しました。

1907 (明治40) 年1月「重内分教場」が再び開場 (新築竣工)。校舎を現在地 (重内33番地) に移しました。尋常科五・六年と道道沿線の児童が本校に通学しました。1917 (大正6) 年9月台風のため校舎が倒壊しましたが、1919年改築竣工が行われました。1955年12月、前年9月台風15号のため校舎が半壊したため、校舎を新築しました。

1985 (昭和60) 年4月知内小学校において重内児童の歓迎式が行なわれ、9月重内分校の「閉校式・分校創立90周年記念式」を実施し、校史を閉じました。



重内分校 [1985 (昭和60) 年撮影]



職員室 [1985 (昭和60) 年撮影]



重内分校 [1985 (昭和60) 年撮影]



重内分校のモニュメント

[1994 (平成6) 建立]

最後の修了生5名を含む13名の児童を地域の人たちが守っている姿をイメージして制作されました。

1. 懐かしいふる里の記憶－思い出の^{まなびや}学舎－

知内中学校の変遷

1947(昭和22)年5月から発足した中学校5校(知内中学校、涌元中学校、矢越中学校、中ノ川中学校、湯ノ里中学校)は各小学校に併置されました。1948年に知内中学校の独立校舎が現在地に竣工し、小学校から移転しました。その後1953年涌元中学校が独立校となった以外は、1965(昭和40)年9月の知内村立各中学校の統廃合により新たに知内村立知内中学校として認可をうけ、各中学校を廃止。知内村立知内中学校の各分教室と改称するまで併置校でした。

昭和41年3月統合知内中学校第一回卒業式を各分教室で挙行。昭和42年4月道路事情により、矢越分教室を除き各分教室生徒を新校舎に通学することに決定。実質統合中学校としての開校式を知内小学校体育館で関係者多数出席のもとで挙行。涌元方面はスクールバス、中ノ川、湯ノ里方面は気動車で通学。国鉄定期券代金額町費負担でした。



知内中学校独立校舎(統合前) [1948(昭和23)年3月]



知内中学校統合校舎
[1966(昭和41)年3月]



1. 懐かしいふる里の記憶－思い出の学舎－

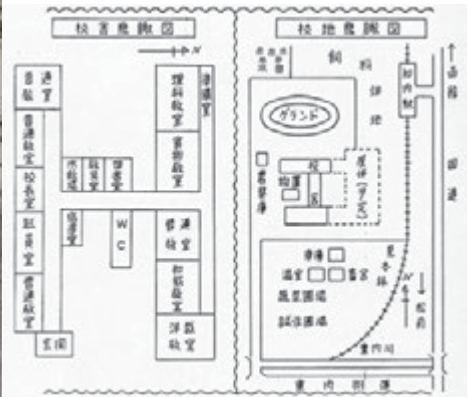
まなびや

知内高校の変遷

1951(昭和26)年知内高等学校は知内村立予備高等学校、として開設され翌1952年4月、木古内高等学校知内分校(定時制普通課程)として設置認可を受け、同年5月に開校した。さらに1953年には知内高等学校として独立し、1955年4月には、農業課程の高等学校として課程変更の許可を受け、今日まで農業後継者の養成を主体に町づくりに必要な人材の育成に努めてきた。定時制課程農業科は55年度をもって募集を停止し、新たに全日制、普通科の募集を開始。1981年4月に第1回の入学式を挙行了しました。1982年11月に、1間口の増設が認められ、計画どおり、2間口6学級の全日制課程、普通科の高等学校として、その基礎と体制が整うとともに1985(昭和60)年現在地に校舎の移転改築を終え、現在の知内高等学校となりました。



知内高校建設中[1957(昭和32)年]



知内高校舎見取図[1963(昭和38)年]



知内高校
[1970年代]



知内高校[1985(昭和60)年3月]

あとがき

今回の写真集作成にあたっては、紙面の制約のあるなかで平成時代まで通史的に掲載しました。写真の内容を記載することでよりその時代が理解できるように心がけました。

また、掲載した写真は、役場や郷土資料館が過去に知内町内で収集し収蔵された写真を利用しました。可能な限り収集時の提供者を調べ掲載するべく尽力しましたが、古い時代に収集した写真の中には、提供者不明の写真や故人になられた方があることを御了承下さい。

写真編の作成にあたり、ご指導・ご協力をいただいた多くの方々に、心よりお礼を申し上げます。この写真編が、時代の記憶をよみがえらせる一助となることを願います。

現在判明している写真の提供者氏名を「あいうえお順」に記載いたします。

阿部島 譲 石郷岡 武 伊藤政博 岩間幹予 大谷利幸 神谷しず 北島 部 岸本 孝 小辻喜雄
後藤妙子 斉藤 毅 斉藤 弥 沢岡孝弥 杉浦敬一郎 鈴木勇吉 田高 博 砂子間武義 千葉幸彦
永田敬二郎 中村恭子 西山 忠 林 敬子 藤田政美 南 マリ子 村上 寿 吉田霊源 北海道新聞
社 知内小学校 知内高等学校 涌元小学校 湯ノ里小学校 [敬称略]

【年表編】

懐かしい「地元の追想」

◇ 懐かしい「地元の追想」 — 年表編 ◇

※ 明治5年12月3日までは旧暦で表示。

年	月日	できごと
1192年 (建久3年)	4月	<ul style="list-style-type: none"> 青江秀の「北海道巡回紀行」(明治19)に当時の雷公神社宮司大野重敬ついて「其先ハ越前国大野郷ノ人松本勘解由紀重徳ト称ス北面ノ衛士タリ。寿永・文治ノ役ニ従軍シ、建久三年四月戦死ス。年九十八。」と記載されている。 源頼朝が征夷大將軍に任官。
1201年 (建仁元年)		<ul style="list-style-type: none"> 松本勘解由紀重徳の「子量太郎重一聖護院宮ニ於テ生長シ、了徳院ト号シ修験トナル。諸國ヲ回り、建仁元年甲斐園伊原郡ニ至リ八幡宮ノ別当ナル」[北海道巡回紀行]
1203年 (建仁3年)		<ul style="list-style-type: none"> 二代將軍源頼家に代わり実朝が三代將軍になる。
1204年 (元久元年)		<ul style="list-style-type: none"> 北条義時によりに伊豆の修禪寺に幽閉された頼家が死去。
1205年 (元久2年)	7月	<ul style="list-style-type: none"> 「元久ニ筑前舟漂流に及び、日久しくやらで、舟中の水相切らし…陸地へ上がり候処は、知内浜辺の由…」[大野土佐日記] 北条義時が2代目執権になる。安東氏は義時の代に「東夷のノ固メ」・「夷島ノ押」えて代官として津軽に据えられる。[新北海道史年表] 元久二年七月本村涌元ニ至リ遂ニ移住ス。荒木ハ赤淵岱ニ館ヲ設ク。[北海道巡回紀行]
	23日	<ul style="list-style-type: none"> 七月廿三日海上安全にして當國矢越迄無着於此處為武運長久の矢ニ筋さし上る…」[大野土佐日記] 『大野土佐日記』によれば甲斐国(山梨県)いはら郡領主荒木大学が將軍源頼家の命を受けて砂金採集のため渡来、矢越岬から渚づたいに涌元へ行って上陸し、毛なし嶽(現・荒神社付近)に居城をかまえて砂金採取を始めた。
1217年 (建保5年)		<ul style="list-style-type: none"> この頃「大学とのには出し丸山に城廓を御構イ被成候てより則此處に菩提寺を御建立」し庭一杯に藤棚を置いたところ一面が真藤の花で覆われて紫の雲のようだった。真藤寺という旧跡として今も残っている。[大野土佐日記]
1238年 (暦仁元年)		<ul style="list-style-type: none"> 荒木大学に同行した了徳院が百余歳になった。[大野土佐日記]
1239年 (暦仁2年)		<ul style="list-style-type: none"> 涌元神社の前身である観音堂を建立した。[常磐井古文書、雷公神社明細帖] 配流地の隠岐島で後鳥羽上皇が没す。
1244年 (寛元2年)	6月20日	<ul style="list-style-type: none"> 山々が鳴動し人心が動揺したので、天下太平と当所安全のため、荒木大学は大野了徳院に上加茂・下加茂の両社(雷公神社の前身)を祭るように命じた。[大野土佐日記] 寛元二年賀茂両宮ヲ建テ之ヲ祭ル。[北海道巡回紀行]
1247年 (宝治元年)	7月25日	<ul style="list-style-type: none"> 砂金掘りの掘子の一人が温泉を発見し、荒木大学によって湯本薬師堂が建立される。[大野土佐日記]
1248年 (宝治2年)	4月	<ul style="list-style-type: none"> 知内村山中ニ於テ温泉ヲ発見シ此地ヲ湯元ト号ス。[北海道巡回紀行] 薬師堂ヲ建ツ。[北海道巡回紀行]
1249年～1256年 (建長年間)		<ul style="list-style-type: none"> ※ [北海道巡回紀行] 建長年間蝦夷蜂起ス。荒木大学頭及ヒ官吏等皆殺サレ、千有余ノ民居亦焼カル時ニ、勘解由ハ荒木ノ臣黒川与兵衛及ヒ泉州堺ノ人作十郎宇一郎等ト共ニ、土人ホマカイ父子ノ為ニ助ケラレ、僅ニ死ヲ免カル。[北海道巡回紀行]
1254年 (建長6年)		<ul style="list-style-type: none"> 蝦夷内乱の噂が流れる。[大野土佐日記]

年 月日	できごと
1257年 (正嘉元年)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 蝦夷退散を祈願して、2代重久が熊野神社を建立した。[不明]
1258年 (正嘉2年)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 荒木大学が菩提寺真藤寺を建立した。(『大野土佐日記』には年代はなし、『北海道旧纂図絵』に記載)
1260年 (文応元年)	
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3月中旬蝦夷蜂起。大野了徳院一家をのぞいて荒木大学ほか掘り子全員が土に帰る。[大野土佐日記]
24日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 了徳院 105歳で亡くなる。葬ったところは古路内(頃内) 沢より右のほうなり…中略…塚石を置く。[大野土佐日記]
不明	<ul style="list-style-type: none"> ・ 了徳院が亡くなってほどなくして、その妻玉之江も百拾六才で亡くなり葬ったところに杉の木を植えた。[大野土佐日記]
1262年 (弘長2年)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 姥杉社建立。[知内町史]
1387年 (嘉慶元年)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「元久より嘉慶迄式百七拾年余此内荼落同前也」[大野土佐日記]
1389年 (康応元年)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「康應歳中かその頃よりそろそろ武を張り文を学ふの地となり」[大野土佐日記]
1392年 (明德3年)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3代将軍足利義満。南北両朝が統一される。
1404年 (応永11年)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「応永11年3月27日」と記された鰐口があった。[蝦夷日誌巻之二] ※『東蝦夷地道中記』(最上徳内)で、知内の温泉に「湯主徳蔵 施主荒木大学 応永十一年」の棟札があったことが書かれている。 ・ 応永11年～永享12(1440) 夷狄が蜂起し奥羽も動乱。[道史略年表]
1411年 (応永18年)	
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「応永18戊子年5月また狄蜂起して国中もの騒がしと也…」[大野土佐日記] ※ 応永18年は辛卯。戊子年は応永15年。
1428年 (正長元年)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 蝦夷の蜂起のため荒木大学が討ち死にした。[松前落穂集]
1432年 (永享4年)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 蝦夷管領の安藤氏が南部義政に攻められ蝦夷島に逃れた。[満濟准皇日記]
1450年 (宝徳2年)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 宝徳二年年信広公(松前家祖) 故アリ若州ヨリ奥州南部江御下り候付由緒モ有之卿跡慕じ恠季則ト共二南部江下候処、先達松前江御渡海之趣二付、同年九月十五日松前知り内村脇本村、小田西村三ヶ村支配被仰付、脇本村館主ト成ル。文明九(1477) 丙年三月二十三日卒。[佐藤家系譜] ※「文明九(1477) 丙年三月二十三日卒」とあるが、文明九年は丁。丙は文明八年。
1453年 (享徳2年)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 武田信広は、津軽領主安東氏の一族で下北田名部にあった下国安東太政季と共に享徳2(1453)年蝦夷地に渡り、上ノ国花沢館主蛸崎修理太夫季繁の客分となった。[知内町史]
1456年 (康正2年)	
春	<ul style="list-style-type: none"> ・ 志濃里の鍛冶屋でのいさかいでアイヌの青年が和人に殺された。
1457年 (長禄元年)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 南條季継が館主だった脇本(涌元)館は、コシャマインとの戦いで落城。[新羅之記録・福山秘府]
1458年 (長禄2年)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 7代寿千坊重宣のとき旧領主蛸崎修理大夫源信広が上ノ国より茂辺地館へ出馬の際、道案内を仰せ使う。そのとき旧領主の命により一社にして、雷公神社と号し建立。[知内町史] ・ 武田信広によってコシャマイン父子が弓で射殺されてアイヌ軍は崩壊。

年 月日	できごと
1493年(明応2年)	<ul style="list-style-type: none"> 大淵(まふち:現湯ノ里)に藤の木が生い茂る真藤寺(大淵寺)があった。[福島町史] この年に折加内村に移るとい説もある。[土門家記録『長泉寺沿革』]
1494年(明応3年)	<ul style="list-style-type: none"> 6月23日・「松前様御先祖武田の嫡男太郎殿(中略)蛎崎若狭守信廣ト尊号し奉る御年八十歳にして世を去り給ふ」[大野土佐日記]
1498年(明応7年)	<ul style="list-style-type: none"> 不運にも誅された恒季は、「山城守恒季の霊、巫にたくして曰く、我神と為れりと。故に祠を建てて荒神と崇むるなり」と、支利宇知に下国恒季霊を祀るため荒神小社(現雷電社)を造立する。[福山秘府・新羅之記録]
1532年(天文元年)	<ul style="list-style-type: none"> 長泉寺、大淵(現湯ノ里)より折鹿内村(折加内・現福島)に移る。[松前年代記]
1551年(天文20年)	<ul style="list-style-type: none"> 季広、東西のアイヌと講和し、①瀬棚内のハシタインを天の河の郷中に招いて西夷の代表に、志利内のチコモタインを東夷の代表とした。②諸国より渡来の商買年棒を徴収、「夷役」と称して両代表に配分。③アイヌの商船の往来の法を制定する。これ以降西から来るアイヌの商船は天の河沖で、東より来るアイヌの商船は知内沖で帆を下げ一礼して往来する慣例となったという。エゾ商船往来の制を定めた。[新北海道史年表]
1588年(天正16年)	<ul style="list-style-type: none"> 4月13日・『大野土佐日記』によれば「天正戊子四月十三日天下のしゅで秀吉公へ御出仕被為遊初而松前の号を下シ玉わり松前若狭守慶廣と申奉る」とある。
1590年(天正18年) 庚寅	<ul style="list-style-type: none"> 12月29日・福山秘府、新羅之記録によれば慶広は聚楽第において初めて秀吉に拝謁。[新北海道史年表]
1591年(天正19年)	<ul style="list-style-type: none"> 蠣崎慶広、豊臣秀吉に巢鷹2居・黄鷹1居、秀次に若角鷹3連を献上、それぞれより蠣崎民部太輔あての落款した旨の朱印状を賜る。[福山秘府]
1609年(慶長14年)	<ul style="list-style-type: none"> 慶広、参勤の途次、仙台にて伊達政宗にあい息男の安広の勤仕を約束。[新北海道史年表]
1612年(慶長17年)	<ul style="list-style-type: none"> 10月23日・松前由広、母の菩提を弔うために高野山に参詣。途次豊臣秀頼の臣片桐且元・大野治長らに会す。[新羅之記録]
1613年(慶長18年)	<ul style="list-style-type: none"> 3月・町奉行小林良勝、松前由広の留守中にその若党の木崎浅之助を重過の廉により誅殺。(慶広・公広が相談のうえの処置であったが、由広はこれを深く恨んだという)。[新羅之記録]
1614年(慶長19年)	<ul style="list-style-type: none"> 3月22日・『大野土佐日記』によれば松前由広が自害したのは、「此年如何成ル日ぞや慶長十九年卯ノ三月廿二日御年二十一才一…」 12月22日・小林良勝、松前由広の太刀をうけ、福山城の公広の居間の次座まで逃れて絶命。よって同月26日工藤祐種をして由広を殺害させる。[新羅之記録] (『松前家記』には慶広が工藤祐種を遣したとある) [新北海道史年表]
1615年(慶長20年)	<ul style="list-style-type: none"> 5月8日・大坂夏の陣で大坂城が落城し、豊臣家が滅びる。(元和偃武)
1616年(元和2年)	<ul style="list-style-type: none"> 松前藩が知内の鷹を幕府に献上し、資源確保のため鷹場を定めた。[福山秘府] 4月17日・徳川家康没。(75歳)
1618年(元和4年)	<ul style="list-style-type: none"> 春・松前家5世慶広、巫に託して「成我神其名云雷天荒神」といわしめた4男由広霊を祀るために小祠(現・荒神社)を東部志利宇知(知内)に建立。[松前家記・新羅之記録]

年 月日	できごと
1621年 (元和7年)	<ul style="list-style-type: none"> 松前藩、この年カモチ清吉沢より採金、産出高僅少につきこの月より知内に移る。金山奉行蠣崎蔵人・佐藤嘉右衛門。[北海道史年表]
1623年 (元和9年)	<ul style="list-style-type: none"> 松前安広、慶広と伊達政宗との約束にしたがい仙台に行き、政宗に勤仕(松前における安広の所領は知内村、仙台においては栗原郡清原村・江刺郡小田代に2000石を領したという)[福山秘府・新羅之記録]
1624年 (寛永元年)	<ul style="list-style-type: none"> 地頭の下におかれていた知内で名主制がしかれる。[知内町史] 福島(旧オリカナイ)村の土門茂右衛門が温泉を再発見。使用人三重郎を湯守とする。[知内温泉史・林実]
1625年 (寛永2年)	<p>7月24日</p> <ul style="list-style-type: none"> 知内の谷地鳥屋より白の雄鷹出産。この秋、鷹師鎌田五右衛により將軍秀忠に献上したところ、後日御褒詞御内書を賜る。[新羅之記録ほか]
1629年 (寛永6年)	<p>4月</p> <ul style="list-style-type: none"> 松前安広、伊達政宗の命により片倉小十郎重長の息女を娶る。[福山秘府]
1637年 (寛永14年)	<ul style="list-style-type: none"> 松前家5世公広、知内温泉にて火事による傷をいやし、参府を中止する。[福山秘府ほか] 9月 雷天荒神の小祠を遷宮して荒神社建立。[神社明細並氏子取調帳 - 明治8年]
1638年 (寛永15年)	<p>9月</p> <ul style="list-style-type: none"> 「一社御建立則神号荒神宮と奉申ル御前二無程當所迄御發駕被為遊候此年寛永十五年丁丑九月吉日」[大野土佐日記] 「大野但馬守藤原為将神主に被仰付此年脇元観音堂も御再作なりしと也」[大野土佐日記] 「(仙臺) 鉄之助さまよりも御布施ならひに二葉松拾貳本遠路の處御きしんありしと也」仙台の松前安広より二葉松12本が贈られる。[大野土佐日記] ※ 寛永十五年は戊寅。丙丑は寛永十四年になる。
1655年 (明暦元年)	<p>4月15日</p> <ul style="list-style-type: none"> 松前藩の家老蛸崎広林が矢越八幡宮を建立し弓矢を奉納。[祭神記・社掌大野重教]
1656年 (明暦2年)	<p>3月21日</p> <ul style="list-style-type: none"> 松前安広の隠居にともない、次男広国が仙台松前氏第2代当主となる。この時に安広が所領していた「知内村の知行所」を返還した。※次男広国が歌舞伎の「実録先代萩」に出てくる忠臣松前鉄之助のモデル。 『大野土佐日記』によれば、鉄之助(正しくは安広)が61歳と老いたので知内村の知行地を松前藩に返還した。 <p>8月20日</p> <ul style="list-style-type: none"> 「明暦二年乙申八月二十日、知内名主福井太助、年寄福井吉右衛門なり」[大野土佐日記]
1663年 (寛文3年)	<p>9月23日</p> <ul style="list-style-type: none"> 「大山祇命(山の神)建立は寛文三己卯九月廿三日」[大野土佐日記]
1665年 (寛文5年)	<ul style="list-style-type: none"> 僧円空が来道し、脇本観音堂(現在不明)に鉦彫像を一体安置した。[知内村々史編纂資料]
1668年 (寛文8年)	<p>7月8日</p> <ul style="list-style-type: none"> 松前安広死去。享年63。
1669年 (寛文9年)	<ul style="list-style-type: none"> シャクシャインが蜂起する。そのときのしりうち村の戸数、30軒ばかり。[津軽一統志巻第10]
1672年 (寛文12年)	<ul style="list-style-type: none"> 松前泰広の二男兼広、知内の湯沢温泉にて死去。[福山秘府]
1674年 (延宝2年)	<p>11月15日</p> <ul style="list-style-type: none"> 城中で初めて祀竈神楽を修行し(城内大神事)、以降隔年に催された。[福山秘府・松前歳時記草稿] 松前神楽の発祥。

年 月日	できごと
1690年 (元禄3年) 9月	<ul style="list-style-type: none"> 松前矩広 (5代) が東部之利宇知 (知内) 温泉に入湯。[福山秘府] (温泉) 初代三重郎に子供がなく、使用人の子清次郎が2代目の湯守となる。[知内町史]
1691年 (元禄4年)	<ul style="list-style-type: none"> 戸門治兵衛の出身地の津軽 (南部) から斎藤四郎を連れて、3代目の湯守とする。[知内温泉史・林実]
1692年 (元禄5年) 8月12日	<ul style="list-style-type: none"> 「八月十二日 (旧暦) 知内川から初鮭一尺来り鮭取る者に米一俵下された」『松前主水広時日記』(元禄五年・一六九二) / 知内町史]
1700年 (元禄13年) 秋	<ul style="list-style-type: none"> 松前矩広が知内温泉に入浴「士卒四十三人、ほか雑人亦多し」[福山秘府]
1701年 (元禄14年)	<ul style="list-style-type: none"> 江差の杢人 1,100人のうち21人は知内の杢人。[福山秘府] 杢人…きこり。山から木を切ったり運び出したりする人。
1704年 (宝永元年) 6月26日	<ul style="list-style-type: none"> 山師内海理左衛門が「知内山」雑木の運上 (税金) を不納したため、厚谷六左衛門政国・雑木山奉行新井田主計辰朝の両人は寄合並を解かれ、謹慎を命ぜられた。[福山秘府]
8月23日	<ul style="list-style-type: none"> 湯ノ里の薬師堂を再建。願主・中島弥平治、社司笹井今宮代、棟札は白鳥若宮大太夫が認めて納めた。[町内部落沿革]
1706年 (宝永3年)	<ul style="list-style-type: none"> 僧長悦が法界寺 (福島町) の末寺として、順故庵 (現・浄土宗大乘寺) を村中 (元町) に建立した。[知内町史] 浄土宗法界寺に残されている文書に「宝永三 (一七〇六) 年茂内清順庵建立、法誉長悦和尚知内順光故庵八日様被仰広念庵建立、末席三ヶ所有之云々」とある。
1707年 (宝永4年) 10月7日	<ul style="list-style-type: none"> 松前矩広が之利宇知 (知内) 温泉で入湯。11月城に帰る。[福山秘府]
1721年 (享保6年) 1月6日	<ul style="list-style-type: none"> 「黄金数多く伝来の東部知内に砂金若干有り」[福山秘府]
1744年～1750年 (延享・寛延年間)	<ul style="list-style-type: none"> 「小谷石に初めて定住したのは万右衛門・市助・惣重郎という者で入居は宝暦以前、延享・寛延の頃」[知内町史]
1751年～1829年 (宝暦元年～文政12年)	<ul style="list-style-type: none"> 『大野土佐日記』は宝暦元年～文政12年 (1829) の間に書かれと考えられる。 ※『大野土佐日記』は、歌舞伎の「伽羅先代萩」を見ているか、本で読んでいる人が書いたものと考察される。
1761年 (宝暦11年) 8月23日	<ul style="list-style-type: none"> 知内の山を請負っていた飛騨屋久兵衛の叔父の与惣右衛門の報告文に「尻内川添に二千石困ってあること相違なし」とある。[飛騨屋文書]
12月	<ul style="list-style-type: none"> 遭難…亀田の名主逢坂七兵衛が青森から出帆して知内浜で難破。七兵衛は助かったが2名の溺死者を出した。[知内町史]
1763年 (宝暦13年) 9月24日	<ul style="list-style-type: none"> 「加茂地疇 (とや) は知内」[福山秘府] ※疇 (とや) は鳥小屋のこと。
1764年 (明和元年) 6月	<ul style="list-style-type: none"> 渡島全域に雷雨多く知内は特に甚しく雷死者もあった。[福山秘府]
1766年 (明和3年) 5月6日	<ul style="list-style-type: none"> 幕府は目付宇佐美仁左衛門、矢沢友蔵及び間吹商人山城屋中村安右衛門を松前に派遣して、蝦夷地の瀬田内・知内の金山の総点検をさせたが、金山の掘りの利益は期待ができないと報告された。[福山秘府] その後は幕末まで砂金山の開鑿 (かいさく) されることはなかった。

年 月日	できごと
1772年 (安永元年)	3月9日・大乘寺(元町)に「安永元年三月施主長内」の銘が背文にある地藏菩薩像が所蔵されている。[知内村々史資料集]
1776年 (安永5年)	2月25日・知内村・木古内村名主をアイヌ徘徊不取締につき20日余宛戸締に処す。[福山秘府]
1778年 (安永7年)	・『福山秘府』に、安永7年当時の「イカツチ堂」は元和4年に数馬由広を神に祭るために造立された「雷荒神小社」。また、下国山城恒季を祭る「荒神小社」は、281年たつと記載。
1786年 (天明6年)	3月16日・『大野土佐日記』では第16代大野土佐の時の3月16日、雷公神社が龍火のため焼失したとあるが、『福山秘府』でも「春三月東部支利宇知雷天社依雷火焼亡」と記載。
1787年 (天明7年)	・知内村湯沢に漆苗を植栽するが大部分枯死。[北海道史付録年表]
1788年 (天明8年)	8月2日・巡見使は藤枝要人、三枝重兵衛、川口久助で知内で往路宿泊。[知内町史概説] 8月5日・復路知内で宿泊したが、6日東風の雨となり大雨大水後、下り風(南々西)となってこの日も知内へ逗留したが、予定が狂ったため人足共の米飯がなくて大難渋した。[町内各地部落沿革誌] ・「知内漁家十二、三軒。家居見苦しからず」と巡見使に随行した古川古松軒の『東遊雑記』にあり。[知内町史]
1789年 (天明9年・寛政元年)	3月・『大野土佐日記』に伝聞として国後場所を支配していた飛騨屋との商取引や労働環境に不満を持った蝦夷が、天明九酉の年春三月に「内々徒党をいたし、この度の一乱相起り候様に伝い承り候」と後の「クナシリ・メナシの戦い(寛政蝦夷蜂起)」のことが記載されている。 11月17日・菅江真澄は、シリウチ(道踏みの案内頼む)～ハギシヤリ川～湯の平、「いで湯」に泊まる。[ひろめかり]
1790年 (寛政2年)	1月2日・「寛政2年正月2日いのご泊り蛇の鼻の間に赤石と申処へ寄鯨」があったため、検分の役人・足軽武川七右衛門は両村の村役人の立ち会いのもとに蛇の鼻以西は福島の支配地と申し渡した。[知内町史]
1791年 (寛政3年)	2月・最上徳内の『東蝦夷地道中記』に湯ノ里の温泉に応永11年の棟札のことと施主荒木大学のこと、そして雷公神社に応永11年の鰐口があることが記載。 4月・菅江真澄は松前から昆布とりの船で知内沖を通過と「えぞのてぶり」に記す。 5月25日・大坂住の備後福山藩医淡輪元朔が知内に一泊した。[知内町史]
1792年 (寛政4年)	5月26日・松浦武四郎が礼髭(ひろめ刈舟に乗る)～吉岡～宮歌～白符～福島～矢越の山～小田西～脇本～キコウナキ～ヤングナキ～シノリ浜～銭神沢～ヤケマキ(あしふけるさゝやかの屋戸に泊まる)[知内町史]
1799年 (寛政11年)	6月・異国船の来航が多くなり、東蝦夷地(知内川の以東浦河まで)を幕府の直轄地とした。 ・幕府の監察使遠山金四郎景普が知内に一泊。エゾ地調査の鈴木周介も名主梅五郎宅に一泊した。[知内町史] ・『蝦夷紀行三』に、知内駅の入口に神明の社あり、神宮土佐某という、駅の戸数40軒斗り、3月頃より外国人来りて耕作す、8月に至って故郷へ帰る、作物は稗、黍なり」と記されている。[知内町史] 8月12日・知内川以東の追上知を認める旨書付けをもって松前章広に達す。[林明光記・松前家記] 9月・松前藩、知内川以東浦川までの地所を幕府支配勘定奉行富山元十郎に引き継ぐ。
1800年 (寛政12年)	

年	月日	できごと
	5月20日	・東エゾ地一体を測量に来た伊能忠敬一行が20日福島、21日木古内に宿泊した。
	9月15日	・帰路の伊能忠敬一行が知内に一泊した。
1802年	(享和2年)	
	3月17日	・16日南部藩兵が野辺地を出て箱館に渡る途中暴風にあい、知内に漂流し、17日朝遂に難破し、乗組員87人のうち、目付上田軍佐衛門以下41人が溺死。33人が負傷して、携帯していた軍用金、武器は流失した。建立された供養碑は1963年5月に元町大乘寺に移設。[知内町史]
	5月	・幕府、蝦夷地奉行を新設。同年5月箱館奉行と改称。文化7(1810)松前奉行に改称する。
	7月24日	・知内川以東浦川までの地所が永久上知された。武蔵国の替地も上知されて年金3500両下付とされた。[松前家記]
1825年	(文政8年)	
		・本町の旅籠が火事のため数軒焼けたさい、松前藩に願い出て10年年賦で50両借りてこれを復旧する。[知内町史]
1829年	(文政12年)	
	8月	・18代大野但馬守重久によって『大野土佐日記』の写本が完成する。写本版大野土佐日記の最後に後付的に「知内在 大野松元控 再記 大野土佐守 同但馬守 文政十二年 丑八月日」と記載。
<p>※ 原本の記述の最後が1789年(寛政元年)5月「クナシリ・メナシの戦い」の聞き書きなので、寛政時代に原本が書かれたと考えられる。</p> <p>写本は、宝暦元年(1751)から文政12年(1829)頃に第17代宮司大野土佐為将と第18代宮司但馬重久によって書かれたと考えられる。</p>		
1831年	(天保2年)	
		・佐女川神社の神社守の夢のお告げで寒中みそぎが始まる。
1843年	(天保14年)	
		・「シリウチ・川あり、秋味所(番屋)」[松前国中記]
1845年	(弘化2年)	
		・松浦武四郎が矢越岬を踏査した。また陸路福島より知内を走破している。[初航蝦夷日誌] 雷荒神社に応永十一年の鰐口があったことを記載。
1847年	(弘化4年)	
		・竜宮庵浄土宗(現-大乘寺)。本尊阿弥陀如来。松前正行寺末なり。
<p>荒神の祠村の上の有。此社内には宝剣を祭ると云へり。其剣何人のものやらん。靈驗著しき由也。又此剣は相原周防守のものとも云り。祭礼二季に執行す。[知内町史『蝦夷日誌』]</p>		
1851年	(嘉永4年)	
	4月1日	・山田慎が越前国丹生(福井市錦下町)の豪商山田又左の長男として出生。[北海道開拓功労者集録]
1854年	(嘉永7年・安政元年)	
	3月31日	・日米和親条約締結
	4月21日	・米国のペリー艦隊が箱館へ来る。
	6月30日	・幕府、箱館奉行を置く。[新北海道史年表]
1854年～1860年	(安政年間)	
		・福山(松前町)の金子元吉が涌元で鮭漁を行なう。[知内町史概説]
1855年	(安政2年)	
	2月22日	・幕府は松前に東部木古内村以北・西部乙部村以北の地を上知させ、箱館奉行の管轄とする。建右川に境界柱が建てられ「寨門」が設けられた。[知内町史]
		・平尾魯僊の『松前紀行』に「ハケチャリという処に一軒の家があって酒を売っていた。一ノ渡からここまで2里近い。又平地を暫いくと川があり、巾18・9間大きな材の橋がかかっている、これから一里過ぎて左の方に社がある」等が記載。[町内各部落沿革綴]
1856年	(安政3年)	
	1月	・知内と木古内の村境界一札を双方でとりかわした。[為取替申境一札之事]
1859年	(安政6年)	

年	月日	できごと
		<ul style="list-style-type: none"> 松前藩は森田才八を勸農司として士族 25 人を送り込んだが失敗。[知内町史] 山崎某なる者、萩砂里渡船場の渡守となる。[町内各部落沿革綴]
1860 年 (万延元年)	4 月	<ul style="list-style-type: none"> 藩士田中明定に応募者 30 戸余を引率させて入地開墾させたが、事業は失敗に帰した。残留して開墾を続けたのは山崎宇之助、高野平右衛門、芦野多五郎、川村寅太郎、木村藤右衛門、土門作次郎外数名であった。しかし、今日の湯ノ里農業のさきがけとなった。[知内町史]
1864 年 (元治元年)		<ul style="list-style-type: none"> 知内村にも在方係を派遣して、農業指導に当らせたが、その在方係と建有川寨門管理の責任者として赴任した者に布施泉がいる。[知内町史] 中ノ川で札苅の西山桑五郎 (勘太郎の養父)、西山長之助 (昭利の祖父)、安沢治左衛門、小林惣左衛門、西村長左衛門等が夏の間、中ノ川沢へ往復して原野を切り拓き、自給の穀物、蔬菜を作るかわら木炭製造に従事した。[知内町史]
1865 年～1868 年 (慶応年間)		<ul style="list-style-type: none"> 知内村中の吉本梅五郎が箱館の某と共同で鮪建網を経営したが塩漬けの鮪の売りが悪く数年で止めた。[知内町史概説]
1867 年 (慶応 3 年)		<ul style="list-style-type: none"> 藤野文蔵 (本町開拓功労者) が柳田藤吉・ガルトネル (独)・ウエルキ (米) と鰯玉粕の販路開拓のために関東におもむいた。[知内町史] 地味豊かな中ノ川に札苅の西山桑五郎、西山長之助の 2 戸が移住し、その後安沢治左衛門、小林惣左衛門、西村長左衛門等もこの地に移ってきた。[知内町史]
1868 年 (慶応 4 年・明治元年)	1 月 3-4 日 9 月 8 日 10 月 20 日 11 月 1 日	<ul style="list-style-type: none"> 「鳥羽・伏見の戦い」で幕府軍破れる。戊辰戦争の開始。 慶応 4 年を明治元年と改め、一世一元の制を定める。 榎本武揚ひきいる艦隊、鷲ノ木に入り、兵を分け五稜郭に向かう。 知内本村を越えハギチャリ (萩砂里一現・湯ノ里) に布陣宿営した。その夜矢越岬から上陸した松前藩の軍勢が背後から襲撃し、夜戦がおこなわれた。[殉節両雄碑ほか]
1869 年 (明治 2 年)	4 月 21 日 5 月 18 日 8 月 15 日	<ul style="list-style-type: none"> 旧幕軍は知内、木古内から撤退して、泉沢、三谷、茂辺地付近に陣した。[知内町史] 五稜郭を明け渡し箱館戦争が終了。 蝦夷を北海道と改め 11 国 86 郡となり、渡島国は亀田・茅部・上磯・福島・津軽・檜山・爾志の七郡に分けられた。北蝦夷地と呼ばれていた地も樺太と改称された。 知内は福島郡に属し、名主福井太郎兵衛が行政にあたった。[知内町史] 発足当初の開拓使は民部省内に置かれたが、8 月太政官内に移り、翌 9 月には函館に開拓使出張所、東京に開拓使本庁を置いた。
1870 年 (明治 3 年)		<ul style="list-style-type: none"> 開拓使本庁を函館に移し、東京に開拓使東京出張所を置き、歴代長官は在京中はここで開拓事務を統轄した。[日本歴史地名体系]
1871 年 (明治 4 年)	5 月 8 月 23 日 9 月 11 日 9 月 23 日 11 月 29 日	<ul style="list-style-type: none"> 札幌の仮庁舎が竣工し、札幌開拓使庁が置かれ、北海道経営の拠点は函館から札幌に移る。[日本歴史地名体系] 館県から第十区初代戸長に田中明定が任命される。(これを知内の「自治制施行」の開始としている) 館県 4 郡 (爾志・檜山・津軽・福島) が、弘前県に合併された。 弘前県が青森県になる。 田中明定は、青森県福山出張所から第十区戸長の拜命を受けた。
1872 年 (明治 5 年)		<ul style="list-style-type: none"> この年旧暦から新暦に変更 2 月 1 日・壬申戸籍を実施。戸籍区が設けられ、区ごとに戸長・副戸長が置かれる。 10 月 2 日・「知内郵便取扱所」が設けられ、取扱責任者として福井太郎兵衛 (元名主) が任じられた。[知内町史] 12 月 3 日・旧暦から新暦に変更になったため明治 5 年 12 月 3 日が同 6 年 1 月 1 日になる。

年 月日	できごと
1873年 (明治6年)	<ul style="list-style-type: none"> 1月 9日・開拓使から富長寛左衛門が戸長、田中明定は副戸長との拜命があった。[知内町史] 3月・これまでの第十区は第八区第九区となり、富長・田中はそれぞれ両区戸長、副戸長に任命され、富長戸長は小谷石を含む現福島町全域、田中副戸長は小谷石を除く現知内町全域を受け持つことになった。[知内町史]
1874年 (明治7年)	<ul style="list-style-type: none"> 5月・地質鉦山測量を担当したお雇外国人のアメリカ人、ヘンリー・エス・モンローが主に道南から道東にかけて地質測量を行い、砂金の埋蔵量調査のため知内に来る。[北海道金田地方報文] 5月・官選の総代、副総代が戸長の下に置かれ、民意を代表する意図が盛られた。当時の「知内村総代」は八木左之吉、村用掛は工藤祐雄。[知内町史]
1875年 (明治8年)	<ul style="list-style-type: none"> 6月・開拓判官杉浦誠宛に雷公神社大野重敬祠掌から『神社明細並氏子取調帳』を提出。それによれば雷公神社は渡島国福島郡第7大区1小区知内村七番地に鎮座。 6月・知内村有志が中ノ川に幅1間(1.8m)、長さ8間(14.5m)の「板橋」を架した。[北海道道路誌第2編第1章第3節]
1876年 (明治9年)	<ul style="list-style-type: none"> 4月・雷公神社宮司大野重敬が遥拝場を開放して、みずから教師となり生徒14名に教育を始めた。これが本町教育の始まり。 4月・民費で知内駅の西、馬渡(橋)川に幅1間(1.8m)、長さ5間(9.0m)の板橋を架した。[北海道道路誌第2編第1章第3節] 9月・大小区の改正で福島郡は第12大区となり、知内村は第12大区第3小区と呼ばれた。[知内町史] 10月17日・開拓使から受けた辞令で田中明定は、「大小区画更生第12大区相当申付候事」となっている。また、この時の村用掛は前名主福井太郎兵衛であった。[知内町史]
1877年 (明治10年)	<ul style="list-style-type: none"> 2月・「戸長役場」が旧農協元町支所(元町164番地)の南隣から敦沢豊吉宅(旧敦沢旅館付近-元町226)の離れに移ったので駅通所も移動。[知内町史] 2月・「御料林知内分担区駐在所」が元町(旧知内小学校向い)に設置された。[知内町史・知内小谷石村ニカ村地形図] 2月・『渡島管内戸数人口寄留町村別調』によると知内に本籍をもつ者69戸(士族8戸、平民61戸)、寄留民7戸(平民)となっている(小谷石村は入っていない)。
1878年 (明治11年)	<ul style="list-style-type: none"> 山田慎が、北海道と郷里福井を結ぶ航路を開くため、「北海道開進社」を設立。[知内町史]
1879年 (明治12年)	<ul style="list-style-type: none"> 6月25日・町内有志から寄付を募り知内小学校の前身である「知内学校」が設立され、松井邦一郎が教鞭をとった。『開拓使事業報告第四編』によれば、男19名 女3名の計22名が入学。 8月・開拓使は区戸長を全廃して、90郡区826町村を設け、官撰の郡長・戸長を置いた。渡島国には津軽・福島郡役所(松前)、亀田・上磯郡役所(亀田)、茅部・山越郡役所(森)の3郡役所が置かれ、知内は津軽・福島郡役所の管轄下に入った。[知内町史] 9月・知内学校が公立知内小学校になる。 12月25日・区町村の編制によって田中明定は12年12月25日改めて開拓使から「福島郡知内村戸長申付候事」の辞令を受ける。この年の選挙によって工藤祐雄が村用掛に当選。[知内町史]
1880年 (明治13年)	<ul style="list-style-type: none"> 4月12日・2代目局長に大野重泰が就任。現知内橋の南入口あたりに自宅と続いた局舎が建てられた。[知内町史] 5月・村橋久成が黒田開拓使長官に進退伺を提出。 6月・村橋久成が「東京出張所勸業試験場長」に任命。

年 月日	できごと
1881年(明治14年)	
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・村橋久成が開拓使を辞任。 ・越前(福井県)の山田慎が、開拓使の示唆により本町の約1,800町歩の開拓地の払下げを受け、「知内村牧畜会社」を設立した。洋式による牧畜農業をおこなうため主として福井県より60余戸の小作を招致し開墾に従事する。社長は村橋久成(明治15年3月辞職)、支配人は尾崎延之助であった。また、技術指導員は開拓使農業寮等現術生卒業で札幌開拓使本庁勤務の永田八左衛門。[知内町史]
7月27日	<ul style="list-style-type: none"> ・渡島国津軽郡と福島郡が合併して松前郡が新設。知内村は7月27日松前郡の所轄に入った。このとき福島村の支村だった小谷石が分離して小谷石村となった。[知内町史]
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・知内村と小谷石村が上磯郡に編入され、田中明定は知内村・小谷石村ニヶ村戸長に任命され、知内村に「知内村外一ヶ村戸長役場」が置かれた。小谷石地区の郵便の集配もこのときから始まる。[知内町史]
1882年(明治15年)	
6月12日	<ul style="list-style-type: none"> ・「矢越小学校」が創立。(小谷石神社の拝殿を使用して「知内尋常小学校矢越分教場」として開設)
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・従来申合組合員共有のものだった知内川鮭漁場の一部を村民共有とし、他を個人持ちとして新開漁場の払下げを受けた。[知内町史]
1883年(明治16年)	
7月1日	<ul style="list-style-type: none"> ・「知内小学校涌元分校」(現・涌元小学校)と称して開講式を行う。[沿革誌] ・知内村漁人93人、漁師雇人54人、戸数28戸。小谷石村漁人170人、戸数60戸。[明治十六年函館県統計書]
10月8日	<ul style="list-style-type: none"> ・初代戸長 田中明定が依願退職。その後函館県の地理課雇として彼地にあったが、その職を辞した後、一時知内小学校で教鞭をとった。[知内町史] ・第2代知内・小谷石村戸長 山内歎蔵が赴任し明治18年10月30日まで在任。[文書館所蔵「履歴録」]
1884年(明治17年)	
春	<ul style="list-style-type: none"> ・山田慎は知内村牧畜会社を山田農場と改め、米国から輸入した大型農機具を使用し、当時としては画期的な米国農法による大規模な耕種農業で直営する。[知内町史] ・山田農場の小作人による重内・森越・涌元谷地の開拓が計画される。[知内町史] ・福井県大野郡の林七郎兵衛・西出久吉・高島八百兵衛ほか1名が、函館から重内中央部に下見に入り、入植を契約して福井県にもどる。[知内町史]
8月22日	<ul style="list-style-type: none"> ・明治16年社寺を校舎に使用することが禁ぜられたので、知内小学校は山田慎から無利息で金を借り、補助金を得て旧農協元町支所(元町164番地)に校舎を新築して移転式を行なう。[知内小学校沿革誌]
1885年(明治18年)	
	<ul style="list-style-type: none"> ・林七郎兵衛・西出久吉・高島八百兵衛らが、同志を集めて再び来村し、住居を建てて帰った。[知内町史]
4月1日	<ul style="list-style-type: none"> ・知内村外一か村戸長役場に知内警察分署が置かれたが、翌19年2月の三県一局制の廃止により3月1日廃された。[知内町史]
7月8日	<ul style="list-style-type: none"> ・函館市真砂町(現在の大手町)器械製造所で北海道最初の新造した汽船「矢越丸」の「進水及び運転ぞめの式」が行われた。
10月30日	<ul style="list-style-type: none"> ・第3代知内・小谷石村戸長 伊藤記孝が赴任し明治20年7月4日まで在任。「任函館縣上磯郡知内小谷石両村戸長」と記載。[人事記録綴]
1886年(明治19年)	
	<ul style="list-style-type: none"> ・鮭漁業家37名が親魚漁獲とふ化事業を開始するために知内川鮭漁組合を設立し、大野重康が亀田郡役所へ出頭した。(20年10月設立の許可を得た) [知内町史]
1月26日	<ul style="list-style-type: none"> ・函館県・札幌県・根室県の3県制が廃止され、北海道庁がおかれた。
3月1日	<ul style="list-style-type: none"> ・知内警察分署は、2月の三県一局制の廃止により廃された。

年	月日	できごと
	5月28日	・「戸長伊藤記孝不在筆生工藤祐雄出接ス。此役場ハ知内、小谷石ノ二村ヲ管ス戸数百八十二戸、人口千九十八人ナリ。筆生ノ話ヲ聞クニ当村ハ中ノ川、涌元、上雷、小沼、茅堀 萩砂里、湯ノ尻等ノ字アリ 出稼ヲ業トナス者八十戸ニシテ総数ノ四分ノ三ナリ」〔北海道巡回紀行・巻四〕
	12月	・2支庁を廃止。かわって郡制を施行した。知内村・小谷石村は亀田村に置かれた「亀田外一郡役所」（亀田郡、上磯郡）に入る。
1887年（明治20年）		
	3月	・藤野文蔵が漁業を志して函館から涌元へ移住し大謀網で鮪漁を行なった。 ・林七郎兵衛・西出久吉・高島八百兵衛らは入植の同志を取りまとめたり移住の準備をしたりして、20年3月同志10数戸と海路涌元浜へ上陸した。藤野文蔵の世話になる。〔知内町史〕
	7月	・三輪八之丞が第4代戸長を拝命同時に七飯警察署知内分署長に任命。明治22年まで在任。〔知内町史〕
	12日	・『函館新聞』には「去年競馬会を催し馬匹八十頭出馬、同村未曾有の盛事なりしがきたる八月中また一会催す計画もあるよし。」〔知内町史〕 ※昭和40年頃水田の圃場整備のためスタンドの西側をブルドーザーで起こしたところ、土中から犬釘の着いた太い木杭が掘り出された。競馬場に関連するものと、横山守が語っていた。〔きらく町内会記念誌〕
	10月	・「知内川鮭漁組合」設立の許可を得た。 ・「知内川鮭漁組合」の大野重康が字頃内で、頃内川の流水を利用して砂利層式簡易施設を設け、人工ふ化を試みるが、技術、事業とも不馴れのため22年ふ化場を廃止した。〔知内町史〕
1888年（明治21年）		
	12月	・知内村〔本籍人740人 現住人1,117人 戸数213戸〕。小谷石村〔本籍人350人 現住人359人 74戸〕〔北海道戸口表〕
1889年（明治22年）		
		・「知内川鮭漁組合」はふ化事業を廃止し、以後漁獲のみとしたと『知内町史』にあるが、「さけますふ化場渡島支場知内事業部」発行の資料によると明治25年になっている。
	2月11日	・大日本帝国憲法とともに衆議院議員選挙法が公布。
	3月28日	・道庁雇員外島麗治は松前郡役所へ赴き、双方の申し立てを聞き、その後知内村宇湯の尻に出張し、現地調査をして境界線を決定した。
	4月	・第5代戸長安木劉太郎が赴任。明治24年まで在任。
	8月	・『日本医籍』（明治22年8月忠愛社発行）に「知内村 - 五十嵐泰安」と掲載。
1890年（明治23年）		
		・信仰心の篤かった藤野文蔵により鮪の供養のため「鮪之塚」を建立。（塚石の裏に施主・藤野文蔵 船頭・館 徳蔵と刻字）その後も15年程大漁が続いた。〔知内町史〕
		・文蔵は涌元に約2町歩にわたってスギ苗を植栽し、同34年まで12年間にわたって造林を続けた。本町7か所にわたり29町3反余に達した。本町の本格的な造林第1号。〔知内町史〕
	4月18日	・「知内巡查駐在所」が旧松本旅館（元町193）の隣に置かれた。〔知内町史〕
1891年（明治24年）		
		・第6代知内・小谷石村戸長 高津勝之助が赴任。明治30年7月まで在任。明治30年1月調『北海道廳職員録』に知内小谷石村戸長と記載。
		・業務不振に陥っていた山田銀行の方はついに挽回することもできず、明治24年とうとう解散になり、安田系の第三国立銀行に業務を引き渡して閉鎖した。〔知内町史〕
1892年（明治25年）		
		・木炭製造を営み、財をなした能登谷源治が上雷で1町たらずの作付面積であったが、反収3俵程度の知内初の稲作に成功した。〔知内町史〕
		・真宗大谷派知内説教所が設立。信徒代表が同派函館分院に要請した結果、通称・林屋敷と呼ばれている（重内33番地付近）に立てられた。〔善照寺開基百周年記念誌〕
		・山田農場の優良な乳牛は八雲方面へ移出された。〔知内町史〕

年	月日	できごと
	7月16日	・白坂運也宅を校舎として借用し「知内尋常小学校中ノ川分教場」が開設。(国道より元 - 中村牧場に至る道筋にあった) ・「知内尋常小学校上雷分教場」が開設。[知内学校]
1893年(明治26年)		・木古内から知内、出石までの新道が開削され、知内橋もかけられた。[知内町史] ※知内橋がかかる迄の川越は、元町の橋本勝美宅の裏から渡し舟で対岸に渡った。渡守は砂子間常義父子であった。[知内町史概説]
	6月10日	・浄土真宗大谷派信徒代表が同派函館分院に要請した結果、明治25年重内33番地に設立された「真宗大谷派知内説教所(通称・重内説教所)」が別院から公許。[善照寺開基百周年記念誌]
1894年(明治27年)		・出石からツラツラまで道路が改修される。[町内各部落沿革]
	1月20日	・「知内尋常小学校萩砂里分教場」が開設。八木留吉宅を借り、川村辰夫という人が寺子屋式授業を開始するが、5月付近の火事で類焼したので、芦野多五郎宅に移り授業を行う。[町内各部落沿革]
	3月	・「知内尋常小学校重内分教場」が重内説教所の向かいの現・重内64番地付近で開場した。[知内町史]
	9月14日	・「知内尋常小学校萩砂里分教場」を萩砂里32西側無番地(鈴木栄宅付近)に新築して移る。[知内町史]
	10月17日	・従来知内川の鮭捕獲は引網によったのであるが、野口主任の意見により本町に於て初めての「竹ウライ装置に改めることになった。[知内町史]
	12月	・知内尋常小学校「中ノ川分教場」の新校舎ができ移転。(現中ノ川生活改善センター付近)[開校百周年記念誌中の川小学校]
1895年(明治28年)		・「萩砂里橋」が架けられる。[町内各部落沿革](知内町史では明治27年になっている)
	12月	・重内分教場が「重内小学校」として独立し、翌年3月重内33番地(現 - 重内分校跡)に校舎が新築された。
1896年(明治29年)	7月	・知内郵便局で為替、貯金を始めた。[知内町史]
1897年(明治30年)		・知内村に「衛生組合」が誕生。初代組合長は三輪八之丞(四代戸長)。同年小谷石村に「衛生組合」が誕生し、村上豊松が初代組合長。[知内町史]
		・山田農場および道庁の馬産奨励の措置が次々と講じられるとともに、餌飼鳥谷(善照寺からホクレン石油スタンド付近)に「競馬場」がつくられた。[知内町史]
	7月22日	・第7代知内・小谷石村戸長 上田貢三が赴任。明治34年11月30日まで在任。[人事記録]
	10月	・「郡役所」が廃されるとともに、新しく全道に「19支庁」が置かれる。渡島には函館・亀田・松前の三支庁が置かれ、知内村は函館支庁に属した。支庁が置かれてから行政と警察が分離され戸長が新行政の中心となった。[知内町史]
	11月30日	・教育費の膨張を緩和し校舎狭隘と設備の不完全とを補うため、「知内尋常小学校」が字村中から字坊主石番外地(旧知内小学校跡 - 元町340番地)に新校舎を改築移転し、「重内尋常小学校」及び「上雷分教場」と統合する。[知内町史]
1898年(明治31年)		・この頃の中ノ川は、国道沿いに漁場や家が建ち並び活気に満ちていたが、山の方は家も数えるほどしかなく、しかも点々と散在していた。しかし木古内づきの建川の山麓には、約10軒ちかくの家があって小さな部落をなしていた。が、間もなく農場の方(字上雷)へ移り、その他の家も十勝、日高方面へ移住してほとんど居なくなってしまった。[知内町史]
1899年(明治32年)	3月2日	・「北海道旧土人保護法」公布。
	4月	・「知内村農会」は2月10日の農会令の制定によって、4月に発足をみている。設立当時の会員は276名、会長には第7代戸長の上田貢三が就任。[知内町史]

年 月日	できごと
1900年 (明治33年)	
7月	・ 亀田郡大野村外 15 町村ならびに松前郡福山町外 9 村に一級町村制が実施された。これが本道における自治制のはじめである。上磯村・谷好村・富川村・中野村・清川村が合併して一級町村上磯村が成立。[知内町史]
1901年 (明治34年)	
10月	・ 知内尋常小学校涌元分校は、10月「涌元尋常小学校」として独立。[知内町史]
11月30日	・ 「知内川鮭漁業組合」は知内川鮭漁業区域の一部を請負にし、字村中(元町)の吉本与三郎・同石沢慶吉両名と請負契約を結んだ。[知内町史]
1902年 (明治35年)	
5月14日	・ 柴田兵一が第9代「上磯郡知内小谷石村戸長に任す」39年3月31日まで在任。[人事記録綴]
11月15日	・ 「知内尋常小学校中ノ川分教場」の教室狭隘により同地に増築工事をして、落成式を行なう。[開校百周年記念誌中の川小学校]
12月	・ 上雷にあった雷公神社が、村中の「遙拝所」(菅井製菓付近)に遷座した。その後、今土俵のあるところに移り、昭和36年9月に現在の神社が新築され遷座した。[知内町史]
30日	・ 善照寺が山田農場から土地一町一步の寄付を受け、現在地に総工費2,240円、檀信徒250戸の寄付により本堂を建立し、重内33番地より移転。[善照寺百周年記念誌]
1903年 (明治36年)	
10月	・ 知内尋常小学校に「御真影奉安所」(煉瓦造、1棟1坪)と「運動場」(40坪)を新築する。
29日	・ 遭難…東海丸が吹雪のため進路を誤り、矢越岬でロシアのフログレス号と衝突し、乗客の大半が死亡するという事件があった。[知内町史]
11月27日	・ 藤野文蔵は明治36年11月27日鮪に恵まれてその生涯を閉じ、同年12月20日長男宇三郎が家督を相続した。[知内町史]
1904年 (明治37年)	
2月10日	・ 日露戦争:日本とロシアが相互に宣戦布告する。
3月31日	・ 知内尋常小学校中ノ川分教場が認可独立して「中ノ川尋常小学校」となった。[開校百周年記念誌中の川小学校]
5月	・ 日露戦争が勃発し、津軽海峡に出没する露艦警備のため涌元神社上の山に「函館要塞司令部涌元監視所」がおかれ、その山を「兵隊山」と呼ぶようになった。
1905年 (明治38年)	
3月31日	・ 知内尋常小学校萩砂里分教場が認可独立して「萩砂里尋常小学校」(現-湯ノ里小学校)となった。
4月1日	・ 知内尋常小学校に「知内実業補習学校」が付設された。
5月17日	・ 山田慎が経営する濤沸(網走)の軸木工場が全焼。[北海道開拓功労者集録]
27日	・ 「日本海海戦」—日本海軍の連合艦隊と、ロシア海軍のバルチック艦隊との間で28日まで戦われた海戦。
9月5日	・ ロシアとの間でポーツマス条約を調印。日露戦争終結。
1906年 (明治39年)	
4月1日	・ 小谷石を合併して2級町村制を施行した。戸口は529戸・3,111人。役場所在地は、坊主石1番地(現-元町351・352)。[知内町史・『知内村史』大正7年]
	・ 第9代知内・小谷石戸長 柴田兵一が初代村長に就任。42年9月病死。[湯ノ里小学校沿革誌]
	・ 従来の「総代人制度」が廃止され、新しく「町村会議員制度」が設けられ、村会議員選挙を実施。定員は10名、任期は2年で全員同時改選であった。[知内町史]
1907年 (明治40年)	
1月	・ 「重内分教場」は重内部落民の強い要望で、校舎を現在の分校跡地(重内33番地)に移し、新築竣工して再開したが、小学校令の改正により、5、6年は本校へ通うことになった。[知内町史]
1908年 (明治41年)	
	・ 小谷石影泊沖で「咸応丸」が沈み、19名の死者を出している。[知内町史]

年	月日	できごと
	3月 7日	・「青函連絡船」が開業する。航路の名称は青函航路、営業キロ上の距離は 113.0km で、津軽海峡という特定海域（国際海峡）を横断するため、他の国鉄連絡船とは異なり沿海航路扱いとされていた。
1909年（明治42年）		
	2月 8日	・重内で林七太郎が造田を始めた。〔農協設立 30 周年記念誌〕
	9月	・「浄土真宗（東本願寺派）善照寺」が公称認可され仁礼法道が開基住職。〔善照寺開基百周年記念誌〕
	11月 26日	・柴田村長が病死したため 11 月 25 日まで湯川徳太郎書記が村長代理を務める。〔明治四二年知内村会議決書綴〕
	11月 26日	・第 2 代村長 吉沢福彌が赴任。44 年 11 月まで在任。〔湯ノ里小学校沿革誌・明治四二年知内村会議決書綴〕
1910年（明治43年）		
		・頃内川で大水が出てノダップへの橋が流された時に、本流が枝川になりそれまで枝川だった川が本流になり、川の流れが現在のように変わった。〔町内各部落沿革綴〕
	6月 16日	・「知内村鮭人工ふ化場設置」設置が認可され、技術員渡辺子之次郎が設計に従事し、実地踏査の結果川口から約 2 里半上流の字袋沢が最適地であるとして、同所にふ化場を設置することにした。〔知内町史〕
	8月	・内務省の指導で中央に結成された地方改良組織である「中央報徳会」の末端として萩砂里（現・湯ノ里）に報徳会が設立された。会員 25 名。〔知内町史・函館支庁管内町村誌 - 渡島教育会編〕
	11月	・「帝国在郷軍人会知内分会」が帝国在郷軍人会設立と同時に創立された。会員 90 名。〔函館支庁管内町村誌 - 渡島教育会編〕
1911年（明治44年）		
	2月	・前田家は泉沢（木古内町）に前田家林業所を設けスギ、トドマツ、ヒバの大規模な造林にのりだした。前田家林業所長に広瀬謙次郎をむかえた。〔知内町史〕
	4月	・第 3 代村長 上野寛が赴任。11 月まで在任。〔知内の歩み〕
	5月	・「知内村教育会」が設立された。会員数 90 名。「事業ノ大要トシテハ教育ニ関スル諸調査及研究ヲナセリ」〔函館支庁管内町村誌 - 渡島教育会編〕
		・涌元に「郷友会」が、親睦をはかり互助和衷を目的として創立された。会員 40 名。〔函館支庁管内町村誌 - 渡島教育会編〕
		・「重内共立会」が、交誼を厚くし風紀の維持に尽力し、積立金をすることを目的として設立された。会員 27 名。〔函館支庁管内町村誌 - 渡島教育会編〕
	7月 6日	・長浜農場に変わってからの支配人は、白谷半次郎であった。〔知内町史〕
	12月 28日	・村長代理に就任した小野総次郎は、当時の知内村の窮状を函館支長河毛三郎に訴えるため、『知内村救済意見三議申請』を提出した。〔知内町史〕
1912年（明治45年）		
	1月 1日～7月 30日	（大正元年）
	7月 30日～12月 31日	
	6月	・重内に「知内中年会」が設立された。農事の改良を目的とし、植樹木材の払下試作等を主な事業。会員は 25 名。〔函館支庁管内町村誌 - 渡島教育会編〕
	7月 30日	・明治天皇崩御
	8月	・第 5 代村長 亀谷供次郎が赴任。3 年 12 月まで在任。〔湯ノ里小学校沿革誌〕
		・「松前鉄道期成同盟会」が結成され、建設促進運動を始めた。
	9月 23日	・災害…23 日におきた暴風で浜にうちあげられた死体は 11 人、生死不明約 40 人を数えた。その他にも中ノ川に流失した家屋 1 2 戸、浸水家屋約 200 戸もあり、近村中知内村が最も惨状を極めた災害であった。〔知内町史〕
	11月 22日	・木古内にあった「種付所」は本年廃止し、明年より当村に設置する〔明治 44 年知内村村会議録 - 大正元年書面会議〕
	12月 2日	・翌年 1 月 31 日まで矢越小学校に「青年夜学会」を開設。
1913年（大正2年）		
		・大正元年まで木古内にあった「種付所」を、知内村字重内（善照寺向かい）に移した。〔知内町史〕
	7月	・資本金 10 万円をもって「合資会社知内農場」を設立。代表社員は後志国古宇郡泊村武井忠吉、任にあたり長浜農場所有土地全部および付属施設全部を買収。〔知内村誌〕

年 月日	できごと
12月	・小谷石に「風規改善、学術の研究、勤儉治産、公共事業」の四つを目的とした「同和会」が結成。会員数約90名。満13歳以上20歳未満の者が、毎年冬期二ヶ月の間夜学会を開き、生業の余暇を以ていろいろな講習を実施している。〔函館支庁管内町村誌 - 渡島教育会編〕
1914年（大正3年）	
7月28日	・第1次世界大戦勃発。1918年11月11日まで続く人類史上最初の世界大戦。
12月	・第6代村長 千葉忠次郎が赴任。5年7月21日まで在任。〔湯ノ里小学校沿革誌〕
1915年（大正4年）	
	・災害…暴風雨により河川が氾濫し農作物に大きな損害があったが、人畜死傷はなかった。〔知内町史〕
	・斎藤百貨店（現・斎藤商店）が創業する。
5月12日	・「涌元小学校校舎新築落成」するが大正11年5月10日全焼。
12月9日	・苦前巖事件（とままえひぐまじけん）は、三毛別巖事件（さんけべつひぐまじけん）とも呼ばれる。巖（ヒグマ）が数度にわたり民家を襲い、開拓民7名が死亡、3名が重傷を負った事件。
1916年（大正5年）	
	・専業245戸のうち自作農は16戸、小作農184戸、自作兼小作農45戸。〔知内村誌〕
7月21日	・第7代村長 中山長義が赴任。10年2月15日まで在任。〔湯ノ里小学校沿革誌〕
1917年（大正6年）	
	戸数は721戸、人口男2,311人、女2,159人、総計4,470人。 重内に腸チフス患者が発生した。ただちに重内番外地の木造平屋建一棟を買収して「隔離所」にあてた。〔知内町史〕
3月3日	・「知内村牧畜会社」を設立した山田慎が死去。（67歳）〔北海道開拓功労者集録〕
5月28日	・「日進青年会」が風儀の改善、学術の研究、身体の鍛練、智徳精神の修養等を目的として、村中（現一元町）に設立された。会員150名、満14歳以上25歳以下の青年で組織。〔函館支庁管内町村誌 - 渡島教育会編〕
6月23日	・「萩砂里青年会」が、「専ら会員ノ智徳ヲ研ぎ、風俗ノ改善、知識ノ交換ヲ図リ」ために設立された。〔函館支庁管内町村誌 - 渡島教育会編〕
27日	・「涌元青年会」が、満14歳以上20歳迄の男子を以って組織し、「身体ノ鍛練、精神ノ修養ヲ目的トシ」て設立された。会員49名。〔函館支庁管内町村誌 - 渡島教育会編〕
12月	・戸数は721戸、人口男2,311人、女2,159人、総計4,470人。
1918年（大正7年）	
2月	・『知内村誌』が書かれる。役場所在地が「坊主石1番地（現 - 元町351、352）」
8月	・「知内橋落成渡橋式」が行われた。明治26年にかけてられた知内橋が老朽化したため工費1万4千余円で50有間の釣橋を架けた。〔知内町史・函館新聞大正7年8月22日〕
8月1日～	・「開道50年記念博覧会」1869年（明治2）8月15日に蝦夷地を北海道と改称して50年目
9月19日	になるのを記念して開催された、北海道初の本格的な博覧会。
1919年（大正8年）	
4月1日	・「知内信用組合」（知内農業協同組合の前身）が発足した。組合長には中山長義村長が就任し、事務所を役場内に置いた。組合員は、農、漁、商工の任意加入制で当初組合員は103名であった。〔『函館新聞』（大正8年4月20日付）〕
1920年（大正9年）	
	・大正9年の『北海タイムス』の記事に「樺太鶴域村毛森政次郎氏は、農民募集の為来村し知内村より十戸、木古内村より十九戸を募集し、ストーブ其他防寒器具多数買入れ出発せり。因に移住民は十月十日頃出発渡樺の予定なりと。」とある。
10月1日	・第1回国勢調査 873世帯 男2,590 女2,243 計4,833人
1921年（大正10年）	
2月15日	・第8代村長 斎藤朴が赴任。7月31日まで在任。〔退職吏員履歴書〕
8月1日	・第9代村長 佐々木菊松が赴任。昭和2年2月28日まで在任。〔湯ノ里小学校沿革誌〕
1922年（大正11年）	
	・『帝国医師名簿』（大正11年）に「知内村字小谷石 和田馨」と記載。

年	月日	できごと
	7月25日	・「木古内煉乳工場」構内において開かれた「上磯牛馬品評会」で本町の斉藤倉三の白赤三歳が三等に入賞。[知内町史]
	8月1日	・函館区に市制が施行され函館市となり、函館支庁が「渡島支庁」と改称。
1923年(大正12年)		
		第22回北海道会は、知内・福島間の海岸道路のうち涌元・小谷石間一里の新設道路の開削を採択した。[知内町史]
	1月	・木古内村、知内村、茂別村は「木古内外二ヶ村電気組合役場」を設立し、頃内川に水力発電所を設ける工事等の事業を開始した。[知内町史]
	9月1日	・「関東大震災」発生。
	10月26日	・「木古内外二ヶ村電気組合役場」は、管理者に木古内村長田中謙治を任命して運営に当たった。[知内町史]
1924年(大正13年)		
	7月31日	・「函館要塞」が汐首、大間まで拡張され、津軽海峡全体をカバーすることになったため名称も「津軽要塞」と変更された。[知内町史]
	11月	・頃内川の流水を利用して発電所を設ける工事が完成。操業を開始したが採算がとれず15年に渡島電灯株式会社に譲渡する。[知内町史]
1925年(大正14年)		
	4月	・治安維持法と男子のみの普通選挙法が成立。
	9月17日	・経費5万8,000円を注ぎ大正13年度完成を見た「小谷石道路開通式」と「大漁祝賀会」を開催。[知内町史]
	10月1日	・第2回国勢調査 910世帯 男2,921 女2,499 計5,420人
1926年(大正15年) 1月1日から12月25日(昭和元年) 12月26日から12月31日		
	3月18日	・「木古内外二ヶ村電気組合役場(知内・茂別)」は、電気事業を「渡島電灯株式会社」に譲渡するが、昭和2年主務官庁から譲渡の許可が得られず同年3月から再び電気組合によって事業を始めることになった。[知内町史]
	7月	・知内尋常高等小学校にも夜学の「知内青年訓練所」が付設され軍事訓練などが行われる。[知内町史]
	12月25日	・大正天皇崩御。摂政裕仁親王が践祚する。
	26日	・昭和と改元(この日から年末まで昭和元年)。
1927年(昭和2年)		
		・涌元に漁場を持っていた上磯町の種田丸四郎が、魚の供養のため涌元・小谷石海岸道路の狐越岬付近に「南無妙法蓮華經」の法塔を建立。[町内各部落沿革誌]
	2月28日	・第10代村長 樫山忍が赴任するが、11月15日解職。[湯ノ里小学校沿革誌]
	3月	・「木古内外二ヶ村電気組合役場」は、大正15年電気事業を渡島電灯株式会社に譲渡したが、主務官庁から譲渡の許可が得られなかったので再び事業をおこなうことになった。[知内町史]
	11月15日	・尾形正男が第11代村長として赴任。昭和5年12月18日まで。[湯ノ里小学校沿革誌]
1928年(昭和3年)		
	2月20日	第16回衆議院議員総選挙は、普通選挙法に基づく最初の総選挙であるので、別名第1回普通選挙。
	7月17日	・普通選挙による第1回の村議会議員の選挙を施行する。[知内町史]
	10月	・森町の木村公三郎が字湯ノ里の豊富なブナ材・雑木に目をつけ、現・斉藤製作所の地に小規模ながら木工場を建設し、単板製造と製材を開始した。[町内各部落沿革誌]
	11月1日	・北海道煉乳株式会社は「大日本乳製品株式会社」に引き継がれ、本町の生産乳の主な供給先であった木古内工場は同社の経営下に入った。[知内町史]
1929年(昭和4年)		
		・『日本医籍録』(昭和4年)に「小谷石 間宮光一」「知内村村中 朝廣嘉兵衛」が掲載。
		・「渡島自動車株式会社」は商号を「木古内乗合自動車株式会社」と改めた。7年からトラックの運送も始めた。[知内町史]
	1月15日	・「女子連合青年団」の発会式があった。[昭和五年議決書綴]
	2月21日	・村会では、自作農創設資金として道庁から31万円の借り入れを申し込むことと「知内村自作農創設維持資金貸付規定」が可決された。[知内町史]

年 月日	できごと
12月 6日	・旧字地番を整理した『上磯郡知内村字中ノ川、森越、重内、元町、上雷、湯ノ里、涌元、小谷石字地番改正調書』
1930年(昭和5年)	<ul style="list-style-type: none"> ・『大日本医師名簿』(昭和5年金原商店)に「知内村 保坂 節」「小谷石村 間宮光一」と掲載。 ・重内の牛乳生産者46名は、販売の合理化と酪農民の自主活動の場を創出するため「重内酪農組合」を結成した。[知内町史]
1月11日	・浜口内閣の井上蔵相による金解禁を実施。その後「昭和恐慌」になる。
10月	・第3回国勢調査 925世帯 男2,983 女2,690 計5,673人
12月18日	・第12代村長 圓子喜四郎が赴任。昭和7年4月5日まで在任。[湯ノ里小学校沿革誌]
1931年(昭和6年)	<ul style="list-style-type: none"> 8月 ・役場庁舎(旧庁舎)の上棟式を行う。所在地元町353番地(旧-坊主石2ノ4) 9月18日 柳条湖事件(満州事変の発端となる鉄道爆破事件)を契機に満州事変が始まる。 10月10日 ・役場庁舎(旧庁舎)が落成し、役場機能が移転する。今まで使用されていた庁舎は、重内部落会が引き取って「青年会館」として使用する。[おもない] 11月11日 ・満州事変に関する「村民大会」が開かれ、在郷軍人、青年訓練所生徒、青年団員、公職者その他一般村民約600名が参加。[知内町史]
1932年(昭和7年)	<ul style="list-style-type: none"> 1月 ・酪農民の組織による「北海道製酪販売組合連合会」が誕生した。 3月 ・知内村信用組合を発展的に解消し、新組織として「知内村信用購買販売利用組合」が誕生した。2月に敦沢旅館にて新組合設立総会を開催。[知内町史] 4月25日 ・第13代村長 山本勇作が赴任。昭和11年11月まで在任。[辞令簿] 10月24日 ・軍部の総力戦体制・国防国家体制づくりに全面的に協力する趣旨で設立された、わが国最初の国家主義的婦人団体「大日本国防婦人会」が結成。
1933年(昭和8年)	<ul style="list-style-type: none"> ・『大日本医師名簿』(昭和8年高崎雅雄編)に「知内村字元町 保坂 節」「字小谷石 杉田直次郎」が掲載されている。 1月 ・「知内村信用購買販売利用組合」は事務所を木造2階建を新築し、字元町164番地に移転。(旧元町事業所)。[農業の歩み・農協の沿革] 3月 3日 ・三陸地震による三陸津波が発生(昭和三陸津波) 7月 ・「三陸災害慰問金」として小谷石女子青年団、同仏教婦人会は3円50銭を寄付。涌元の日連宗教会所信者5名も3円60銭を寄付している。また、三陸日高災害義損金として善照寺参詣人から4円の寄付があった。 10月13日 ・函館商船学校では、校長松崎少将統裁の下に知内村で「知内青年訓練所」生徒と対抗演習を行った。[知内町史]
1934年(昭和9年)	<ul style="list-style-type: none"> 3月21日 ・函館大火発生。死者2,166名、焼損棟数11,105棟を数える大惨事。 9月 ・小谷石港の拡張工事が竣功。
1935年(昭和10年)	<ul style="list-style-type: none"> ・「小谷石漁業協同組合」が昭和10年に認可申請し、認可となっている。[知内町史] 8月 1日 ・知内尋常高等小学校に併設されていた実業補習学校と青年訓練所を合併し「村立青年学校」が新設併置する。[知内町史] 10月 1日 ・第4回国勢調査 1,084世帯 男3,461 女3,160 計6,621人 12月10日 ・萩砂里尋常小学校が「湯ノ里小学校」と改名する。[湯ノ里小学校沿革誌]
1936年(昭和11年)	<ul style="list-style-type: none"> ・『日本医籍録』(昭和11年)に「知内村字元町 保坂 節 保坂保養院」「知内村字小谷石 杉田直次郎 杉田醫院」が掲載されている。 2月26日 ・二・二六事件勃発。陸軍の皇道派青年将校が武力による政治改革を旨とし、下士官・兵を率いて起こしたクーデター事件。 3月 ・「知内漁業協同組合」が知内漁業組合と涌元漁業組合が合併して設立した。[知内町史] 7月13日 ・知内尋常高等小学校の「新校舎落成記念式典」を開催。

年	月日	できごと
	8月 1日	<ul style="list-style-type: none"> 矢越実業補習学校と小谷石青年訓練所が廃止され「矢越青年学校」に併合。[矢越小学校沿革誌] 知内川の「切替工事（治水工事）」に着手する（昭和18年竣工）。約2年間網走刑務所の囚人5、60人が元町193番地に宿泊して工事に従事した。[知内の歩み] 第11回夏季オリンピックベルリン大会開幕（～16日）
	10月	<ul style="list-style-type: none"> 木古内から松前に向けて「鉄道の敷設」を開始。昭和13年12月まで函館刑務所の受刑者80名、職員8名が湯ノ里に泊込作業場を設けて生活しながら鉄道工事に従事した。[戦時行刑実録 / 囚人の労働]
	10日	<ul style="list-style-type: none"> 陸軍特別大演習が札幌で行われ、演習後の地方行幸で知内村の青年学校生徒130人、青年団員174人が函館の柏野練兵場で天皇に拝謁した。[知内町史]
	11月	<ul style="list-style-type: none"> 第14代村長 高柳良雄が赴任。昭和13年9月2日まで在任。[辞令簿] 写真ハガキを製作して村の広報につとめた。
	10日	<ul style="list-style-type: none"> 湯ノ岱から江差まで延伸開業し全通。「江差線」に改称。
1937年（昭和12年）		
	2月下旬	<ul style="list-style-type: none"> 下旬から函館刑務所の職員6名と受刑者50人が「知内川の切替工事」に着工した。これは泊込作業の一隊。[戦時行刑実録 / 囚人の労働] 〈村中の藤谷さんの空屋に泊って切り替え工事にあたっていた。〉（横山守談）
	7月 7日	<ul style="list-style-type: none"> 盧溝橋事件により日中戦争開始。
	10月	<ul style="list-style-type: none"> 消防組とは別に「知内防護団」を編成。伊藤政栄が団長となり、元町と小谷石に防空監視哨を設けて団員が監視にあたった。[知内町史] 「知内村鮭人工孵化場」が国営に移管され、親魚捕獲事業が国から委託された。（親魚捕獲事業は17年をもって打ちきられる）[知内町史]
	12日	<ul style="list-style-type: none"> 福山線の木古内から渡島知内間（8.2km）が開通し、森越・渡島知内駅が開業。福山線初めての開通祝賀会が、同日午前11時半から知内小学校において開かれた。[知内町史]
	25日	<ul style="list-style-type: none"> 村長公宅完成。（平成10年取り壊される）
1938年（昭和13年）		
	4月 1日	<ul style="list-style-type: none"> 「国家総動員法」が公布される。 賃金は1円90銭で枕木とレールを敷く工事にたずさわった。盛土工事は朝鮮人が行なった。盛土の土は、水田の土などを利用。バラスは知内川（玉石は頃内川）から上げた石を利用した。冬に知内川から石をあげ、それを馬そりで運搬して所どころに山状に置いていた。レールも最初は10メートルだったのが20メートルに変わった。尾刺に飯場（現在の場所は不明）があった。[この頃松前線の敷設工事に参加した伊藤信造談]
	6月	<ul style="list-style-type: none"> 日中戦争で初めて戦死した2名の「村葬」が、知内小学校で行われた。[知内町史]
	9月 19日	<ul style="list-style-type: none"> 第15代村長 東出快次郎が赴任。18年5月28日まで在任。[辞令簿]
	10月 21日	<ul style="list-style-type: none"> 福山線の渡島知内から碁盤坂（16km）まで開通。湯ノ里と碁盤坂駅が開業。[知内町史]
	12月	<ul style="list-style-type: none"> 「知内橋竣工渡橋式」実施。[写真] 知内川で黄金狂時代。年末に函館市の某氏が人夫を連れて200円余りの砂金を採取したことに始った。[知内町史]
1939年（昭和14年）		
	1月 15日	<ul style="list-style-type: none"> 横綱双葉山が安藝ノ海に敗れる（連勝69）
	16日	<ul style="list-style-type: none"> 湯ノ里郵便取扱所が開設。初代局長に森谷潔が就任。
	5月	<ul style="list-style-type: none"> ノモンハン事件勃発（9月16日停戦協定締結）
	7月 11日	<ul style="list-style-type: none"> 元町に「富士写真館」（田口写真館）が開業。約2年間で廃業。[知内町史・写真]
1940年（昭和15年）		
	2月 2日	<ul style="list-style-type: none"> 立憲民政党的の斎藤隆夫の反軍演説。この演説により衆議院議員を除名。
	8月 15日	<ul style="list-style-type: none"> 立憲民政党的の解散により議会制民主主義が実質上停止。
	15日	<ul style="list-style-type: none"> 任期満了による村会改選が実施される。定数18名が選出。[知内町史]
	10月 1日	<ul style="list-style-type: none"> 第5回国勢調査 1,108世帯 男3,601 女3,344 計6,945人
	11月 10日	<ul style="list-style-type: none"> 宮城前広場において内閣主催の「紀元二千六百年式典」が盛大に開催。全国の神社で午前10時に浦安の舞が奉納全国で提灯行列・旗行列赤飯用餅米特配。

年 月日	できごと
1941年(昭和16年)	
1月10日	・「大政翼賛会知内村支部」が結成され東出村長が同支部長に推薦。
4月1日	・「国民学校令」施行 ・町内の全尋常小学校が「国民学校」となる。1学級定数は初等科60人、高等科50人以内。湯ノ里と中ノ川国民学校に高等科が併置される。
6月	・中ノ川国民学校の「開校50周年記念式典」を行なう。[開校百周年記念誌中の川] ・「自作農創設記念碑」が昭和11年6月に自作農創設されたことを記念して旧湯ノ里小学校グラウンド向いに建立。文字は当時の東出快次郎村長の揮毫による。[自作農創設記念碑]
12月8日	・「真珠湾攻撃及びマレー作戦」により太平洋戦争が開始。
1942年(昭和17年)	
1月	・「翼賛壮年団」が設立された。
4月30日	・東条英機内閣による翼賛選挙(第21回衆議院議員総選挙の)が実施。政府の戦争遂行政策を支持する候補者を翼賛政治体制協議会が推薦し、非推薦候補には激しい選挙干渉が加えられた。当選議員の8割以上を推薦候補が占めた。[知内町史]
9月	・金属類回収令により中森伊三郎宅の銅像が供出されるため解体式を実施。[知内町史]
11月1日	・福山線の碓盤坂と吉岡間が開通した。渡島福島停車場が開業。[知内町史]
1943年(昭和18年)	
2月20日	・2月20日の毎日新聞の「児童は叫ぶ 叩き壊せ『青い目の人形』」という記事内に文部省国民教育局総務課長が、「もし飾ってあるところがあるならば速やかに引っ込めて、壊すなり、焼くなり、海へすてるなりすることは賛成である。常識から考えて米英打倒のこの戦争が始まったと同時にそんなものは引っ込めてしまうのが当然だろう」という談話を添えている。 ・この頃中ノ川国民学校にあった「青い目の人形」も会議で処分について話し合われたが、ある役場職員の「そんな大人げないことをして戦いに勝っても…」という発言で残されることになったということである。[聞取り]
3月	・「木古内外二カ村電気事業組合」が電気供給事業及び施設財産を北海道配電株式会社に譲渡して解散。19年間にわたる公営事業を終えた。[知内町史]
11日	・「水産業団体系」の制定により「漁業協同組合」は解散されて「漁業会」となり、本町にも知内・矢越の2漁業会が設立された。[知内町史]
5月28日	・第16代村長 鈴木丑之助が赴任。19年2月4日まで在任。[辞令簿]
1944年(昭和19年)	
	・袋沢の孵化場は老朽化がすすみ、雪崩のためふ化室が倒壊し、この年はふ化放流できなかった。 ・バス事業統合によって道南14社が統合し、「函館乗合自動車株式会社」(現・函館バスKKの前身)が生まれた。[知内町史]
1月1日	・明治33年発足の知内村農業会は、昭和18年3月の「農業団体系」制定により1月1日解散。[知内町史]
2月4日	・第17代村長 木村順一郎が赴任。21年11月まで在任。[辞令簿]
10月27日	・戦時農業体制の一層の強化をはかる目的で前年公布施行された「農業団体系」に基づき知内村農会と知内村信用購買販売利用組合が合併、「知内村農業会」が設立された。[知内町史]
1945年(昭和20年)	
5月10日	・斉藤倉三が花崗岩製の「二宮尊徳像」を知内国民学校に寄贈。 ・函館市内の国民学校児童の集団疎開が始まり、本町の温泉や寺院などに宿泊。
7月14日	・函館を空襲した米軍グラマン機は本町にも来襲。涌元沖合の艦船及び青函連絡船
15日	が攻撃され、死傷者がでた。前浜や涌元の漁師が救助船を出す。[聞取り] ・矢越岬の沖合いで第三青函丸という貨物船が沈没。この様子を見ていた小谷石の杉浦ハルは「早朝の薄明かりのため、真っ黒に見えたグラマンが編隊を組んで、カラスみたいにむがって連絡船を襲っていた」と語る。[聞取り]
26日	・ポツダムで、米・英・中(のちにソ連も参加)が発した対日共同宣言いわゆる「ポツダム宣言」を発した。

年	月日	できごと
1945年	8月 6日	・ 広島に原爆投下。
	8日	・ 深夜、ソ連が日ソ中立条約を破棄、日本に宣戦布告。
	9日	・ 長崎に原爆投下。
	11日	・ ソ連軍が日ソ国境を越えて南樺太へ侵攻。25日まで続く。
	14日	・ ポツダム宣言受託を連合国側に通知。
	15日	・ 日本時間正午に昭和天皇の肉声で読み上げられた終戦詔書がラジオで放送される（玉音放送）。日本国民にとっての終戦の日となる。鈴木貫太郎内閣総辞職。
	22日	・ 南樺太（現サハリン）の豊原市でソ連軍による空襲。その後ソ連軍占領。
	9月 3日	・ ソ連軍が日本の北方領土を占領。
	11月	・ 孵化場管理責任者松本千代作が頃内川の下流に仮孵化場を設置し、砂利槽ふ化を試みながら用水調査を行うとともに道水産孵化場技術員の現地調査も実施された。 [知内町史]
1946年（昭和21年）		
		・ 湯ノ里地区に戦後開拓者として8戸入植し、23年にかけて47戸が入植。その後入植したものを含めると62戸に達した。入植地は東菜地区、大学地区、出石地区、湯ノ里地区。入植者の大部分は満州開拓農民、樺太引揚者。[知内町史]
		・ 元町の四元宏の馬小屋を改造して興業を続けてきた興行主・上野克巳が、全面改築して「知内座」としてゴザ敷き約350名収容の村初めての映画常設館を開設。（29年に椅子席に改造して「知内映画劇場」となる）[知内町史]
	11月	・ 第17代木村順一郎村長が公職追放で辞職。藤本富美雄助役が村長代理を務める。[知内町史]
1947年（昭和22年）		
	1月	・ 知内巡査駐在所が「知内巡査部長派出所」（元町197番地）に昇格。[知内町史]
	4月 1日	・ 従来の国民学校を改め小学校と称し、修業年数は第6学年までとなる。高等科は廃止され新制中学校に編入された。
	5日	・ 公職選挙法による第1回選挙で、筒井明松と永田信熊が立候補。永田信熊が当選し第17代村長に就任。[北海道]
	7日	・ 村議会議員選挙の投票が行なわれた。議員定数22名。
	5月	・ 村議会議員互選の結果、伊藤政栄議長、五十嵐蠢爾副議長を選出。戦後初の民主議会が構成され、地方自治の審議と運営が始まる。[知内町史]
	8月 7日	・ 「第1回知内村農業会家畜品評会」が知内家畜市場で開催。[農業の歩み・農協の沿革]
	14日	・ 「農業協同組合」の設立により「知内村農業会」を解散。解散時の組合員数 812名。出資金 76,260円
	10月 1日	・ 渡島知内駅前に木古内警察署「渡島知内巡査駐在所」を設置。元町の「巡査部長派出所」とともに国家地方警察函館警察署第五方面本部の管轄下におかれた。[知内町史]
		・ 第6回国勢調査 1,438世帯 男4,268 女4,387 計8,655人
1948年（昭和23年）		
		・ 「渡島知内部落会（現・渡島知内町内会）」が創立。初代会長に町口新蔵。部落会の地区範囲は福井谷地より知内川大橋までの道沿いに近い居住者とし、創立当時の戸数約250戸。[町内会記念誌えきまえ]
	5月 1日	・ 歯科医西根金五郎が渡島知内駅前吉田精米所を改造して歯科医院を開業した。[えきまえ・知内の歩み]
	6月 12日	・ 村議会が「樺太引揚者住宅建設」を可決承認し、同年直ちに字重内（知内農協事務所前浜）に建設着工した。平家建1棟5戸、計2棟10戸が年内に完成し入居した。[町内会記念誌えきまえ]
	20日	・ 東菜沢に愛知県より水野昇を団長とした開拓団が入植。のぼりに「愛知県北海道地区開拓団」と書かれていた。（橋本ヨネ談）
	7月	・ 「知内村連合婦人会」設立（保坂つた会長）。[記念誌ひまわり]
	8月 14日	・ 昭和19年発足の「知内村農業会」が解散する。[知内町史]
	10月 7日	・ 中学校入口にあった「家畜市場」を重内（現・ライスセンター前職員住宅付近）に移転する。[知内町史]
	12月 1日	・ 「渡島馬匹組合」が解散したため、知内中学校の敷地内の「種馬繋留建物」を知内村農業協同組合が取得し、経営を引き受けることになった。[知内町史]

年 月日	できごと
1949年(昭和24年)	
4月	<ul style="list-style-type: none"> 各町村に「農業改良相談所」が設置。 知内・矢越両漁業会が解散準備総会を開き、矢越漁業会は解散し、矢越漁業協同組合(仙場末太郎組合長)を設立。[知内町史]
7月	<ul style="list-style-type: none"> 知内漁業会が解散し、「第一知内漁業協同組合」(西山仁三郎組合長)と「知内漁業協同組合」(網野広三郎組合長)が設立された。[知内町史]
8月	<ul style="list-style-type: none"> 知内村の「農業改良普及相談所(後の農業改良普及所)」は、村役場産業課の机と並べて設置された。[4Hクラブ創立50周年記念誌] 西尾嘉明普及員が赴任。各地域の若い農業青年の家庭を訪問し、昼夜の話し合いを重ね「4Hクラブ」の基盤を創る。[4Hクラブ創立50周年記念誌]
10月18日	<ul style="list-style-type: none"> 「第1回知内村畜産品評会」が元町の知内小学校グラウンドで開催。(昭和42年終了)
19日	<ul style="list-style-type: none"> 知内中学校入口に設置されていた「家畜市場」が、現在のライスセンター前にある農協職員住宅附近に移転した。[農業の歩み・農協の沿革]
1950年(昭和25年)	
4月	<ul style="list-style-type: none"> 「知内村連合婦人会」(保坂つた会長)の要望により、馬車の製造修理をしていた齊藤馬車屋(現・消防署)の家屋を改修し、「知内洋裁学院」を開校する。[町史概説] 「上雷酪農クラブ」(臼井一郎会長)が8名で「4Hクラブ」活動を開始する。[知内村弘報昭和27年3月5日]
5月	<ul style="list-style-type: none"> 涌元で船揚場を設置したとき「銅鏡(和鏡)」を発見。現在郷土資料館で展示。
6月25日	<ul style="list-style-type: none"> 朝鮮戦争勃発。北緯38度線付近で武力衝突。
10月	<ul style="list-style-type: none"> 第7回国勢調査 1,572世帯 男4,793 女4,806 計9,599人
1951年(昭和26年)	
4月	<ul style="list-style-type: none"> 重内宮農クラブ(加藤勇一会長)が7人、森越4Hクラブ(島田善二郎会長)が4人の会員で「4Hクラブ」の活動を開始する。[知内村弘報3月5日・4Hクラブ創立50周年記念誌]
23日	<ul style="list-style-type: none"> 任期満了にともなう村長および村議会議員選挙が行われ、村長は無投票で永田信熊が再任された。[知内町史]
5月5日	<ul style="list-style-type: none"> 村議会議員互選の結果、伊藤政栄議長、五十嵐轟爾副議長を選出。
8月5日	<ul style="list-style-type: none"> 「知内村弘報」が創刊された。[知内町史・知内村弘報]
9月8日	<ul style="list-style-type: none"> 「サンフランシスコ講和条約(対日講和条約)」に調印。
12月20日	<ul style="list-style-type: none"> 懸賞募集「知内音頭」歌詞の当選が発表。第1位に涌元の福井喜健が選ばれた。[知内村弘報12月]
1952年(昭和27年)	
4月23日	<ul style="list-style-type: none"> 「家畜人工授精所」が重内14番地(現・電話交換局の裏)の「家畜診療所」隣に新築開設。[農協設立50周年記念誌]
5月25日	<ul style="list-style-type: none"> 勝六を敬愛する一同によって「牛島勝六翁句碑建立委員会」を立ち上げ、涌元-小谷石間の海岸道路に「草枕背々に春の月ありて」という句碑を建立。[葦牙S27.7月号](現在は小谷石地区のイカリカイ駐車公園に移設)
6月	<ul style="list-style-type: none"> 「湯の里酪農研究会」(中原鉄男会長)が「4Hクラブ」の活動を開始。[知内村弘報3月5日・4Hクラブ創立50周年記念誌]
8月8日	<ul style="list-style-type: none"> 「農漁村青少年クラブ(4Hクラブ)」の活動が活発になり、中ノ川地区でも「中の川愛農同志会」(小沢正市会長)が発足した。
9日	<ul style="list-style-type: none"> 元町地区では「元町新栄研究会」(手塚勝美会長)が「農漁村青少年クラブ(4Hクラブ)」として発足した。すでにある上雷、重内、湯ノ里と合せて5つの4Hクラブが結成されている。[知内村弘報9月20日]
9月	<ul style="list-style-type: none"> 「知内土地改良区事務所」が村役場内から重内14番地(現・上村宅北隣)に移転。[知内川]
10月29日	<ul style="list-style-type: none"> 渡島知内に「渡島知内納税貯蓄組合」(町口新蔵会長)が誕生。重内の善照寺で創立総会を開いた。[知内村弘報11月5日]
12月20日	<ul style="list-style-type: none"> 「土の会」が湯ノ里開拓地に結成された。会員は5名。これからの農業を営むために真剣に研究を行なおうとする会。[知内村弘報昭和28年1月5日]
1953年(昭和28年)	
	<ul style="list-style-type: none"> 「知内村4Hクラブ連合会」(帰山宗一会長)が発足する。[4Hクラブ創立50周年記念誌]

年	月日	できごと
	1月 6日	・ 知内村 4H クラブの「第 1 回プロジェクト並びにデモンストレーション実績発表大会」(共催: 知内 4HC 協議会・村役場・農業改良相談所) が知内中学校で開催。出場資格は村内 5 つのクラブ員。[しりうち村弘報 2 月 5 日]
	4月 1日	・ 「北海道木古内高等学校知内分校」は「上磯郡知内村立北海道知内高等学校」と改称(指令告示北海道教育委員会・第二種高等学校)して独立。[知内町史ほか]
	9月 13日	・ 「知内村社会福祉協議会」が発足する。
	11月 8日	・ 福山線が松前まで開通。松前駅が開業。福山線が「松前線」と改称。
1954 年 (昭和 29 年)		
	1月 9日	・ 昨年 11 月末再発足した「前浜青年団」が総会を開いて団長に大野政次を選出。[しりうち村弘報 2 月]
	6月 17日	・ 「知内村立保育所」が知内村連合婦人会(保坂つた会長)により「知内和洋裁学院(現・消防署)」に開設され、開所式を行なう。設置主体は知内村で、経営は連合婦人会。5 人の保母が世話にあたっている。[知内村弘報 7 月 5 日・知保園 30 周年しおり]
	9月	・ 「知内座」がゴザ敷きから椅子席に改造し「知内映画劇場」として興業。
	10月	・ 第三元町(涌元谷地)部落会の「青年会館」落成式を催した。[しりうち村弘報 10 月]
	29日	・ 台風 15 号(洞爺丸台風)来襲。家屋や漁船・漁具に大損害を与えた。風速 45 メートル。
1955 年 (昭和 30 年)		
	2月 15日	・ 村長選挙が行われた。候補者は現職の永田信熊村長と戦前の東出快次郎第 15 代村長の対決となり、選挙の結果永田信熊が再び村長に当選。[知内町史]
	4月 30日	・ 知内村議会選挙が行なわれ 22 名が選出。
	5月 7日	・ 村議会議員互選の結果、伊藤政栄議長、松本千代作副議長を選出。
	6月	・ 「社会福祉法人しあわせの家」経営による「知内保育園」が設置。[知保園 30 周年しおり]
	9月	・ 「知内保育園(社会福祉法人しあわせの家)」が開設された。入園者 76 人。[知内町史・役場文書]
	10月	・ 第 8 回国勢調査 1,588 世帯 男 4,889 女 4,846 計 9,735 人
	12月 23日	・ 母子福祉のため「知内母子会」の創立総会を開催。役員選任の結果、石郷岡とも会長(元町)と福島れつ副会長(湯ノ里)で発足する。[知内村弘報 1 月 5 日]
1956 年 (昭和 31 年)		
	10月 1日	・ 公選制を廃止して任命制となった新しい教育委員会が発足。互選で森谷正一教育委員長・村上新平教育委員長代理・福井治教育委員長代理と水原八郎教育長が決まる。[しりうち村弘報 12 月 1 日]
	17日	・ 村議会で松本千代作副議長から高野佐治郎副議長に替わる。
	11月 2日	・ 村立知内高等学校第 1 期工事落成(重内 66 番地)して知内中学校から移転する。[知内町史]
	12月 26日	・ 「知内和洋裁学院」を併合し「村立知内高等学校」に被服科(和裁・洋裁・編物)を設置する。[知内高校三十年史]
1957 年 (昭和 32 年)		
	3月	・ 「知内和洋裁学院」が廃止になる。建物は村に寄付され翌年から「公民館」として使用。[町史概説・記念誌ひまわり]
	4月 14日	・ 「矢越岬灯台」が点灯する。(小谷石から山越えで電柱 23 箇所とケーブル 1,428 メートルを設置)
1958 年 (昭和 33 年)		
		・ 「知内村納税貯蓄組合連合会」が設立。
	9月 25日	・ 「知内橋」掛替え工事にかかわる起工式が行なわれる。[しりうち村弘報 10 月]
	10月 1日	・ 「知内村商工会」が任意団体として設立。事務所は役場内に置き、事務は産業課商工系の書記が行なう。主として国民金融公庫の融資斡旋を行う。[商工会記念誌 20 年のあゆみ]
		・ 水原八郎教育長が退任する。
	20日	・ 大野重樹助役が教育長を兼務する。
1959 年 (昭和 34 年)		
	1月	・ 任期満了に伴う「村長選挙」が行なわれ、永田信熊村長が当選し村政 4 期目を担う。

年	月日	できごと
	4月30日	・知内村議会議員選挙が行なわれ、22名が選出。
	5月	・中ノ川婦人会による「中の川保育所」が開設される。[知保園30周年しおり]
	6日	・村議会議員互選の結果、伊藤政栄議長、林雅雄副議長を選出。
	10月1日	・第3代教育長に川本卯吉が就任する。
1960年(昭和35年)		
	3月28日	・昭和33年秋の豪雨出水で落橋した「新知内橋」(通称・新橋)が木造で竣工した。[しりうち村弘報4月15日]
	7月	・重内原野の550ヘクタール水田化のための道宮軌道客土事業を開始する。[知内町史]
	8月7日	・「第1回村民運動会」を知内中学校グラウンドで開催。新しい村を建設する一翼として明るい健全な郷土社会となることを目的として、知内高校主催で開催していた「村民親睦運動祭」をさらにひろげて村主催で実施することになった。[しりうち村弘報8月1日]
	10月	・第9回国勢調査 1,663世帯 男4,307 女4,553 計8,860人
	12月27日	・池田内閣で「国民所得倍増計画」が閣議決定された。
1961年(昭和36年)		
	1月28日	・第4代教育長に福井治教育委員長が就任した。
	2月27日	・「知内商工会」の登記が完了し、新生商工会が発足した。初代会長斎藤正治。役場内に事務所を置く。[知内商工会20年のあゆみ]
	4月	・「国民年金制度」拠出制年金の開始に伴う保険料徴収が始まる。
	7月	・「国立湯ノ里診療所」が開設された。[知内町史](平成25年度町内会館2階に移転する)
	11月	・自衛隊によって元町から重内にかけて造られた村道元町1号線道路(通称・自衛隊道路)が完成。「竣工記念式典」を知内小学校で行なう。[しりうち村弘報12月]
	12月15日	・公営住宅(後のあけぼの団地)が完成。[しりうち村弘報12月]
1962年(昭和37年)		
		・涌元で「海浜地砂利採取反対部落民大会」が開催された。
	2月9日	・簡易水道が完成した。[知内町史]
	4月	・「北交ハイヤー」が営業を開始。[知内町史]
	7月1日	・浅海増殖事業として知内村漁業協同組合が投石。(7月1日～12月4日)[しりうち村弘報昭和38年1月]
	22日	・矢越漁業協同組合が岩礁爆破。(7月22日～8月21日)[しりうち村弘報昭和38年1月]
	10月	・「知内川砂防改修事業所」が旧知内消防車庫向い(元町)に建築された。[しりうち村弘報1月]
1963年(昭和38年)		
	1月25日	・前年12月に完成した松前線の「重内乗降所」が使用を開始し、祝賀会を開催。[しりうち村弘報1月・知内町史]
	30日	・任期満了に伴う「村長選挙」を実施。永田信熊村長が無投票で村政5期目を担う。
	4月30日	・戦後第5回目の村議会議員選挙が行なわれ、22名が選出。
	5月10日	・村議会議員互選の結果、金沢市之丞議長、斉藤三郎副議長を選出。
	6月29日	・「知内村名誉村民条例」が知内村議会第3回臨時会で可決。
	7月24日	・大雨、函館は雨量112ミリメートル。知内では「重内頭首工」が水害で破壊。[知内町史]
	10月13日	・湯ノ里地区組合員の請願により、同地集乳所前に「購買業務主体の出張所」を新築し、落成式を行なう。初代出張所長に藤谷一夫主事補を任命。当初職員は2名配置。[農業の歩み・農協の沿革]
	11月22日	・ケネディ米大統領がダラス市で暗殺された。
	12月31日	・北島三郎が「ギター仁義」でNHK紅白歌合戦に初出場を果たした。
1964年(昭和39年)		
	1月	・函館バス株式会社の涌元営業所が渡島知内駅に新築移転。[知内町史]
	2月12日	・知内小学校新校舎第1期工事が完工した。校章が制定された。[知内学校]
	4月	・「木古内・知内ライオンズクラブ」が22名の会員で、道南で23番目のクラブとして結成。

年	月日	できごと
	4月15日	・昭和22年から昭和38年(1963)4月まで16年間議会議長をつとめていた伊藤政栄前議長が逝去。昭和3年7月の村議会議員初当選以来、村議とともに消防組頭・衛生組合長・産業組合長・農協組合長などを歴任し、とくに農業畜産の振興、優良組合の育成などに尽力した功績は多大で、それらをたたえ「名誉村民第1号」に推挙し、村葬を執り行った。[知内町史・昭和39年議会決議書の写]
	7月	・遠隔地の生徒を寄宿させるため、現・消防署隣に2階建宿舍が完成(現在は解体撤去)。
	10月10日	・東京オリンピック開会式
	11月20日	・「重内頭首工道宮災害復旧事業竣工式」を挙げる。[知内川]
	12月7日	・「涌元・小谷石線海岸道路」が竣工後、小谷石まで初めて路線バスが走った。
1965年(昭和40年)		
	1月20日	・日本航空がパッケージツアー「ジャルパック」を発売。
	9月1日	・知内村立各中学校の統廃合により新たに「知内村立知内中学校」として認可を受け、知内、涌元、湯ノ里、中ノ川、矢越の各中学校を廃止。知内村立知内中学校の各分教室と改称する。統合中学校初代校長として本吉勝男校長が任命される。[知内中学校沿革誌] ・海岸道路の交通の便が良くなったので、「小谷石巡査駐在所」は廃止となり、代わりに「涌元巡査駐在所」が新設された。[知内町史]
	10月	・第10回国勢調査 1,686世帯 男3,981 女4,120 計8,101人
	11月17日	・プロ野球第1回ドラフト会議が行われる。
1966年(昭和41年)		
	2月20日	・渡島知内在住60歳以上の高齢者をもって、町内初の老人クラブ「渡島知内老友会」を結成した。これを契機に他地域でも「老友会」が発足した。[記念誌えきまえ・知内町史]
	4月	・「知内村老友会(現・知内町老人クラブ連合会)」が発足する。[記念誌えきまえ]
	8日	・知内中学校の各分教室が廃止されて、実質統合中学校としての開校式を知内小学校体育館で挙げる。[知内町史]
	6月25日	祝日法改正、建国記念の日・敬老の日・体育の日が新たに祝日に制定される。
	29日	・ザ・ビートルズ来日。6月30日～7月2日「日本武道館」で公演。
	11月20日	・「母と子の家」(現・郷土資料館展示棟)完成。母と子に対する集団計画指導により健全なる母子関係の向上と健康及び情操の涵養を計る事を目的として新築。[しりうち村弘報11月]
1967年(昭和42年)		
		・函館バス株式会社により小谷石と函館とを結ぶ直通バスが実現。[知内町史]
	1月21日	・永田信熊村長任期満了で退任したため村長選挙が行われ、大野重樹前助役が第19代村長に当選した。[知内町史・知内村広報1月1日号]
	2月28日	・永田信熊前村長の在任中の多大な功績をたたえ、伊藤政栄に続いて2人日の名誉村民の称号を贈った。[知内町史]
	4月28日	・村議会議員選挙が行なわれ、定数22名が選出。
	5月10日	・村議会議員互選の結果、金沢市之丞議長、斉藤三郎副議長を選出。
	6月	・「知内商工会青年部」結成
	8月11日	・「知内町婦人赤十字奉仕団」が結成される。[北海道新聞1967年8月11日]
	10月1日	・町制が施行される。人口8,829人 ・大野重樹村長が町制施行にともない初代町長になる。平成3年2月14日まで。金沢市之丞村議会議長も初代町議会議長になる。 ・知内町章・知内町旗が定められた。 ・「知内町公民館(現・郷土資料館として使用)」完成。 ・知内中学校統合校舎が完成し、10月に校章が制定され、11月に校歌が制定された。
1968年(昭和43年)		
	1月27日	・佐藤栄作首相、国会答弁で「非核三原則」に触れる。
	3月14日	・イデス川河川改修工事により用水減少したためサケマスふ化場を廃止する。[渡島支場知内事業所]
	5月	・昭和35年から要望していた「きらく町内会」の分離独立が、渡島知内町内会及び知内町から正式に容認されて、昭和35年3月以来の宿願が実現し、待望の「きらく町内会」が誕生した。その頃の町内会員は37戸であった。[きらく町内会記念誌]

年	月日	できごと
1968年	5月	・昭和36年から同42年までの間に旧あけぼの団地に公営住宅・教員住宅が計18棟53戸が建設され、これまで渡島知内町内会に所属していたが、分離独立して「あけぼの町内会」を結成発足した。初代会長山津博。[知内町史] (のちにきらく町内会と統合)
	8月18日	・知内町漁業協同組合(初代組合長・成沢松蔵)が誕生。漁業権行使は合併後も基本的に旧漁協ごとに分かれていた。[知内町史]
	9月2日	・開道百年記念式典開催。
	27日	・「知内町交通安全推進委員会」の設立総会を公民館で開催し、正式に発足した。
1969年(昭和44年)	6月	・涌元の佐藤常太郎宅付近の市街地道路舗装工事中に珠洲焼の播り鉢と頭骨が出土。[知内のあゆみ]
	7月13日	・「重内開拓記念碑」の除幕式・記念祝賀式が重内改善センターで行なわれる。
	28日	・「湯ノ里展望台」が松前矢越道立自然公園内に完成した。
	9月13日	・「知内町文化団体連絡協議会」(吉田霊源会長・9団体102人)の結成大会を公民館で開催。[潮騒]
	10月6日	・松前矢越道立自然公園内に完成した「湯ノ里展望台」の開会式を挙げる。
	10日	・巨人の金田正一投手が400勝達成。
	11月21日	・前副議長辞職のため、村議会で宮上仁作が副議長に選出。
1970年(昭和45年)	3月14日	・日本万国博覧会(大阪万博)開幕(～9月13日)。
	8月2日	・名誉町民の永田信熊元村長が、心筋梗塞のため急逝。3日開かれた臨時町議会において大野町長が葬儀委員長となって町葬を行うことを決めた。[知内町史]
	10月1日	・日本国有鉄道(国鉄)が「ディスカバー・ジャパン」キャンペーンを開始。
	4日	・「知内土地改良区設立20周年記念式典」・「道営軌道客土事業竣工式」・「道営土地改良記念碑除幕式」が行われる。[知内町史・知内川]
	12月	・「知内警察巡査部長派出所」が元町197番地から同250番地の国道沿いに新築移転。渡島知内駅前にあった「巡査駐在所」は廃止された。[知内町史] ・知内駅前(現・竹内旅館)で開業していた「保坂医院」が知内町役場の隣の重内14番地に新築移転。[きらく町内会記念誌]
1971年(昭和46年)	1月	・重内地区の宮上隆義会長(後の生産組合長)を中心に、普及所の浅岡主任と農協横山係の指導助言を受け9名で「重内ニラ栽培研究会」を発足した。[ニラ生産組合創立20周年記念]
	23日	・任期満了に伴う町長選挙が告示され、無投票で大野重樹町長が3選する。
	4月25日	・村議会議員選挙が行なわれ、定数22名が選出。
	27日	・「重内ニラ栽培研究会」の9名で、品種「大葉」の試験栽培を開始。(ビニールトンネル被覆栽培を69アール)[ニラ生産組合創立20周年記念]
	6月15日	・村議会議員互選の結果、林雅雄議長、谷口力副議長を選出。
	8月15日	・ニクソン・ショック(ドル・ショック)を受けて、28日から変動相場制に移る。1949年4月11日以来の1ドル=360円という為替レートが終了。
	31日	・「上雷生活改善センター」が完成。(山村振興特開事業)
	9月	・山村開発センターと役場庁舎が一体となった総合施設が完成。「町民センター」と呼ばれる。[知内町史]
1972年(昭和47年)		・国道228号線元町付近が改良工事で直線化するとともに町内の国道は、全線舗装が完了する。[知内町史]
	1月20日	・第11回冬季オリンピック札幌大会(札幌オリンピック)の聖火が函館に上陸後知内町を通過。
	25日	・昭和46年度第1回重内ニラ栽培研究会通常総会(宮上隆義会長・8戸)を開催。[ニラ生産組合創立20周年記念]
	2月3日	・第11回冬季オリンピック札幌大会開催。2月13日まで。
	3月4日	・町議会議員たちは、前年の町議会議員選挙無効の裁決に「不服申し立て」の訴訟を起こしていたが、話し合いの結果、最高裁への上告取り下げを申し合わせ、受理された。[知内町史]

年	月日	できごと
1972年	4月 1日	<ul style="list-style-type: none"> 「渡島西部事務組合」を松前・福島・木古内とともにを結成し、知内支署長に白旗幸忠が就任した。[知内町史・知内の歩み] 昭和27年湯ノ里駅に設置された「湯ノ里巡査駐在所」が廃止となる。[知内町史] 「知内町季節保育所（中ノ川・上雷・重内）」が開設される。[知保園30周年しおり] 「第二次沿岸漁業構造改善事業」がスタートする。[知内町広報1月]
	7日	<ul style="list-style-type: none"> 昭和46年4月25日町議選の不在者投票用紙焼き捨て事件による再選挙が執行。22人の議員が選ばれる。[知内町史]
	17日	<ul style="list-style-type: none"> 町議会議員互選の結果、林雅雄議長、村上政雄副議長を選出。
	7月	<ul style="list-style-type: none"> 「町民センター図書室」が町民センター3階にオープンする。蔵書数は約1,000冊の北島文庫に元公民館図書約1,000冊を加えた図書。[知内町広報7月]
	10月 1日	<ul style="list-style-type: none"> 自動車の初心者マークが制定。
1973年（昭和48年）		
	4月15日	<ul style="list-style-type: none"> ニラの府県の代表品種である「グリーンベルト」を導入した。[ニラ生産組合創立20周年記念]
	6月18日	<ul style="list-style-type: none"> 「町民プール」が町民センター裏（重内21番地）にオープン。
	8月 1日	<ul style="list-style-type: none"> 指定金融機関が「北海道銀行木古内支店」に決まり取扱を開始する。
	9月24日	<ul style="list-style-type: none"> 23日からの集中豪雨により小谷石地区の家屋の浸水・全半壊は、集落250数戸の8～90パーセントにも達するという壊滅的な大被害を受け、災害救助法が適用される。（死者4人、行方不明4人。住宅全壊、98戸、同半壊24戸、流失漁船52隻、被害総額22.8億円）[知内町史・こたにいし]
	10月17日	<ul style="list-style-type: none"> 第4次中東戦争でオイルショック・モノ不足・大手商社の買い占め。
	11月	<ul style="list-style-type: none"> 元町「ひまわり団地」が完成。消防署横（現・中央公民館向い）に「消防署員宿舎」完成。旧役場庁舎跡に「教員住宅」4戸が完成。[広報しりうち11月]
1974年（昭和49年）		
	2月11日	<ul style="list-style-type: none"> 「知内危険物安全協会」（谷口力会長）が設立。事務所は知内消防署内に設置。[知内町広報3月4日号]
	4月 1日	<ul style="list-style-type: none"> 「町立湯ノ里保育所」（増田幸三郎所長）が1間口55人で開設。[知内の歩み]
	5月 1日	<ul style="list-style-type: none"> 第5代教育長に田島隆 - 前渡島教育局義務教育指導班主査が就任する。
	11日	<ul style="list-style-type: none"> 「森越遺跡」は7月16日まで発掘調査がおこなわれ、縄文時代前期・後期の竪穴住居跡17戸と多数の遺物が出土。（高松宮様がご来訪）
	21日	<ul style="list-style-type: none"> 「共同育成牧場」に初めて153頭の乳牛が入牧した。[農業の歩み・農協の沿革]
	9月	<ul style="list-style-type: none"> ホタテガイ養殖を開始。（1980年代前半頃までは丸籠による養殖の他、「地時き方式」も試験的に並行して行われていた）
	10月14日	<ul style="list-style-type: none"> 巨人の長嶋茂雄選手が後楽園球場の対中日ダブルヘッターを最後に引退。
	12月16日	<ul style="list-style-type: none"> 知内町漁業協同組合と青函生コン工業・安岡建設工業・姫の湯観光・筒井産業・大野運送・渡島建材の6業者が「公害防止協定」を締結した。[広報しりうち1月]
1975年（昭和50年）		
		<ul style="list-style-type: none"> 「緑と陽光の溢れるまち」をめざした第1次知内町建設総合計画が策定される。
	1月19日	<ul style="list-style-type: none"> 任期満了に伴う町長選挙が告示、無投票で大野重樹町長が4選する。[知内の歩み]
	27日	<ul style="list-style-type: none"> 昭和49年度第4回重内ニラ栽培研究会通常総会（宮上隆義会長・8戸）を開催し、名称を「知内町ニラ生産組合」に変更。[ニラ生産組合創立20周年記念]
	3月 1日	<ul style="list-style-type: none"> 1932年の「産業組合」創立以来継続してきた「家畜人工授精事業」を廃止する。[農業の歩み・農協の沿革]
	6月	<ul style="list-style-type: none"> 「緑と陽光の溢れるまち」をめざした第1次知内町建設総合計画が策定され、定例町議会で議決。
	8月	<ul style="list-style-type: none"> 北海道電力株式会社から道南火力発電所建設構想に基づく建設候補地の一つとして立地可能性調査をしたいとの申し入れがあった。[知内町史]
	3日	<ul style="list-style-type: none"> 「重内展望台」が重内神社山に完成（構口建設が建設寄贈）。210段の階段。
1976年（昭和51年）		
	3月 4日	<ul style="list-style-type: none"> 北電から火力発電所建設候補地立地可能性調査の申し入れにより住民各層の代表者で構成する火力発電所立地に関する調査のため「知内町火力発電所調査委員会」を発足する。[知内町史]
	28日	<ul style="list-style-type: none"> 町議会議員選挙が行われ、定数22名が選出。投票率93.47%。

年	月日	できごと
1976年	4月13日	・町議会議員互選の結果、林雅雄議長、村上政雄副議長を選出。
	8月15日	・「第1回町民運動会」が知内小学校グラウンドで開催。25種目の競技に約千人の人々が参加する。[広報しりうち9月]
	21日	・雷公神社祭典の夜を彩ろうと「知内町役場職員組合青年婦人部」が、初めて「ねぶた」をくり出した。
1977年（昭和52年） 町制施行10周年記念の年		
1977年	2月10日	・「火力発電所と環境について」講演会を知内町火力発電調査委員会主催により知内町公民館で開催する。[広報しりうち2月]
	4月14日	・「町立知内幼稚園」（大野文比古園長）が、5才児1年保育の2間口（43人）、教諭2人で開園する。[知内の歩み]
	8月7日	・有珠山が噴火活動を開始（翌年10月27日まで）。
	15日	・「町制施行10周年記念町民大運動会」が知内小学校グラウンド開催され、午後3時終了。午後7時知内川で灯ろう流しをはじめると同時に花火が夏の夜空を彩った。[
	9月5日	・国民栄誉賞が創設され、第1回目の受賞者に王貞治選手が選ばれた。
	21日	・雷公神社祭典の宵宮に、「町制施行10周年記念事業」として初の「千人パレード」を実施。渡島知内駅から知内小学校まで練り歩いた。[広報しりうち9月]
	25日	・「知内町高齢者の集い」が知内小学校（元町）体育館で開催。[広報しりうち9月]
	11月1日	・湯ノ里地区で電話が自動化される。
	3日	・「町制施行10周年記念行事および記念式典」が知内中学校体育館で挙行する。[広報しりうち11月]
		・千軒に「ゴミ焼却施設」が完成し、町内の家庭ゴミの集荷と焼却が始まる。[広報しりうち12月]
	12月21日	・北電が計画している道南火力の立地点が本町に正式決定。それを受けて知内町長の諮問機関である「知内町火力発電調査委員会」は、その是非を審議して答申することとなった。[知内町史]
	1978年（昭和53年）	
1978年		・知内町漁協の西山昭利組合長は、宮城県石巻市のカキ養殖業者と交流し、新たな養殖業種としてカキ養殖の導入を行う。
	2月1日	・1977（昭和52）年「農村工業導入促進法」に基づき元町に工業団地を造成することになって誘致された三洋食品株式会社北海道知内工場（千葉県市川市）が操業を開始する。知内町の企業誘致第1号。
	3月13日	・「知内町火力発電調査委員会」が地区別懇談会を開催する。
	4月26日	・全国町村会より知内町が「優良町村」として表彰された。[広報しりうち5月]
	5月14日	・「湯の里1遺跡」発掘調査を開始。6月26日終了。
	31日	・「知内町火力発電調査委員会」が火力発電所建設に基本的に同意できるとの答申を提出。[広報しりうち6月]
	6月1日	・企業誘致第1号の三洋食品株式会社北海道知内工場の落成披露パーティが行われた。[知内町史]
	7月20日	・「知内町防犯協会」が設立総会を開催。（木古内地区防犯協会より独立）[広報しりうち8月]
	8月8日	・知内町漁業協同組合が三洋食品（株）と公害防止協定を締結する。[広報しりうち9月]
	12日	・日中平和友好条約調印。
	16日	・町民センター内で「歯科診療所」がオープンする。[広報しりうち9月]
	10月23日	・向上雷橋（永久橋）の竣工式・渡橋式・記念式典が行なわれた。[広報しりうち11月]
	12月	・知内町漁業協同組合（西山昭利組合長・組合員167人）と北電が漁業補償問題で合意する。
20日	・「湯ノ里緑地公園」が完成する。	
1979年（昭和54年）		
1979年	1月21日	・任期満了に伴う町長選挙を告示。無投票で大野重樹町長が5選する。[知内の歩み]
	25日	・北電の知内火力発電調査事務所は、「知内発電所建設準備事務所」と改め、着工に向けての第一歩をふみだした。[知内町史]
	3月7日	・涌元地区に完成した「知内町漁村環境改善総合センター（知内町漁村センター）」（鉄筋コンクリート造2階建、総床面積710㎡、総工費9,250万円）の落成式が行なわれた。[広報しりうち4月]

年	月日	できごと
1979年	5月6日	・重内神社山一帯を神社公園化に向けて努力、頂上には展望台、遊歩道の設置等も完了。[知内町史]
	6月	・知内川の河川改修にともなう知内橋の改良工事が着工。橋の通行止めで迂回路が設定。55年11月までの予定。[広報しりうち6月]
	8月19日	・「第1回町民レクリエーション大会」が商工会主催で実施。[広報しりうち9月]
	10月13日	・「第1回町内少年柔道大会」が知内高校格技場で開催。[広報しりうち11月]
	23日	・「中ノ川・森越地区議業協同利用施設」(中ノ川漁港)の起工式が行なわれた。[広報しりうち11月]
	12月24日	・「知内産商協同組合」の設立。(北電知内火力発電所の建設に対応するため)[知内商工会半世紀の軌跡]
1980年(昭和55年)		
	2月13日	・北海道電力(株)知内火力発電所1号機の建設工事が着工する。
	15日	・「第2次知内町建設総合計画」が策定される。[広報しりうち3月]
	20日	・知内火力発電所敷地内で北電関係者・町・工事業者など約100人が参列し、地鎮祭並びに安全祈願祭が行われた。[広報しりうち3月]
	3月16日	・知内青年団体協議会(知青協)が「第1回青年祭」を公民館で行ない、集った約200人の人が楽しんだ。[広報しりうち4月]
	21日	・知内町立東萊小学校が第18回卒業式とともに28年の校歴を残し閉校する。
	30日	・町議会議員選挙が行われ、定数22名が選出。投票率93.33%[広報しりうち4月]
	4月	・町教育研究所と町教委が3年前から編集していた小学生の社会科副読本「わたくしたちの町しりうち」が完成し、町内の3・4年生に配布。[広報しりうち5月]
	11日	・町議会議員互選の結果、林雅雄議長、佐藤昌次郎副議長を選出。
	6月15日	・南北海道少年柔道大会小学生の部で、結成5年目の「町柔道少年団」が、初出場で優勝する。[広報しりうち7月号]
	7月29日	・「第1回老人スポーツ大会」(後のシルバースポーツ大会)が知内中学校グラウンドで行なわれ、約400人が参加する。[広報しりうち9月]
	8月2日	・北海道電力(株)知内火力発電所で、発電機により作られた電気を送電系統につなぐ「通気併入式」を実施、発電が開始された。[広報しりうち9月]
	22日	・「知内福井県人会」の設立総会が、農協会議室で行なわれ白井一郎が会長に選任された。
	9月	・仮称-知内河口橋の名称が、公募した結果応募総数23通あり、知内中学校仁礼文秀教諭の「しおざい橋」と決まる。[広報しりうち9月]
	10月	・第13回国勢調査 2,319世帯 男3,684 女3,679 計7,380人
	11月12日	・「渡島支庁知内監督員詰所」(現-きらく町内会館)重内及び重内第二地区圍場整備事業に伴う現地事務所として完成した。[きらく町内会記念誌]
	12月20日	・北海道電力火力発電所関連工事、中ノ川漁船利用施設「中ノ川漁港」が完成。[中ノ川]
1981年(昭和56年) 自治制施行110周年・開基776周年記念の年		
	3月	・「上雷季節保育所」が閉所になる。[知保園30周年しおり]
	7月	・「寝たきり老人短期保護事業」実施。[広報しりうち8月]
	8月30日	・「自治制施行110周年・開基776周年記念」町民(町内会対抗)野球大会が知内中学校と知内高校グラウンドで開催。12チームによるトーナメント戦。
	9月	・「知内町中央公民館」、「知内町農業者トレーニングセンター(スポーツセンター)」が完成する。
	12月20日	・松前・矢越道立自然公園内である小谷石の山中にエゾシカ9頭(牡3、牝6)を放した。
	22日	・昨年7月「発足した南北海道矢越、千軒エゾ鹿放獣育成会」(会員90名)が中心となり尻岸内町の恵山高原ホテルで飼育中のエゾシカをゆずり受けたもので、20日にマイクロウェーブに4頭、22日は中ノ沢砂防ダムで放獣式の後1頭ずつ離された。[広報しりうち82年2月]
1982年(昭和57年)		
	3月23日	・「第1回町民バスケットボール大会」をスポーツセンターで開催。[広報しりうち4月]
	6月6日	・矢越小学校「開校百周年記念大運動会」が行なわれた。[広報しりうち7月]
	7月3日	・町ぐるみの非行防止のため、「知内町青少年問題協議会」再発足。少年を非行から守る日(毎週第一金曜日・第3日曜日)家庭の日(毎月第3日曜日)を設定。

年	月日	できごと
1982年	8月14日	・「開校百年の碑」の除幕式のあと矢越小学校開校百周年記念パレードが行なわれた。 [広報しりうち9月]
	10月2日	・知内農協「元町事業所店舗新築落成及び開店セール」開催。[農業の歩み・農協の沿革]
	17日	・「第1回子ども会防犯ソフトボール大会」が知内町防犯協会主催で知内小学校グラウンドで開催される。[広報しりうち11月]
	11月20日	・中ノ川漁港内に活魚蓄養施設が完成する。[中ノ川]
	12月18日	・「鉄道建設所」が湯ノ里地区に完成する。
1983年(昭和58年)		
	1月17日	・任期満了に伴う町長選挙を告示。無投票で大野重樹町長が6選する。[知内の歩み]
	2月21日	・「信知会」設立総会(45名参加)。昭和57年10月12日函館信用金庫の支店として15番目に開設された知内支店の取引先の会。(平成23年4月20日中央公民館で30周年記念を開催)
	28日	・過程・学科転換により農業科がなくなる知内高校で、最後の収穫祭が行なわれた。生徒が育てた米で餅つきを行なった。[広報しりうち3月]
	3月8日	・「第1回町民軟式テニス大会」がスポーツセンターで開催。[広報しりうち4月]
	4月	・知内高等学校が普通科2学級となり、「硬式野球部」が誕生。(監督・伊藤正秀教諭) [広報しりうち6月]
	5月16日	・津軽海峡線建設予定地で(財)北海道埋蔵文化財センターによる発掘調査が始まる。(湯の里遺跡群) [広報しりうち6月]
	26日	・秋田沖を震源とするM7.7の「日本海中部地震」が正午頃発生。本町は震度4。被害は1億450万円に及んだが津波はなかった。[きらく町内会記念誌]
	6月5日	・涌元小学校で「開校百周年大運動会」が行われた。[広報しりうち7月]
	8月2日	・第2回「知内の観光を探る会」を知内観光協会で開催し、船で矢越岬などを見学する。[広報しりうち9月]
	10月25日	・湯の里4遺跡の発掘調査で、副葬品を伴った旧石器時代の土坑(現在日本最古の墓)が発見される。[広報しりうち12月]
	11月	・「第1回カラス駆除大会」が10月・11月の2ヶ月間開催。地元ハンター28人が参加して227羽駆除した。[広報しりうち84年3月]
	12月	・「知内地方環境監視センター」が測定開始。[広報しりうち84.5月号]
	20日	・「交通安全監視塔」が国道228号線としおざい橋に至る道々ところが交わる丁字路(知内消防署付近)に完成。[北海道新聞12月22日]
1984年(昭和59年)		
	1月19日	・昭和58年度第13回知内町ニラ生産組合通常総会で、ニラハウス移転による有効利用を目的とした「ほうれん草栽培」の導入等を決定。[ニラ生産組合創立20周年記念]
	2月1日	・町内の各駅(松前線)で荷物の取扱が廃止される。[広報しりうち1月]
	3月	・「重内季節保育所」が閉所する。[知保園30周年しおり]
	25日	・町議会議員選挙が行われ、28人が立候補し定数22名が選出。投票率94.14%。 [広報しりうち4月]
	4月11日	・町議会議員互選の結果、林雅雄議長、西山昭利副議長を選出。
	12日	・近年にない豪雪に見舞われて融雪が遅れ、春の営農に支障が生じ始めたので、町は異例の圃場内、除排雪警報を出した。[きらく町内会記念誌]
		・「さけ・ますふ化場渡島支場知内事業場」でふ化室改造と養魚池及び飼育池などの増改築完工式とサケ稚魚放流式が行われた。[広報しりうち5月]
	5月2日	・知を発信する「知内町郷土資料館」が旧知内町公民館の母と子の家の跡で開館する。
	6月10日	・「松前線存続6.10リレーマラソン」が上磯駅から松前駅までの41区間約82kmで行われた。[広報しりうち7月]
	10月10日	・「知内町水産種苗育成センター」が北海道電力(株)知内火力発電所の構内に完成。知内町漁業協同組合に管理を委託する。[広報しりうち7月・10月]
	14日	・「湯の里清友会結成10周年記念式典・祝賀会」を湯ノ里小学校を会場に開催。[広報しりうち11月]
	11月1日	・新紙幣発行「1万円札福沢諭吉」「5千円札新渡戸稲造」「千円札夏目漱石」
	3日	・第1回「知内町産業まつり」が知内中学校グラウンドで開催。[広報しりうち10月]

年	月日	できごと
1985年(昭和60年)		
	3月10日	・「国鉄松前線記念乗車券」が青函トンネルの本坑貫通を記念し、国鉄松前線存続期成会によって発行される。[広報しりうち2月]
	23日	・重内分校が開校90周年を契機に知内小学校に統合された。最後の修了生5名、在校生8名。
	4月1日	・日本電信電話公社(電電公社)が「日本電信電話株式会社(NTT)」に、日本専売公社が「日本たばこ産業株式会社(JT)」に民営化。
	5月11日	・第1回「おたのしみ図書館」が中央公民館で行われた。
	6月12日	・「知内町子ども会育成連絡協議会」(齊藤徹全会長・23地域子ども会)が発足し、設立総会が中央公民館で開かれた。[広報しりうち7月]
	7月	・モーターサイクルクラブ「シグナル」が誕生。二輪車に対する意識の向上と交通安全の励行を目的として発足。[広報しりうち8月]
	15日	・ヤング・パルによる知内町初の「ドライブインシアター(野外映画館)」が町民センター駐車場で行われた。[広報しりうち8月]
	8月1日	・「アイデアコンクール」が知内商工会むらおこし事業実行委員会で開催する。
	15日	・第1回「サマーカーニバル in 知内」が知内中学校前グラウンドで開催される。(主催:ヤングパル・サマーカーニバル実行委員会)
	9月8日	・小谷石の冷泉「薬師様の湯」が昭和48年の集中豪雨以来12年ぶりによみがえった。[広報しりうち]
	10日	・明治27年の開校以来91年間の歴史に終止符を打つ「知内小学校重内分校開校式」が旧分校校舎で行われた。[広報しりうち10月]
	25日	・ドクトル・チェコ講師の医事講演会が郷土資料館を会場に開催。主催:知内商工会青年部・婦人部。[広報しりうち10月]
	10月1日	・第14回国勢調査 2,396世帯 男3,696 女3,684 計7,380人 ・国勢調査で日本の総人口、約1億2100万人。
	11月14日	・日本プロ野球選手会が労働組合として発足。
1986年(昭和61年)		
	4月26日	・ウクライナ(旧ソヴィエト連邦)でチェルノブイリ原子力発電所事故。
	5月20日	・知内商工会の「創立25周年記念式典」が開催される。[知内商工会創立25周年記念式典資料]
	26日	・青函トンネルの開通を記念する桜の植樹祭が「霞会館」の協力で、湯ノ里・出石地区の知内川堤防を会場に行われた。[広報しりうち6.7月]
	31日	・フラミンゴが知内川周辺に迷い込む。捕獲作戦を実施するが捕獲できず。
	6月15日	・「町民10km徒歩大会」が行なわれ町内の名所・旧跡を訪ね歴史を学んだ。[広報しりうち6・7月]
	9月6日	・日本社会党委員長に土井たか子が就任。日本の主要政党で初の女性党首。
	10月19日	・「第1回会長杯争奪庭球大会」が北電コートで開催。[広報しりうち9月] ・「藤本義一講演会」が信知会主催で開催。[広報しりうち11月]
	12月6日	・知内ニラ生産組合が販売高1億円達成記念式典および祝賀会を中央公民館で挙行する。[広報しりうち87.1月]
1987年(昭和62年) 町制施行20周年記念の年		
	1月20日	・任期満了に伴う町長選挙を告示。無投票で大野重樹町長が7選する。
	2月10日	・第1回「ウインターカーニバル・イン知内」が10・11日の2日間知内川河川敷地で開催される。主催は知内商工会。[北海道新聞2月13日]
	3月17日	・朝日麦酒が「アサヒスーパードライ」を発売。
	4月1日	・国鉄の分割民営化により「北海道旅客鉄道株式会社」(通称:JR北海道)に変わる。
	6月9日	・総合保養地域整備法(リゾート法)が制定された。
	7月26日	・「知内町子ども会育成連絡協議会」が、青函連絡船を借り上げて「ふるさとを見るふれあいの船」を開催する。[広報しりうち9月]
	8月15日	・町制施行20周年記念として「町民大運動会」・第3回「サマーカーニバル in 知内」などの記念行事を開催する。[広報しりうち9月]
	9月3日	・「第3次知内町建設総合計画」を策定。「豊かな海・山・大地にはぐくまれたロマンと活力のあふれる町をめざして」を標榜。

年	月日	できごと
1987年	10月17日	「はらたいら講演会-人生らくがき帳」が信知会主催で開催される。[広報しりうち11月]
	11月12日	「津軽海峡線新湯の里駅建設促進協議会」を知内・福島・松前の三町が中心となって設立し、新駅設置に向けて活動を開始する。会長は知内町長。[広報しりうち12月]
	20日	全日本民間労働組合連合会（連合）結成。
1988年	(昭和63年)	
	1月31日	JR松前線「さよなら列車」が運行され、翌日をもって廃止になる。
	2月12日	「知内町木材加工研究センター」落成記念祝賀会が、中央公民館で開催。[広報しりうち3月]
	3月13日	「青函トンネル津軽海峡線」が開業する。
	19日	青少年健全育成チャリティーショーが中央公民館で開催。中国の「歌舞団マジックショー」を上演した。[広報しりうち4月]
	27日	町議会議員の定数を22名から18名に減少した最初の選挙がおこなわれる。21名が立候補、最下位が同数となり抽選で当落を決めた。投票率は92.76%。[広報しりうち5月]
	4月13日	町議会議員互選の結果、谷口力議長、伊藤政敏副議長を選出。
	5月9日	「ふれあい農園」が初めて開始される。老人と幼児によるじゃがいもとかぼちゃの植付を行なう。[広報しりうち6月]
	6月20日	「緑健農法講演会」が永田照喜治講師を招いて農業センターで行なわれる。[広報しりうち7月]
	7月8日	道路改良の完成記念と交通安全祈願をかねて「みれん峠」の標柱と説明板を設置した。[広報しりうち8月]
	9日	「青函トンネル開通記念博覧会」(青函博)が、函館市と青森市で開催。(—9月18日)
	22日	第1回「函館野外劇 五稜星よ永遠に」が開幕
	9月8日	知内商工会青年部・婦人部主催で、古屋和雄 NHK アナウンサーの「文化講演会」を、郷土資料館で開催する。
	10月19日	「ウニ人工種苗生産センター」(元町28番13号)が新沿岸漁業構造改善事業で完成。併設して「知内町水産人工種苗中間育成センター」が設置される。[ウニ人工種苗生産センター要覧]
	11月9日	「知内町青少年育成町民会議」(下山常松会長)が結成され、第1回「青少年健全育成町民大会」を開催した。[広報しりうち12月]
1989年	(昭和64年) 1月1日～7日 (平成元年) 1月8日～12月31日	
	1月7日	昭和天皇崩御。皇太子明仁親王が即位。小淵恵三内閣官房長官(竹下内閣)が記者会見を行い、新元号を『平成』と発表。
	8日	元号を「平成」に改元。
	22日	第11回まちづくり全町集会「豊かな海、山、大地に育まれたロマンと活力溢れる町をめざして」開催。350人参加。[広報しりうち2月]
	3月	知内町議会第1回定例会で「知内町ふるさと創生事業基金条例」が制定。国が「ふるさと創生」の起爆剤として交付する事業の資金を一時、基金として積立し運用。[広報しりうち4月]
	4月1日	「知内町ハウス雨よけほうれん草組合」が設立総会を開催し、城地俊光が初代組合長に選任。[歩味]
		「消費税(3%)」が導入される。
	6月20日	「知内町社会福祉協議会」が社会福祉法人として、知事の認可を得て誕生。
	8月5日	第1回「しりうち日本童画展」を「しりうち童画を開く会」(斉藤毅会長)が主催し、郷土資料館で開催。(～26日) [広報しりうち8月]
	14日	「平成ふるさと町おこし」「知内ねぶた囃子」が第5回サマーカーニバル in 知内でお披露目された。(～15日)
	9月7日	定例町議会で「ふるさと創生事業特別委員会」が設置される。
	22日	千代の富士が史上最多勝965勝を記録。
	11月11日	第1回「青少年の主張大会」が中央公民館で開催。町内の各学校と青年団体の代表14人が発表した。[広報しりうち12月]
1990年	(平成2年)	
	1月13日	第1回大学入試センター試験実施(14日まで)

年	月日	できごと	
1990年	3月	・「1億円—ふるさと創生事業」の運用基金を利用した事業がスタートする。	
	4月 1日	・「学習指導要領改訂」小中学校での日の丸掲揚・君が代斉唱を義務化。	
	4月 20日	・「鮪大尽御殿」(旧-藤野文蔵宅)が解体。	
	5月 21日	・「知内ねぶた囃子愛好会」(遠藤芳雄会長)が、知内町役場青年婦人部の「知内ねぶた」の囃子方として結成される。	
	6月 26日	・育て殖やす漁業を目指して30万粒の稚ウニ放流。順調に進むウニ増殖事業。[広報しりうち7月]	
	7月 1日	・JR津軽海峡線「知内駅」が開業する。1日上下2往復が停車。[広報しりうち7月]	
	8月 8日	・青森県今別町と友好町の締結をおこなう。[広報しりうち8・9月]	
	9月	新しい一村一品として高原トッピングトマトジュース「レッドキス」登場。	
	1日	・第2回「しりうち童画展」が9日まで郷土資料館で開催。(主催・しりうち童画の会)	
	9日	・「メルヘン!童画コンサート」と「創作切り絵教室」(講師・関口ココ)を開催。	
	23日	・旧湯ノ里小学校裏の豆川に「江別ホタルの会」から寄贈された300匹の幼虫とエサになるカワニナを放流した。[広報しりうち10月]	
	10月	・JR津軽海峡線知内駅前にサブちゃんのふるさとをPRした大型看板を設置する。	
		・サマーカーニバル実行委員会(斉藤毅委員長)が「平成ふるさと町おこし」のテープ2千本を作成し、町民に配布する。	
		・知内高校野球部応援のために編成した「知内町民バンド」が核となり「知内吹奏楽団」(女13人・男7人)が結成された。[広報しりうち1995年7月]	
		・第15回国勢調査 2,046世帯 男2,976 女3,407 計6,383人	
		3日	・東西ドイツの統一達成。
		6日	・信知会主催で「塩沢とき講演会」が、郷土資料館を会場に開催される。
		22日	・6期24年間町政を担ってきた大野重樹町長が記者会見で、引退を表明した。[広報しりうち11月]
	11月	8日	・水稻転作作物ハウレンソウの生産販売額が1億円を突破した。[農業の歩み・農協の沿革]
		12日	・今上天皇即位の礼が皇居宮殿で挙行。世界各国から首脳クラスが来日。
	12月	・「特選品合同カタログ 北の海と大地」を知内町・福島町・木古内町・産業育成連絡協議会で発行する。	
9日		・セイコーマート二吉伊藤商店が開店する。知内で初めてのコンビニエンスストア。	
1991年(平成3年)			
1991年	1月 10日	・「しりうち童画の会」(斉藤毅会長)の「陽だまりのある町づくり」に共鳴した切り絵作家藤倉英幸画伯から「藤倉英幸のふるさとギャラリー」と「ほっかいどうむかしのあそび」の絵本原画68点が寄贈された。[北海道新聞1月12日]	
		20日	・大野重樹町長の引退で15日告示、2名が立候補し選挙が行なわれ、2,549票を獲得した脇本哲也前総務課長が初当選。投票率92.36%。[広報しりうち2・3月]
	2月 14日	・大野重樹町長が退任する。	
		15日	・第2代町長(第28代首長)として、脇本哲也町政が発足する。(平成23年2月14日まで) ・就任あいさつで「町民と共に考え、町民と共に実行する町政」「人間性豊かで、心のふれあう町政」「明るく公正で、活力ある町政」を基本理念として諸般の施策を展開したいと語る。[広報しりうち2・3月] ・1986(昭和61)年12月から1991(平成3)年2月までの景気拡張期による好景気が終わり、3月から1993(平成5)年10月までの景気後退期に入る。(いわゆるバブル景気の崩壊)
	3月 31日	・昭和38年10月13日より営業を続けていた「知内農協湯ノ里事業所」は、地域農業の衰退と共に利用が減少したため、地域の組合員の了解を得て閉鎖。[農業の歩み・農協の沿革]	
	5月 14日	・横綱-千代の富士が現役引退。	
	6月 6日	・岩佐康輔前北海道企画振興部参事が、第2回臨時町議会で満場一致で新助役に選任された。[広報しりうち6月]	
		21日	・1983年湯の里4遺跡で発見された日本最古の墓の副葬品14点が、国の重要文化財に指定される。

年	月日	できごと	
1991年	6月28日	・湯の里ホテルの会の制作した立て看板「ホテルの里」が完成し、旧-湯ノ里小学校前の国道228号線沿いに設置された。[広報しりうち]	
	8月	5日	・「北島三郎芸道30周年のあゆみ」と題した写真展を知内駅物産館2階で開催。(～31日) [広報しりうち9月]
		13日	・「北島三郎芸道30周年並びに道民栄誉賞受賞」祝賀会を開催。
		15日	・第7回「サマーカーニバルin知内」開催。北島三郎杯ゲートボール大会、知ルメランド(大鍋)、綱引き、北島三郎杯全国カラオケ大会、千人踊り等。STVテレビ「oh!盆ふるさとワッショイ!!!」生放送される。
	9月	8日	・ファミリースポーツ広場のパークゴルフ場(18ホール、約2万9千㎡)がオープン。[広報しりうち]
		30日	・「町長杯ゲートボール大会」が始まる。[広報しりうち10月]
	10月	25日	・アウトドアサークル知内(松本哲也代表)が古川沼周辺のイラストマップと観察できる野鳥の説明板を設置する。[広報しりうち11月]
		26日	・ホテルの里づくり講演会「ホテルの里づくりと増殖の仕方」開催。(主催:湯の里ホテルの会) [広報しりうち11月]
	12月	25日	・ソビエト連邦崩壊、ゴルバチョフ大統領辞任。
	1992年(平成4年)		
	1月		・1月から毎月第2・4土曜日を閉庁休日になる。
			・「町づくり全町集会」を町内会単位に町民の意見を反映させるため「ふれあい懇話会」に改めて、元町町内会を皮切りに始まる。[広報しりうち1月]
16日		・シュレップリフトを新設し拡張整備をしてきた町営スキー場が、雪不足で遅れていたがオープンする。[北海道新聞1月18日]	
		・第3回「しりうち日本童画展」開催。(～30日)	
26日		・第3回「しりうち日本童画展」開催に伴う「昔の遊び大会」を郷土資料館で実施。	
	2月9日	・知内吹奏楽団(帰山亮一団長・25人)主催で、結成初めての演奏会「バレンタインコンサート」を、小・中・高校の各吹奏楽部と合同で実施。チャリティコンサートのため基金は社会福祉協議会へ寄託。[北海道新聞2月13日]	
23日	・「春うらら 元町町内会演芸大会」が開催。[広報しりうち3月]		
3月	29日	・知内町議会議員選挙投票日。定員18名に21名が立候補する。投票率91.22%。[広報しりうち4月]	
4月	10日	・第2回臨時議会で、新しく西山昭利議長と永田敬二郎副議長を選出。[広報しりうち5月]	
	12日	・北方四島とのビザなし交流開始。	
15日		・郷土資料館2階に鮎大尽御殿の「床の間」部を復元して展示する。[北海道新聞4月16日]	
	18日	・「知内農業協同組合」の理事会で新しく手塚喜代治代表理事組合長が誕生。[農業の歩み・農協の沿革]	
5月	3日	・第1回「さくらまつり青空市(知内町物産まつり)」が、物産館(知内駅)前広場で知内町特産品販売促進協議会主催により実施。約5,000人が来場した。(～5日)	
	15日	・「開発行政に関する管内市町村連絡会議」が行われた。[広報しりうち6月]	
16日	・中の川漁港で「漁港市場」が開催された。[広報しりうち6月]		
6月		・中ノ川地区の若者10人と小中学生9人が「中の川太鼓」を旗揚げした。[広報しりうち93年8月]	
	6日	・知内町漁業協同組合が涌元漁港の沖合約1,000㎡で「回帰率調査と漁獲」を目的にサクラマスの稚魚4,000匹を放流した。[広報しりうち7月]	
7月		・平成3年の出産前や産後の指導をする町の「母親学級」で一緒になった人たちが育児サークル「アンパンマンクラブ」をつくって参加を呼びかけた。[広報しりうち7月]	
	10日	・涌元漁港の防波堤に涌元小学校児童が壁画を描き、除幕式を兼ねた式典が行われた。[広報しりうち8月]	

年	月日	できごと	
1992年	7月13日	・田島隆教育長が文部大臣より表彰された。[広報しりうち8月]	
	18日	・第1回「知内町パークゴルフ愛好会月例会」が開催。[広報しりうち8月]	
	8月13日	・北島三郎（大野 穰）の「町民栄誉賞」受章と昨年暮の「日本レコード大賞」受章を祝う祝賀会が、サマーカーニバル実行委員会主催で開催された。	
	14日	・第8回「サマーカーニバル in 知内」前夜祭に北電グループのねぶたが初めて参加した。[広報しりうち9月]	
	15日	・第8回「サマーカーニバル in 知内」開催。	
	9月13日	・第1回「町民パークゴルフ大会」が開催。[広報しりうち10月]	
	28日	・「昔の遊び大会」を開催。（主催：子ども会育成連絡協議会）[北海道新聞9月30日夕刊]	
	29日	・字元町の一部を字重内に変更するための議会の議決を得た。知内高校からしおさい球場までと古川沼の西側。[広報しりうち10月]	
		・「知内ダム」が竣工。堤高40.5メートル、堤長321.0メートル、堤体積168千立方メートル。[北海道新聞9月29日夕刊]	
	10月8日	・「アンパンマンクラブ」が、企画し準備を進めて育児講習会を開催した。[北海道新聞10月15日夕刊]	
	10日	・知内高等学校野球部が、第45回秋季北海道高等学校野球大会（新人戦）で準優勝する。優勝校は駒大岩見沢高等学校。	
	11日	・信知会結成10周年記念講演会「小さな学校の大きな挑戦」を開催。講師は深谷哲也北星余市高校長。[広報しりうち11月]	
	1993年（平成5年）		
	2月1日	・知内高校野球部が前年の秋季全道高校野球大会（新人戦）の決勝で優勝した駒大岩見沢高校と接戦を演じたことが評価され、「第65回選抜高等学校野球記念大会」追加枠2校の一つに選ばれた。町立高校としては初めての快挙。	
	3月1日	・スパイクタイヤの規制地域が拡大し、木古内町を含む85市町が指定地域になる。	
	16日	・平成5年度から新校舎に移転する湯ノ里小学校で、児童・PTA会員などが出席して「閉舎式」が行われた。[広報しりうち4月号]	
	26日	・知内高校野球部が、第65回全国選抜高等学校野球大会に町立高校として初めて出場し、甲子園球場で第1日目開会式終了後の第1試合で浜松商業と対戦し善戦するが敗れる。	
4月1日	・官公庁は、土曜閉庁（全ての土曜日が休みとなる）。		
	・特別養護老人ホーム（デイ・サービス併設）「知内しおさい園」（七尾大樹施設長）が開園する。		
	・「国立函館病院付属湯の里診療所」が休診。（6月30日廃止。書類上は7月6日付け廃止。8月6日より「町立湯ノ里診療所」として開設し診療開始）		
27日	・「知内しおさい園」の落成式並びに祝賀会を中央公民館で開催。		
5月16日	・教育委員会主催の少年サバイバル事業「トムソーヤスクール」が年4回実施予定で始まる。[広報しりうち6月]		
6月9日	・浩宮徳仁皇太子殿下と雅子妃の「結婚の儀」が行われた。		
22日	・知内農業協同組合青年部が「お米ができるまで」のビデオを製作し町内5校の小学校に贈った。		
30日	・4月1日以来休診していた「国立函館病院付属湯の里診療所」が廃止となる。		
	・旧石器時代のコハクの装身具のレプリカを制作して展示する。[北海道新聞7月1日]		
7月3日	・土曜閉庁でも「住民票」「印鑑証明」「各種税証明」は交付されるようになる。[広報しりうち6月]		
12日	・「北海道南西沖地震」M7.8発生。知内は震度5。新知内橋の橋脚の一部が損傷を受け通行止めになった。[広報しりうち8月]		
	・今年度より「外国青年招致事業」が始まり最初の外国語指導助手としてビンセント・チャーリー・パリチェックが赴任。[広報しりうち8月号]		
4日	・宮沢内閣の河野洋平官房長官が、首相官邸で慰安婦関係調査結果発表について河野談話を発表。		
8月6日	・4月から休診し6月30日廃止になった国立函館病院付属湯の里診療所が「町立湯ノ里診療所」となって診療を開始。[広報しりうち8月]		
21日	・外国人留学生を招いた第1回「青年国際交流会」が22日まで知内町ファミリースポーツ広場で開催。[広報しりうち10月]		

年	月日	できごと
1993年	9月14日	・「知内火力発電所2号機」の建設工事再開の申し入れが北海道電力株式会社からある。[広報しりうち10月]
	10月30日	・郷土資料館特別展「藤田健一版画展—モノトーンの世界—」が11月21日まで郷土資料館で開催。[広報しりうち12月]
	31日	・「知内ふるさと札幌会」(岩間寿郎会長)が設立する。[広報しりうち12月]
	11月6日	・(有)大野商店が「セイコーマート知内元町店」を開店。
	18日	・「きらく町内会館」(旧渡島支庁監督員詰所)を町内会館として町から認可された。
	30日	・連合北海道の町内組織となる「知内地区連合」の結成総会が中央公民館で開かれ、初代会長に田高博森林労連委員長が就任。[北海道新聞12月2日]
		・湯ノ里の老舗温泉旅館「姫の湯」が廃業する。
	12月12日	・「知内ふるさと東京会」(横方正昭会長)が設立。[広報しりうち94年1月]
	17日	・田島隆教育長が「北海道教育功績者表彰」を受賞。[広報しりうち94年1月]
	21日	・「知内商工会館」が10日完成し、知内商工会が郷土資料館から移転する。[広報しりうち94年1月]
1994年(平成6年)		知内町メモリアルイヤー記念「自治制施行123年、開基789年」の年
	1月11日	・「知内農協婦人部設立30周年記念式典及び祝賀会」が中央公民館で開催。[広報しりうち1月]
		・民生委員と児童委員とは別に主任児童委員制度が開始した。[広報しりうち1月]
	2月	1985年4月発行の「広報しりうち」から始まった上林侃(知内町歴史研究会会長)のコラム『知内歴史散歩』が、百号を迎え連載を終える。[広報しりうち2月]
	4日	・「知内商工会館新築落成式並びに祝賀会」を中央公民館で開催。[広報しりうち3月]
	10日	・「農業経営者フロンティア事業農業講演会」を実施する。テーマは「私の経営管理とこれからの農業経営」[広報しりうち3月]
	12日	・ノルウェーで「リレハンメルオリンピック」第17回冬季オリンピック開催。(～27日)
	3月	・機動職業訓練校(建築科)の受講生17名が、中ノ川生活改善センター前に中学校通学生用の「スクールバス待合所」を造り設置する。[広報しりうち4月]
	29日	・後志が南限のイトウが、知内川で捕獲された。[北海道新聞3月29日]
	4月15日	・中の川小学校前の国道に「信号機」が設置され、児童90名が点灯式と渡初めを行なう。[広報しりうち5月]
	5月	・「スタンプラリー」を松前町のさくらまつりに合せて渡島西部四町で始めて実施。[北海道新聞5月13日]
	7日	・小谷石で「啓発の森」の観察路が完成し、知内町郷土資料館主催の自然観察会で利用。[北海道新聞5月7日]
	15日	・「ニッセイ知内の森」記念植樹式が湯ノ里地区国有林で行なわれ、エゾヤマザクラ30本とブナ50本を植樹した。[広報しりうち6月]
	16日	・平成5年11月完成の「しおさいテニスコート」がオープン。[広報しりうち5月]
	22日	・1980年2月に中断していた「知内火力発電所2号機」の建設準備工事を開始する。
	30日	・北海道電力株式会社「知内電業所」が閉店する。
	6月7日	・知内高校野球部が、円山球場で行われた第33回春季北海道高等学校野球大会で準優勝する。[広報しりうち6月]
	15日	・第1回「知内しおさい園、デイ・サービス合同大運動会」を実施する。
	21日	・「知内町農業青色申告会設立総会」が知内町農業センターで開催。[広報しりうち7月]
	7月10日	・第1回発電所開放行事「ぶらっと散歩知内発電所」が開催。[広報しりうち8月]
	16日	札幌交響楽団の「エオリア・プラス・アンサンブルコンサート」が中央公民館で開催。[広報しりうち8月]
		・「湯ノ里地区青少年育成協議会」が『補導員功労団体』として表彰される。[広報しりうち8月]
	8月3日	・「函館土木現業所松前出張所知内事業所(現-函館土木現業所知内事業所)」が元町から重内980に移転し業務を開始する。
	6日	・知内町メモリアルイヤー記念事業「王貞治講演会」が知内高校体育館で開催。
	7日	・「1・2・3少年野球教室」がしおさい球場で王貞治・荒川博を迎えて実施。[広報しりうち9月]
	8日	・知内町メモリアルイヤー記念事業及び郷土資料館開館10周年記念特別展開催。「アンバー・ヒストリー」—日本最古の琥珀製品出土地で開催する琥珀の歴史展—

年	月日	できごと	
1994年	8月14日	・「第10回サマーカーニバル in 知内」が知内ファミリー広場で開催。(～15日)	
	27日	・「生ビールとダンスの夕べ」(主催:知内観光協会)が独身の男女の交流を深めるために知内商工会館前で開催。[広報しりうち10月]	
	28日	・「知内郵便局長杯争奪第1回パークゴルフ大会」が開催。[広報しりうち10月]	
	9月9日	・矢越小学校に青森県今別町二股小学校児童21名が訪れ、壁画制作やゲームで交流を深めた。[広報しりうち10月]	
	20日	・オリックスのイチローが史上初の1シーズン200本安打を記録(最終的には210本)。	
	10月	1日	・知内スタンプ協同組合(18加盟)が、10月から従来のスタンプシールに代えて、磁気カードを導入し、ポイントカードシステムを道南で初めて導入する。[北海道新聞9月30日]
		5日	・「知内町地熱ボーリング調査事業工事竣工式」。(37.1℃、毎分270ℓの温泉が湧出) [広報しりうち11月]
			・平成6年度「渡島管内婦人大会及び松前ブロック研修会」が中央公民館を会場に開催。[広報しりうち11月]
	16日	・障害者と地域住民が“ともに手をたずさえ、ともに夢を語り合う”「ふれあい広場'94 in しりうち」が「やさしいまちに笑顔がいっぱい」をスローガンに開催。	
	17日	・渡島南部地区農業改良普及所が「渡島南部地区農業改良普及センター」に名称変更になった。(10月17日より)	
	11月	1日	・平安遷都から1200年
		5日	・「知内町自治制施行123年・開基789年メモリアルイヤー」記念事業として『歴史シンポジウム』を開催する。知内中学校前の国道沿いに「記念碑」を設置しタイムカプセルを埋設する。
		14日	・「JAしりうち資材センター」がJAしりうち事務所裏に完成し、関係者約150人が出席し新築落成を祝う。[広報しりうち12月]
		16日	・7月中旬から改築されていた「木古内警察署知内駐在所」が、コミュニティルームを併設した新庁舎として完成し、業務を開始する。[広報しりうち12月]
	12月	13日	・出石・尾刺間連絡橋の名称が「尾出橋」と決定。公募された532点の中から優秀作・佳作ともに同一名称で複数の人の応募があったため決定。[広報しりうち95年1月]
		27日	・「町民ふれあい広場整備事業」の一つである町営スキー場と駐車場を結ぶ「歩道橋」の建設工事が完成。[広報しりうち95年1月]
		28日	・「三陸はるか沖地震」が午後9時19分頃発生。知内は震度4。 ・「ログハウス風バス待合室」を湯ノ里保育所前の国道228号沿いに知内商工会工業部会が設置。[広報しりうち95年1月]
	1995年(平成7年)		
	1月	17日	・任期満了に伴う知内町長選挙が告示され、脇本町長が無投票で再選する。 ・午前5時46分頃「阪神・淡路大震災」発生。強い直下型地震。震度7。
		26日	・矢越小学校で「全国星空継続観察会」を実施。冬の大三角形やスバルを観察して知内の空の環境調査を行なう。[広報しりうち3月]
	2月	10日	・「知内町ハウス雨よけほうれん草組合」の第6回通常総会で「知内町ほうれん草生産組合」へ名称変更を行なう。 13日・近鉄を退団した野茂投手が、ロサンゼルス・ドジャースに入団。 29日・青森県今別町と第2回交流スキー大会を開催。[北海道新聞2月1日]
		7日	・知内町ニラ生産組合(宮上隆義組合長、73戸)が、平成6年度「北海道朝日農業賞」受賞。[朝日新聞3月8日・広報しりうち4月]
		14日	・道道小谷石渡島知内停車場線トンネル名公募の結果、第1トンネルが小谷石の岡本鉄太郎命名の「しおさいトンネル」。第2トンネルは、涌元の小原明子命名の「いさりびトンネル」に決定。[北海道新聞3月15日・広報しりうち4月]
	20日	・町の年表『知内町史記年表抄 知内の歩み』(能代久司編)が完成する。 ・オウム真理教による「地下鉄サリン事件」が発生。13人死亡、負傷者数5,510人。 ・「松前街道づくり構想書(概要版)」が松前街道づくり評定衆会議主導で作成。	

年	月日	できごと
1995年	4月11日	・松前線代替バス5台更新導入。「松前街道づくり構想書」にもとづいて4町の特徴を車体に描いたバスが走る。[広報しりうち5月]
	17日	・「知内川をきれいにする町民の会」(敦沢良子会長)が、廃物最終処分場反対の講演会を開催。[北海道新聞4月19日]
	19日	・東京外国為替市場で1ドル=79円75銭
	22日	・「学校週5日制」が月2回になる。従来第2土曜日に加えて第4土曜日が休みになる。[広報しりうち1月号]
	5月	・脇本哲也町長が「全国半島振興市町村協議会」の会長に就任。
	14日	・「木古内・知内ライオンズクラブ認証30周年記念式典」を中央公民館で開催。[広報しりうち6月]
	16日	・第1回「知内町まちづくり総合計画(第4次知内町総合計画)審議会」(岡田貞雄会長)を中央公民館で開催。[広報しりうち6月]
	19日	・北海道電力(株)「知内発電所2号機建設工事」の起工式を実施。中央公民館で起工祝賀会を開催。[広報しりうち6月]
	20日	・「養殖ウニ」初の本格出荷。4年前の養殖開始後育った第1号。[北海道新聞5月20日]
	21日	・「子ども会育成連絡協議会」の『結成10周年』を記念して中央公民館の庭に道南ツツジを15本植えた。[北海道新聞5月22日]
	6月5日	・「知内町老人クラブ連合会花部会」(北島部部会長)が、環境保全活動功労で『知事感謝状』が授与される。[広報しりうち7月]
	21日	・あけぼの団地建替、第2号棟完成。[広報しりうち] ・函館空港で「全日空857便ハイジャック事件」が発生。
	7月6日	・初めての「町民ふれあいセミナー“ボケたらどうする”」が知内町・木古内保健所・知内町社会福祉協議会・知内しおさい園の共催で開催する。[広報しりうち8月]
	19日	・「無人ヘリ防除組合」(寺尾正弘組合長)は無人ヘリコプターによる初の水田防除作業を行った。[広報しりうち8月]
	27日	・ふるさと創生事業で初の「高校生海外派遣事業」を実施。(～8月15日)[広報しりうち8月]
	30日	・第1回森林組合長杯争奪パークゴルフ大会が開催。[広報しりうち8月]
	31日	・知内高校吹奏楽部は、オリジナル曲『チリオチを翔ける疾風』で3年連続金賞を受賞し、初の全道大会出場権を獲得。[広報しりうち8月]
	下旬	・重内展望台を導く「大パノラマ展望台」の案内板が国道沿いに設置。[北海道新聞8月15日夕]
	8月	・「しりうち議会だより」第1号発行。B5判10頁、2,300部作成。[北海道新聞8月17日]
	15日	・村山首相、アジア諸国に植民地支配と侵略を謝罪。(村山談話)
	20日	・知内川が早朝からの豪雨で一気に増水し、河川敷にあるゲートボール場やパークゴルフ場が浸水。キャンプ場はベンチと水飲み場が流失した。[北海道新聞8月23日]
	28日	・豪雨で一気に増水したため、20日と同様に河川敷にあるゲートボール場・パークゴルフ場・キャンプ場が浸水。[広報しりうち96年1月]
	9月14日	・「知内高等学校吹奏楽部」が全道大会初出場。
	19日	・町民保養センター新築工事安全祈願祭が行なわれた。[広報しりうち10月]
	27日	・道内で「千匹に一匹」といわれるほど珍しいヤマベのメスが、東萊川で釣り上げられた。[北海道新聞9月27日]
	29日	・マコガレイの稚魚放流を森越沖で行う。人工種苗から中間育成された稚魚を放流することで、天然とは違うマコガレイの生態調査のため。[広報しりうち96年1月]
	10月	・涌元町内会が北海道社会福祉協議会の進める「小地域ネットワーク活動推進事業」のモデル地域に選ばれ、その一環としてお年寄りの安否を確かめる『元気旗』を対象世帯に配布。[広報しりうち10月] ・育児教室「つくしっこクラブ」参加者募集。参加費用は無料。[広報しりうち10月]
	1日	・第16回国勢調査 2,207世帯 男2,971 女3,179 計6,150人
	6日	・文部省地域指定「知内町エイズ教育(性教育)研究大会」が知内高等学校を主会場に開催。全道及び東北6県の教育関係者が集る。[広報しりうち11月]

年	月日	できごと
1995年	10月8日	・1973年9月の集中豪雨で死者・行方不明者8人の犠牲者が出た小谷石地区で災害の「慰霊碑」を「災害復興碑」の側に建立、慰霊祭も行なう。[北海道新聞10月10日・広報しりうち11月]
	11日	・家庭での老人看護を学ぶ「ふれあい看護セミナー」が、湯ノ里生活改善センターで開催。[北海道新聞10月11日夕]
	14日	・第1回「木古内・知内地区地域安全運動少年野球大会」で涌元ドラゴンズが第1回目の優勝に輝いた。[広報しりうち11月]
	20日	・第21回「渡島公立幼稚園教育研究会知内大会」が開催。[広報しりうち11月] ・ドジャースの野茂英雄投手が米国で新人王を獲得。
	11月3日	・第1回「JA感謝フェア」を実施する。[広報しりうち12月]
	7日	・知内川に6番目の橋「尾出橋」(尾刺地区と出石地区を結ぶ)の竣工式が行なわれる。[広報しりうち12月] ・きらく婦人会(仲上絢子会長)が国民年金事業優良団体として「北海道国民年金協会会長表彰」を受けた。[広報しりうち12月]
	10日	・一等米の出荷率が過去最高の97.5%を達成。[広報しりうち12月]
	12日	・「知内町子ども会育成連絡協議会結成10周年記念式典」を中央公民館で開催。
	15日	・「尾出橋」が完成。道の中山間地域農村活性化整備事業の一環として尾刺地区と出石地区を結ぶ橋。[北海道新聞11月15日]
	21日	・育児教室「つくしっこクラブ」を開設し、育児講演会を開催。[北海道新聞11月29日]
	22日	・「高齢者福祉大学開設20周年記念式典」がおこなわれる。[広報しりうち96年1月]
	25日	・知内高等学校の「生徒海外派遣事業報告会」と「吹奏楽部全道大会出場記念演奏会」を開催。[広報しりうち12月] ・知内産ニラ、過去最高の878トンを出荷するが、価格低迷のため販売額は減る。[北海道新聞11月25日]
	27日	・公募していた「知内町健康保養センター」の愛称が「こもれび温泉」に決定。[広報しりうち96年1月]
	12月	・『防災の心得』を町内の全世帯に配布した。災害発生時の対応をまとめ、B5判22ページ、カラー印刷で3,000部を作製。 6日・「スポーツセンター」が昭和56年10月1日オープン以来の利用者が50万人を達成。[広報しりうち96年1月] 12日・「今年の漢字」が開始。毎年「漢字の日」に清水寺で発表。 20日・知内中学校「校舎改築工事安全祈願祭」が行なわれる。[広報しりうち96年1月] 26日・「松前神楽」が記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財に指定。

1996年(平成8年)

- 1月4日・知内ニラの生育を促進するため、5戸・22棟のハウスで試験的に温風ボイラーを導入して加温栽培をしたところ、初出荷が例年より2週間早まった。[広報しりうち2月・北海道新聞1月9日]
- 12日・「山下真司のくいしん坊! 万才」テレビロケ。ニラ料理、マコガレイ料理が全国に紹介された。[広報しりうち2月]
- 2月8日・異業種交流会(フロンティア21)開催。「企業誘致による地域振興」についての講演会を行なう。[広報しりうち3月]
- 9日・『マコガレイ・ミニプラザ』を道立函館水産試験場の主催で初めて開催。津軽海峡(西部海域)で獲れるマコガレイについて町内や福島町から約80人の漁業関係者が集った。マコガレイは①産卵期は3月がピーク ②7月に大型化する ③津軽海峡で産卵したものは、ほかの海域に移動する率が低いなどマコガレイの生態や海峡全体の水揚げ量の50パーセント近くが知内町沖で捕獲されていると報告された。[広報しりうち3月]
- 10日・余市町と古平町を結ぶ「豊浜トンネル」で岩盤崩落、乗用車や路線バスが下敷きになり20人死亡。
- 中旬・知内町ニラ生産組合(宮上隆義組合長)が昨年3月から7戸の農家で試験栽培している「パワフルグリーンベルト」の一番刈りを始め、札幌方面に試験出荷した。[北海道新聞5月9日]

年	月日	できごと
1996年	10月21日	・「知内温泉ユートピア」が午前3時50分頃火事になり正面玄関や2階客室などが焼失。[北海道新聞2月21日夕]
	26日	・読書サークル「ライラックの会」が渡島教育局から平成7年度『教育実践表彰』を受けた。[広報しりうち3月]
	29日	・道道小谷石渡島知内停車場線「しおさいトンネル」の安全祈願祭が同トンネル前で行なわれた。[北海道新聞3月2日]
		・ベーカリー「クルミの木」(武田正信店長)が旧小野医院の建物で開店。
	3月18日	・「知内町民ふれあい工房」が郷土資料館の隣で落成し、記念式典を開催する。[広報しりうち3月]
	24日	・町議会議員の定数を18名から16名に減少して最初の選挙がおこなわれる。21人が立候補。投票率は91.63%。[広報しりうち4月]
	25日	・百武すい星が地球に最接近。
	30日	・「渡島知内老友会」設立30周年を記念する集いが行なわれた。[北海道新聞3月30日]
4月	1日	・北海道函館土木現業所松前出張所知内事業所(現-北海道渡島総合振興局函館建設管理部松前出張所知内事業所)が元町から重内980に移転し業務を開始した。
		・従来、下宿整備事業に対して利子補給していた条例を『知内町旅館・民宿・下宿整備事業利子補給条例』として改正し、旅館・民宿などの宿泊施設整備に対する利子補給制度を導入。
		・宿泊施設不足の解消と観光を含めた産業振興を図るため旅館・民宿などの宿泊施設の整備に町が支援。[広報しりうち4月]
		・「笑顔かがやく躍動の舞台」を目指して第4次知内町建設総合計画が策定される。
	5日	・「知内農協元町事業所」(農協ストア)は、利用が減少したので地区内関係者の同意を得て閉鎖した。[農業の歩み・農協の沿革]
	6日	・ナベツルが大挙飛来する。[北海道新聞4月6日]
	12日	・第1回臨時議会で、新しく山本賢一議長、玉森義春副議長を選出。
	16日	・「サマーカーニバルin知内(佐藤昌介実行委員長)」が平成7年度「半島地域活性化優良事例表彰」に選ばれ『半島地域振興対策協議会長賞』を受賞。[広報しりうち6月]
		・コンサドーレ札幌を運営する「北海道フットボールクラブ(HFC)」が札幌市に拠点を置く。
	20日	・「ふれあい体験塾」(郷土資料館)の平成8年度開講式をふれあい工房で実施。過去最高の82名が出席した。[広報しりうち5月]
	26日	・知内町健康保養センター「こもれび温泉」が営業開始。町民の健康づくりと多くの方々との交流の場として利用。[広報しりうち4月号]
	27日	・建設中の知内中学校に置かれているクレーンの地上30メートルの空に鯉のぼりが泳ぐ。(～5月6日)[広報しりうち6月]
		・涌元町内会が平成8年度の「長寿社会対策パイロット地区」に警察庁から道南で唯一指定された。[広報しりうち5月]
5月	28日	・北海道電力(株)が「子どもたちに大きな夢を」と初めて企画し、知内発電所の新燃料タンク内壁に落書きをさせた。[広報しりうち6月]
		・経済団体連合会(経団連)と日本経営者団体連盟(日経連)が統合、日本経済団体連合会(日本経団連)が発足。
6月	27日	・南北海道友釣同好会と同知内支部でアユが住める川にと知内川の上流にアユ2万匹を放流。[広報しりうち6月]
7月	17日	・子どもの立場から見た交通安全についての意見交換やパネルディスカッションを行なう「ルート228子供大会」が、松前町から上磯町までの国道228号沿線5町の小学生や関係者約330人が参加し、木古内中央公民館で開催。[広報しりうち8月]
	23日	・道道小谷石渡島知内停車場線を改善する「しおさいトンネル」の貫通式を挙行。[北海道新聞7月25日]
	24日	・『天下の絶品マコガレイ試食会』を札幌市内のホテルで開催。町の特産品マコガレイの知名度アップとブランド化そして販路拡大を図る。[広報しりうち8月]
8月	14日	・サマーカーニバルin知内で「第1回おっぱいまつり」を開催。女性ねぶた「乳神伝説」や「知内よさこいソーラン」が披露された。[広報しりうち9月]
		・「知内産ニラ」の道外への進出を図るためより多くの人に親しまれる名称をと、知内町ニラ生産組合でネーミングの募集開始。[広報しりうち8月]

年	月日	できごと
1996年	9月 8日	・知内商工会婦人部「結成 20 周年記念式典」を開催。記念誌『むつみ』を発行する。[広報しりうち 10月]
	20日	・知内特産のニラが組合設立以来最高の 4 億 2 千 958 万円を販売する。販売額 4 億円の達成。26 日に祝賀会を開催。[ニラ生産組合創立 30 周年記念誌]
	26日	・第 3 回定例会で「知内町公共下水道設置条例」など可決。[広報しりうち 10月]
	29日	・知内高等学校の「生徒海外派遣事業報告会」と「吹奏楽部金賞受賞記念演奏会」を開催。[広報しりうち 12月]
		・帰国したチャーリー外国語指導助手の代わりにカナダからアリダ・マルチナ・アポット（愛称アリー）が来町。2 学期から高等学校・中学校で語学指導開始。[広報しりうち 9月]
	10月 5日	・第 1 回ミュージアム・コンサート「雅楽演奏会」を開催。[広報しりうち 11月]
		・第 49 回秋季全道野球大会に知内高校野球部が出場。[広報しりうち]
	20日	・初の「小選挙区比例代表並立制」が用いられた第 41 回衆議院議員総選挙を実施。
	30日	・鷹をイメージした知内中学校新校舎が完成。[広報しりうち 11月号]
	11月 7日	・知内町老人クラブ連合会「創立 30 周年記念」式典と祝賀会を開催。[広報しりうち 12月]
	12月 3日	・「しりうちニラネーミング最終審査会」（宮上隆義委員長他 17 人）で 756 点の応募作品から、杉浦はなさん（小谷石）の『北の華』に決定。[広報しりうち 12月号]
	8日	・知内中学校新校舎見学会を実施。[広報しりうち 97 年 1月]
	18日	・第 4 回定例町議会で空席だった助役に、前北海道町村会事務部長藤本義汎（57 歳）が満場一致で選任。[広報しりうち 97 年 1月号]
	19日	・小谷石地区の電話回線がデジタル化される。
1997年（平成 9年）	町制施行 30 周年記念の年	
1月 1日	・藤本義汎前北海道町村会政務部長が助役に就任。	
17日	・「中学生・高校生スポーツフェア」が知内町青少年育成町民会議主催で実施。[広報しりうち 2月]	
20日	・北海道電力（株）知内発電所の 2 号機発電ボイラーに点火。3 月上旬からの試運転後、9 月に本格的な運転開始。[広報しりうち 2月]	
2月 2日	・第 28 回道民スポーツ渡島冬季大会が町営スキー場で開かれる。[広報しりうち 3月]	
6日	・平成 8 年度「交通事故ゼロ・パーフェクト町」に対する知事感謝状が脇本町長に伝達される。[広報しりうち 3月]	
14日	・知内消防署で大型化学消防車、高所放水車、泡原液搬送車の 3 台を納入。今年の秋に操業開始が予定されている北電知内発電所 2 号機が、発電所構内の石油貯蔵、取扱量が政令で定める基準を超えるため「石油コンビナート等災害防止法」の適用を受けて配備されたもので、町の災害防止体制がますます強化された。[広報しりうち 3月号]	
16日	・ホテルの光をイメージした「蛍雪ロード」が、湯の里ホテルの会によって作られる。[広報しりうち 3月]	
3月 2日	・第 1 回「町民ステージフェスティバル」（主催：知内町文化団体連絡協議会・町教育委員会）を湯ノ里地区で開催。民謡や舞踊、吹奏楽団やコーラスなどのサークル、老人クラブ、婦人会が出演。今後年 1 回地域巡業する予定。[広報しりうち 4月]	
6日	・異文化に親しんでもらおうと外国語指導助手のアリダ・アポットさんによる料理教室「アリーのおしゃべりクッキング」を開催。ベジタリアン・スパゲティと豆腐のビスケット、ガーリックパンのカナダ料理に挑戦。[広報しりうち 4月]	
14日	・知内小学校（藤田 允校長）が学校や家庭、地域連携によるエイズ教育の実践に取り組んできた成果をまとめた、「平成 8 年度北海道教育実践研究成果論文」で北海道教育長から表彰された。[広報しりうち 4月]	
22日	・知内町健康保養センター「こもれび温泉」の入場者が 10 万人達成。[広報しりうち 4月]	
30日	・三井三池鉱が閉山。	
4月 1日	・町民センターの保健室に栄養士を配置し、従来の保健婦（現 - 保健師）による保健指導や相談に加え、栄養指導や相談等のサービスを開始。[広報しりうち 4月]	
	・「消費税」が改正。「地方消費税」が加わり税率が 5%になる。	

年	月日	できごと
1997年	4月 3日	・新入学児童の交通安全を願い、(株)三洋食品知内工場からレインコートとスカーフが寄贈。[広報しりうち4月]
	23日	・交通事故死ゼロの記録が千日に達成し、北海道交通安全推進委員会から町の交通安全運動推進委員会に表彰状が贈られた。[広報しりうち5月]
	30日	・道の駅「しりうち」のオープンと中山間地域総合整備事業(平成4～8年度)竣工の式典がおこなわれる。道の駅周辺施設として「JR津軽海峡線知内駅」「知内町農村活性化センター」「さわやかトイレ」「知内町農村公園」等がある。[広報しりうち5月]
	5月	・ノムラ産業株式会社(本社:札幌)が、知内発電所2号機の湿式脱硫装置用として、粉状炭酸カルシウムを年間約4万t供給可能な知内工場を発電所隣接地に建設し、パイプライン輸送にて直接、供給を開始する。
	14日	・「アイヌ新法」が公布。
	17日	・「ふれあい工房祭」で展示即売会が実施。(18日)[広報しりうち6月]
	18日	・オープンしたばかりの「知内町農村公園」で議会議員や町民そしてふれあい体験塾生など約80人が参加してドウダンツツジ150本を植樹。[広報しりうち6月]
	6月 4日	・「初心者硬式テニス大会」がしおさいテニスコートで開催。[広報しりうち6月]
	6日	・広く町民に花を育てる楽しさを知ってもらい、潤いあるまちづくりを推進しようと、「花壇作り講習会」が知内町花いっぱい運動推進委員会の主催で初めて開催。[広報しりうち6月]
	11日	・第15回「渡島西地区中学校陸上競技大会」が知内中学校グラウンドで開かれ、学校別総合で知内中学校が1位になった。[広報しりうち7月]
	19日	・平成9年度第2回定例会で、知内町名誉町民に大野重樹(前町長)と(故)林雅雄(元議会議長)が決定した。[広報しりうち7月]
	7月 6日	・第29回「道民スポーツ渡島夏季大会」開催。渡島管内の1市15町村から1,100人の役員・選手が参加する。[広報しりうち7月]
	10日	・知内町水道第4次拡張工事完了
		・第79回「夏季全国高校野球南・北海道大会」に知内高校野球部出場。
		・知内中学校が中体連の渡島大会で優勝し全道大会に出場。
	26日	・「ふるさと創生事業」で知内中学生初の海外派遣。
	27日	・「町制施行30周年記念町民大運動会」が知内小学校グラウンドで10年ぶりに開催。13町内会から約800人の選手が参加。[広報しりうち8月]
	31日	・湯ノ里保育所前の国道に信号機が設置され、園児と老人クラブ員により点灯式と渡初めが行われた。[広報しりうち8月]
		・「国内ホームステイ・マイタウンウォッチング」事業で来町した滋賀県の子どもたちと知内の子どもたちが対面式を行なう。[広報しりうち8月]
	8月 7日	・世界に向けて知内を発信するため、インターネットに『ホームページ』を開設。[広報しりうち8月]
	10日	・「重内展望台」にかさ上げして「大パノラマ展望台」を増設した工事が竣工。重内町内会が餅まきをして祝う。[広報しりうち8月]
	14日	・第13回「サマーカーニバル in 知内」と第2回「知内おっばいまつり」を開催。知内YOSAKOIソーラン『乳神雷舞』が初登場。[広報しりうち9月]
	23日	・「子どもフェスティバル」がファミリースポーツ広場で開催。知内町子ども会育成連絡協議会主催で町内の子ども会会員約350人が集って楽しむ。[広報しりうち9月]
	25日	・島牧町一般国道229号「第2白糸トンネル」せたな町側抗口で岩盤崩落事故発生。
	28日	・今別地区総代連絡協議会と知内町町内会連合会との交流が湯ノ里で開催。[広報しりうち9月]
	29日	・「こもれび温泉」が(株)スリーエスに業務委託されて、入場者が5万人を達成した。[広報しりうち9月]
	30日	・第20回「東日本軟式野球大会二部北海道大会」に函館支部代表として「オール知内」(知内町内野球協会選抜チーム)が出場し、参加した27チームの頂点に立ち、来年6月に愛知県で開催される全国大会出場が決定。[広報しりうち9月]
	9月 17日	・菅原都々子が小谷石町内会館で「月がとっても青いから」を始めとした懐かしい流行歌の数々を唄う。[広報しりうち10月]

年	月日	できごと
1997年	9月23日	『第312回北電ファミリーコンサート』で「札幌交響楽団」が演奏会を行ない聴衆を魅了。[広報しりうち10月]
	10月1日	「町制施行30周年・知内中学校校舎竣工記念式典」が知内中学校体育館で開催。大野重樹前町長と(故)林雅雄元町議会議長に名誉町民章を贈呈。[広報しりうち10月]
	10日	「町民健康づくりフェスティバル」が中央公民館で開催。講演やヘルスチェックなどを行なう。[広報しりうち11月]
	中旬	特定環境保全公共下水道事業の第一期工事が町内の2ヶ所で始まる。
	29日	NHK函館放送局公開番組「元気です北海道」の公開録画がスポーツセンターで行われる。ゲストに鳥羽一郎・長保有紀。[広報しりうち11月]
	30日	知内町・今別町老人クラブ連合会交流研修会を行なう。[広報しりうち11月]
11月	8日	知内商工会青年部(岡田敬司青年部長)「結成30周年記念式典」が中央公民館で開催。[広報しりうち12月]
	9日	第4回「親子ふれあい広場」が開催され、作文発表や紙飛行機づくりなどをして親子のコミュニケーションを図った。[広報しりうち12月]
	15日	「中学生海外派遣事業報告会」が知内中学校で開催。3名の中学生がカナダでの研修報告を行なう。[広報しりうち12月]
	17日	北海道拓殖銀行破綻。都市銀行の倒産は戦後初。
	22日	山一証券自主廃業。証券会社の倒産は戦後で過去最大。
	25日	「渡島支庁合同庁舎」が五稜郭から美原に移転。
	28日	道道小谷石渡島知内停車場線(全長9.8キロ)の「しおさいトンネル」が完成し、涌元側で開通式と渡初めが行われた。荒馬踊を披露。[広報しりうち12月]
	29日	ミュージアムコンサート及び特別展「表現って何?—みる・きく」をテーマに開催。絵画の展覧会と音楽会の二本立てで表現の多様性について深めてもらう。[広報しりうち12月]
		マコガレイの42種の料理法を掲載した冊子『天下の絶品知内真子鰯』を発行。[広報しりうち12月]
12月	1日	地球温暖化防止京都議定書が採択される
	3日	町民学習講座「パソコン教室」を開催。[広報しりうち12月]
		「野菜集出荷貯蔵施設」が完成。[広報しりうち98年1月]
		湯ノ里郵便局(森谷正彦局長)が交通無事故1万千日達成。北海道郵政局から記録達成の表彰状が授与された。[広報しりうち98年1月]
		「知内町青少年交流センター」が青少年の交流拠点として重内31番地に完成。[広報しりうち98.1月]
		「青函トンネル撮影台」を湯ノ里地区の萩茶里橋たもとに町観光協会が設置する。
1998年(平成10年)		
	1月10日	「野菜集出荷貯蔵施設」の創業安全祈願祭が行なわれる。手塚喜代治農協組合長と宮上隆義ニラ生産組合長などがテープカットをおこなった。全国で2例目となるニラ包装システムを導入した。
		この新システムの導入で、鮮度、衛生面での安全性の向上と労働力の低減、また商品のブランド化が確立されていくことに大きな期待が高まる。[広報しりうち2月]
	20日	地元マコガレイを使った料理講習会「天下の絶品・真子鰯”プロのレシピに挑戦”」が中央公民館で開催。[広報しりうち2月]
2月		6年ぶりに新しく町勢要覧『Take Off』(A4判カラー刷り32ページ)を発行。今回初めての試みとして町内各世帯に配布し、町民に町の現況をPRした。これに合わせて知内の自然や観光地などを写真で紹介した「小さな旅マップ」も作製した。[広報しりうち3月]
2月	2日	郵便番号が7ケタになる。
	7日	長野オリンピック開幕。(～22日)
	15日	町制施行30周年記念事業の締めくくりとなる「町民芸能発表会」(主催:町内会連合会)が、中央公民館で開催。各町内会から歌、踊り、劇などが披露された。[広報しりうち3月]
	19日	「地域子育てを語る集い」が知内町青少年育成町民会議主催で行なわれる。[広報しりうち3月]

年	月日	できごと		
1998年	2月 21日	・湯の里ホテルの会がロウソクを道に並べる「蛍雪ロード」を実施。[広報しりうち3月]		
	22日	・「春うらら元町町内会演芸大会」が町内会館で開催。歌や踊り、劇に春一番の笑い声が会場いっぱいにあふれていた。[広報しりうち3月]		
	3月	5日	・長野パラリンピック開幕。(～14日)	
		15日	・渡島知内町内会が「創立50周年記念式典と祝賀会」を開催。[広報しりうち4月]	
		18日	・第1回ふるさと講座「縄文と中世の時代を考古学の目で探る」を上ノ国町の斉藤邦典学芸員と南茅部町の阿部千春学芸員を講師に開催。[広報しりうち4月]	
		20日	・「こもれび温泉」が(株)スリーエスに業務委託。入場者10万人を達成した。[広報しりうち]	
	4月	1日	・「木古内保健所」が「渡島保健所木古内支所」に変わる。	
		7日	・「学校給食センター」が完成し給食を開始。道内初の調理なべを導入。施設は暖房内の水の取り扱いを極力排除したドライ方式を採用、床は常に乾いた状態を維持する。特に重さから中の料理が何人分当たるのか自動的に表示する調理鍋は、上磯町と並んで初めて採用し、人数の分量を過不足なく各学校、クラスに分けることができるようになった。[広報しりうち5月]	
		12日	・「元町婦人友の会結成50周年記念式典と祝賀会」(鳴海美江子会長)が開催。田島教育長の「今、女性は」と題した記念講演が行われた。[広報しりうち5月]	
		26日	・商工会青年部が結成30周年を記念し、農村活性化センター敷地内で植樹を行なった。[広報しりうち5月]	
		5月	・「知内町生涯学習指導者バンク」冊子を作成。	
	5月	10日	・「しりうち緑の少年団」の結団式が中央公民館で行われた。[広報しりうち6月]	
		12日	・野菜集出荷貯蔵施設に管内初の「ほうれん草包装機械」導入。機械搬入により今まで多くの人手が必要だった、栽培農家の作業が軽減されることにより、栽培規模の拡大や所得の向上が期待。[広報しりうち6月]	
		17日	・「渡島知内町内会創立50周年記念植樹祭」を行なう。[広報しりうち6月]	
		28日	・札幌円山球場で開かれた第37回春季全道高校野球大会で知内高校野球部がベスト4になる。[広報しりうち6月]	
		6月	6日	・「乳神雷舞」が札幌で開催された「第7回YOSAKOIソーラン祭り」に念願の初出場。[広報しりうち7月]
			12日	・「知内川を鮎のすめる川に！」と南北海道友釣同好会と南北海道友釣同好会知内支部が稚アユ4万匹を放流する。[広報しりうち7月]
	28日		・「ふれあい工房展示即売会」が開催。[広報しりうち7月]	
	30日		・特別養護老人ホームしおさい園に併設して建設される「在宅福祉支援複合施設」の竣工式が行われる。平成11年6月完成予定。	
	7月	16日	・野菜集出荷貯蔵施設に自動的に色・大きさ別に分けられる「トマト選別機械」を導入し始動。導入により、農家の作業軽減、栽培面積が拡大されると共に、有利販売が可能となった。[広報しりうち8月]	
		下旬	・新しい外国語指導助手にニール・ブライアンが着任し、高等学校と中学校の英語指導することになる。[広報しりうち8月]	
	8月	11日	・「手をつなぐ親の会」夏季レクリエーションが行なわれ、町内のいろいろな施設を見学した。[広報しりうち9月]	
		12日	・鈴木秀明元矢越小学校教諭の個展「鈴木秀明の世界」を中央公民館講堂で開催。	
		14日	・「第14回「サマーカーニバル in 知内」と「第3回知内おっぴまつり」を開催する。(～15日) [広報しりうち9月]	
		29日	・知内農業協同組合(手塚喜代治代表理事組合長)の「創立50周年記念式典と祝賀会」を中央公民館で開催。[広報しりうち8月]	
	9月	7日	・「ほくでん公園」が北海道電力(株)知内発電所敷地内に完成し開園式典が行なわれた。公園内にはバスケットコートやサッカーコート、パークゴルフコース、ジョギングコースなどが整備された施設。[広報しりうち9月]	
		17日	・商店街整備基本構想に係わる意見交換会が行なわれ、商店街の活性化などについての意見が交わされた。[広報しりうち10月]	
25日		・北海道電力(株)知内発電所2号機営業運転開始(35万kw)。使用燃料は当初オリマルジョンと重油の混合だったがその後重油だけになる。[広報しりうち10月]		

年	月日	できごと
1998年	9月27日	・「しりうち大生鮮市」が町の特産品のPRを目的に中ノ川漁港で開催。町の特産品を町内外の方々にもっと知ってもらうのが狙いで、町と漁協が町特産品販売促進協議会の協力を得て行なう。[広報しりうち10月]
	10月5日	・湯ノ里小学校（上山邦彦校長・児童44人）の「こども郵便局」が平成10年度こども郵便局郵政大臣賞を受けた。湯ノ里小学校のこども郵便局は、制度が始まって2年後の昭和25年に設立され、受賞は昭和62年、平成5年に続き3度目。[広報しりうち11月]
	16日	・北海道福祉のまちづくりコンクールで「北海道福祉のまちづくり賞」が発表され、こもれび温泉が特別賞を受賞。[広報しりうち11月]
	18日	・「渡島地区母子寡婦福祉連合会ブロック別研修会」が管内の会員約160名が参加して行われた。[広報しりうち11月]
	21日	・町民自主企画講座で「刻字教室」を開催。[広報しりうち11月]
	24日	・第1回「子ども会対抗コスモスロード駅伝大会」を各子ども会から18チームが参加し、中央公民館から涌元に向う道道で開催。[広報しりうち11月]
11月		・下水道処理場「知内町クリーンセンター」建設着工。
	6日	・「きらく婦人会」（仲上絢子会長・会員15名）が、国民年金事業功労団体として「北海道社会貢献賞」を受賞。[広報しりうち12月]
	10日	・こもれび温泉で「ウォータービクス教室」を開催。[広報しりうち12月]
	15日	・町の特産品を知ってもらうための「わくわく青空市」を開催。[広報しりうち12月]
	17日	・「知内町納税貯蓄組合連合会」創立40周年記念式典と祝賀会が行われる。[広報しりうち12月]
	26日	・「町民ふれあいセミナー」で演奏やボケについての劇・講演が行われた。[広報しりうち12月]
12月	1日	・「特定非営利活動促進法（NPO法）」施行。
	8日	・大人のなんでも講座で「手打ちそば講座」を実施。[広報しりうち99年1月]
		・ストレッチすみれの会主催の「健康体操教室」が行われた。[広報しりうち99年1月]
	17日	・育児教室「つくしっ子クラブ」でクリスマスリース作りや餅つきをした。[広報しりうち99年1月]
1999年（平成11年）		
	1月19日	・任期満了に伴う知内町長選挙が告示され、無投票で脇本哲也町長が当選した。[広報しりうち2月]
	2月14日	・第1回「しりうち味な合戦・冬の陣」がカキとニラのPRを目的に中央公民館で開催。町内外から1,000人が集る。町特産品販売促進協議会（菅原正会長）とフロンティア21（岡田敬司代表）の共催。[広報しりうち3月]
	16日	・「カキ加工処理施設」（増養殖用作業保管施設）が完成し稼働を始めた。従来の加工場に比べ、作業効率・衛生面が向上した。（昨年8月から中ノ川漁港の敷地内に建設を進めていた。[広報しりうち3月]
	22日	・「地域振興券」が22日から26日まで町内各地区で交付され、3月1日から町内の商店で使用が開始される。[広報しりうち3月]
3月	2日	・「女性研修会」（主催：町男女共同参画推進協議会・町教委）が中央公民館で開催。西山勝信講師の『身近な環境問題について』講演を聞いた。[北海道新聞3月2日]
	6日	・強風により町内のビニールハウスが大きな被害を受けた。[広報しりうち4月]
	7日	・第2回町民ステージフェスティバル「涌元・小谷石地区芸能発表会」が涌元小学校体育館で開催され、多くの町民たちが民謡や舞踊・太鼓・コーラスなどを披露した。[広報しりうち4月]
	17日	・郷土資料館ふるさと講座「北海道の文化・道南の文化」を奥平忠志教授を招いて開講。[広報しりうち4月]
		・「イカリカイ駐車公園」の整備が完了。[広報しりうち4月]
	25日	・函館空港の滑走路が3,000mに延長し、供用を開始する。
	29日	・「函館地方法務局木古内出張所」が開庁。登記事務は29日（月）から函館地方法務局登記部門で取り扱うことになる。

年	月日	できごと
1999年	3月31日	・『児童のための伝説集—しりうち昔ばなし』(B5判56ページ)を発行。かねてから知内を題材にした児童向けの昔話の本の希望があったため、1962年に発行されていた一般向けの『知内の傳説』を町教委社会教育係と郷土資料館とが連携しながら再編集した。挿し絵を宮沢賢治の絵本で著名な佐藤国男画伯が担当。
	4月	・「胆振知内千軒会」(高橋則夫会長・会員75名)が創立20周年記念式典を登別市内のホテルで開催。[広報しりうち5月]
	14日	・「しおさい園」が地域振興対策にと、町内の衣料品店などを招き、地域振興券を使った即売会を行なう。[広報しりうち5月]
	18日	・全町一斉に「クリーン作戦」を展開。1983年に『ゴミゼロの日』を決めてから毎年春と夏の2回行われている。[広報しりうち5月]
	25日	・「渡島知内納税貯蓄組合」の“創立50周年記念式典と祝賀会”が渡島知内町内会館で開催。[広報しりうち6月]
	5月9日	・「みどりの集い記念植樹」が頃内川林道沿いの広場で行なわれ、クリの木80本を植えた。[広報しりうち6月]
	22日	・「子ども会対抗ドッジボール大会」が開催。[広報しりうち6月]
	24日	・周辺事態法・防衛指針法(日米新ガイドライン法)成立。
	6月16日	・「スタンドグラス講習会」をふれあい工房を会場に開催。[広報しりうち7月]
	20日	・「北海道友釣り同好会知内支部」(大野五公支部長・会員18名)が、知内川の川底や川岸の清掃活動を行い、稚アコ約4万尾を放流。[広報しりうち7月]
	23日	・完成したばかりの在宅福祉支援複合施設の中核施設であるケアハウス「花あかり」の町民見学会が開催。[広報しりうち7月]
	24日	・育児教室「つくしっこクラブ」でミニ運動会を開催。[広報しりうち7月]
	7月1日	・「知内町在宅介護支援複合施設」(「経費老人ホーム」ケアハウス、「老人短期入所施設」ショートステイ、「在宅介護支援センター」)が供用開始する。
	7日	・公民館講座で『油絵教室』を実施。[広報しりうち8月]
	9日	・「骨太教室」(知内町主催)を中央公民館で開催。保健婦(師)による骨粗しょう症予防の講話のあと管理栄養士による料理の講習会を行なう。[広報しりうち8月]
	11日	・北電知内発電所開放事業「ぶらっと散歩知内発電所」が行われ、親子連れなど約600名が参加した。[広報しりうち8月]
		・知内町4Hクラブ(玉森篤志会長・会員9名)は小谷石の生活館前で、初の「何でも百円、野菜販売」を実施し完売。[北海道新聞7月12日]
	20日	・「大人のなんでも講座」(町教委)で『千軒岳登山』を実施。[広報しりうち8月]
	29日	・「第20回記念シルバースポーツ大会」が行なわれ、団体競技で涌元谷地チームが2年連続で優勝。[広報しりうち8月]
	8月9日	・「国旗国歌法」成立。
	13日	・町内の芸術家たちが描いた作品を展示した「小さな美術展」を大乗寺で開催する。(～20日)
	14日	・第15回「サマーカーニバルin知内」と第4回「知内おっばいまつり」を開催。[広報しりうち9月]
	15日	・涌元谷地町内会で「ビアガーデン」を始めて行なう。[広報しりうち8月]
	22日	・「しりうち大生鮮市マコガレイまつり」を中ノ川漁港で町の農水産物のPRを目的に開催され、約2,000人が会場を訪れた。[広報しりうち9月]
	28日	・「かあさんわくわく市」がJA女性部により農協店舗前で始めて行なう。[広報しりうち10月]
	9月3日	・「少肥密植栽培実証試験」(主催：渡島南部農業改良普及センター)の中間報告会が知内農協で開催。[北海道新聞9月3日]
	7日	・子ども芸術劇場で「パフ・ファミリーコンサート」を知内小学校体育館で開催。[広報しりうち10月]
		・渡島支庁長と地域リーダーとの意見交換会が中央公民館で開催される。[広報しりうち10月]
	10日	・町トマト生産組合(吉田成三組合長・25戸)は規格外品のトマトを使用した缶ジュース「レッドキス」3万個を本格製造し、1缶90円で販売を開始。[北海道新聞9月10日]

年	月日	できごと	
1999年	9月19日	・『ガツンと言おう本音トーク』題した「地域教育フォーラム」（主催：渡島教育局）を中央公民館で開催。知内・福島・木古内の中高生の代表や町民など40名が参加。[広報しりうち10月]	
	23日	・道立函館美術館所蔵作品の移動美術館'99『くらべてみよう！「ひとつ」と「たくさん』』が中央公民館で開催（28日まで）。 ・開会式にミュージアム・コンサート「ピアノの魅力」演奏会を行なう。[広報しりうち10月]	
	10月	1日	・「知内町一貫教育体系推進会議」の主催で、町内の子どもたちによる清掃活動が全町規模で行われ、幼稚園から小中高そして父母の約600名がこれに参加した。[広報しりうち11月] ・「一般廃棄物最終処分場」が稼働。渡島西部広域事務組合が福島町千軒に、平成9年から建設工事を進めていた。約15年間の埋め立てが可能。[広報しりうち11月]
		4日	・中高生を対象にした「スクールステージフェア」でわらび座が公演を行なう。
		9日	・「防火少年野球大会」が開催される。[広報しりうち11月]
		17日	・「知内小学校開校120年」を記念した『写真展』を知内小学校の学芸会で披露。[北海道新聞10月20日]
		7日	・「涌元町内会創立50周年記念」の式典と祝賀会が涌元小学校で行なわれた。創立50周年記念誌『わくもと』（A4判197ページ）を発行。[広報しりうち12月] ・中の川小学校の女子バレー部「中の川ウィングス」（大沢幸美キャプテン・部員20名）が苫小牧市で行われた「第19回道新カップ道南大会」で3位になり、初の全道大会出場が決まった。[広報しりうち12月]
	11月	11日	・「知内町・七飯町老人クラブ連合会」の交流会を開催。[広報しりうち12月]
		13日	・「涌元谷地老人クラブ結成30周年記念」の式典と祝賀会が行われた。[広報しりうち12月]
		14日	・「しりうちわくわく青空市」が道の駅隣の農村活性化センター前で行なわれ、町の特産品を販売。[広報しりうち12月]
		12月1日	・「知内町保健医療総合センター」が町民の健康づくりと初期医療への対応を目的とした業務を開始。[広報しりうち12月] ・知内町保健医療総合センター前の駐車場に郵政省から町へ寄贈された「ソーラー時計」を設置。[広報しりうち00年1月] ・町民センター内の「センター歯科」（西根正明医師）が「知内町保健医療総合センター」内に移転し業務を開始。[広報しりうち00年1月]
		13日	・「知内町文化団体連絡協議会」（上山定雄会長・26団体）の「創立30周年記念式典と祝賀会」が中央公民館で開催し、記念誌『潮騒』を発行。[広報しりうち00年1月]
		14日	・道南初の「ナイター議会」を開催。43名が傍聴。[北海道新聞12月16日]
		16日	・「東京名人会」を開催（主催：町教委）。出演者／林家木久蔵、あした順子・ひろし。[広報しりうち00年1月]
	31日	・パナマ運河がアメリカ合衆国からパナマに返還される。	
	2000年（平成12年）		
	1月	9日	・「ふれあい懇話会」が前浜町内会を皮切りに各地区で開催。[広報しりうち2月]
		27日	・「いきいき健康セミナー」が保健センターで行なわれ肥満と病気の関係について学ぶ。[広報しりうち3月]
	2月		北海道新聞社の「読者が選ぶ道南21景」に矢越岬と重内展望台が入選。[広報しりうち3月]
		5日	・「知内高校野球部3年生を送る会」が同後援会主催で行われた。[広報しりうち3月]
		13日	・初の「郵便局長杯争奪ミニバレーボール大会」が行なわれた。[広報しりうち3月]
		20日	・カキとニラのPRを目的に第2回「しりうち味な合戦冬の陣・カキVSニラ」が中央公民館で開催。1,400人が訪れた。（町特産品販売促進協議会とフロンティア21、観光協会の共催）[広報しりうち3月]
	3月		・知内駐在所が管轄する地域の状況が一目で分かる管内地図の出来映えを競う「全道交番・駐在所管内図コンクール」で地域部長賞を受賞。[広報しりうち4月]
		5日	・第3回町民ステージフェスティバル「中ノ川・森越地区芸能発表会」が中の川小学校体育館で開催され、多くの町民たちが民謡や舞踊・太鼓・コーラスなどを披露。[広報しりうち4月]

年	月日	できごと
2000年	3月16日	・矢越小学校は、在校生6名と教職員5名で最後の卒業生1名を送った。
	18日	・知内青年祭『ザ・パーティー2000』が、町内の青年団体「フロンティア21」（岡田敬司代表）の主催により中央公民館で開催。ゲストはフォーク歌手のみのや雅彦。[広報しりうち4月]
	19日	・町立矢越小学校が117年の歴史に幕。児童のほか同窓生や旧教職員、地域住民など225人が出席して「閉校式」を行なう。[広報しりうち4月]
	26日	・町議会議員選挙が行なわれ、定員16人に17名が立候補する。投票率は90.14%。[広報しりうち4月]
	27日	・商工会婦人部から新入学児童の交通安全を願い「愛の鈴」が寄贈。[広報しりうち5月]
	31日	・有珠山が23年ぶりに噴火。
	4月1日	・介護保険制度が開始。地方分権一括法が施行。
	10日	・第2回臨時会で、山本賢一議長、玉森義春副議長を選出。
	13日	・「チャイルドシート普及講習会」を中央公民館で開催。
	18日	・全町クリーン作戦を実施。昭和58年にゴミゼロの日を決めてから始められており、全町一斉清掃が行われた。
	5月1日	・サケ稚魚の放流式が「さけますふ化場知内事業場」で行なう。
	10日	・スタルヒン杯少年野球町内予選会がしおさい球場で行なわれ、元町ジャガーズが優勝。[広報しりうち6月]
	11日	・知内幼稚園近くの「老人と子どものふれあい農園」でジャガイモの植え付けが、幼稚園児や高齢者ら約150名で実施。[広報しりうち6月]
	6月11日	・南北海道友釣同好会知内支部（大野五公支部長）が、知内川の川底や川岸の清掃活動を行い、稚アユ約3万尾を放流。[広報しりうち7月]
	18日	・知内町森林・林業・林産業活性化議員連盟と町の共催で、西暦2000年を記念した「町民植樹祭」が知内川旧河川敷で行われ、ヤエザクラなど400本を植樹した。[広報しりうち7月]
	25日	・第42回衆議院議員総選挙及び最高裁判所裁判官国民審査を執行。
	29日	・「知内ふるさと函館会」の設立総会と交流会が函館のホテルオークランドで、来賓や会員約90名が参加して開催。[広報しりうち8月]
	7月1日	・「重内町内会創立80周年記念」の式典・祝賀会が中央公民館で約140名が参加して開催。創立80周年記念誌『おもない』（B5判252ページ）を発刊。[広報しりうち8月]
	2日	・知内町婦人赤十字奉仕団など10団体が環境保護と美化のため、中ノ川地区の海浜清掃を実施。[広報しりうち8月]
	6日	・「知内町診療所」が昨年12月にオープンした保健医療総合センター内で診療を開始。[広報しりうち8月]
	15日	・「三洋食品杯争奪少年野球大会」を開催する。[広報しりうち8月]
	22日	・「JA夏まつり」が野菜集出荷貯蔵施設前で行われた。[広報しりうち8月]
	24日	・「痴漢防止講習会」（主催：木古内警察署）が町民センターで開催、痴漢の撃退方を学んだ。[広報しりうち9月]
	8月4日	・「あじさい子ども会」の子どもたちが「スピードダウンをお願いします」と交通安全街頭啓発を行なう。[広報しりうち9月]
	5日	・「第14回全道身体障害者ゲートボール大会」（開催地：鹿部町）で知内町身体障害者福祉協会のゲートボールチーム（佐竹勲監督）が初優勝。[広報しりうち9月]
	14日	・第16回サマーカーニバルin知内と第5回知内おっぱいまつりを開催。知内川河川敷特設会場を中心に開催。まつりの目玉の「知内演歌まつり」には北島軍団が集まり、会場を埋め尽くした大観衆とともに盛り上がりを見せた。[広報しりうち9月]
	15日	・「重内地域親睦運動会」が町内会員の親睦を図るため重内分校跡地で開催。[広報しりうち9月]
	17日	・札幌市で開催の「第45回北海道吹奏楽団体コンクール」のC編成の部で、知内高等学校吹奏楽部（五十嵐亜紀菜部長・部員21名）が初の金賞を受賞。[広報しりうち9月]
	19日	・「知内町体育協会30周年記念パークゴルフ大会」を開催。[広報しりうち9月]
	20日	・「しりうち大生鮮市まごがれいまつり」が中ノ川漁港で町の農水産物のPRを目的に開催され、約1800名が会場を訪れた。[広報しりうち9月]

年	月日	できごと
2000年	9月 2日	・「渡島支庁地区身障者スポーツ大会」（共催：渡島支庁地区身障者協会・知内町身障者協会）がスポーツセンターで開催。渡島管内から17チーム、約500名が参加。 [広報しりうち10月]
	4日	・駒ヶ岳が噴火。
	8日	・第23回「東日本軟式野球1部大会北海道大会」が知内、木古内の3球場で8日から11日まで行なわれ、知内町野球協会（平野義広監督・部員15名）が初優勝し全国大会出場を決めた。 [広報しりうち10月]
	15日	・第27回オリンピック競技会「シドニーオリンピック」が開幕する。（～10月1日）。
	16日	・知内中学校で「校内駅伝大会」を初めて開催。 [広報しりうち10月]
	21日	・交通安全啓発看板『注意 事故多発』を「木古内・知内ライオンズクラブ」が木古内町新道の国道に設置。 [広報しりうち10月]
10月		第17回国勢調査 2,110世帯 男2,770 女3,062 計5,832人
	1日	・「知内町地域防災計画」に基づいた防災訓練が前浜・はまなす地区で実施。町・消防署・警察署・無線赤十字奉仕団など関係者約160名と地区住民約90名が参加した。 [広報しりうち11月]
		・第二電電・KDD・日本移動通信が合併しKDDIが発足する。
	2日	・西暦2000年記念事業「スクールフェスタ in2000」を町民センター駐車場で開催。幼稚園から高校までの児童、生徒ら約1,000人が参加し、司会や進行は生徒が行なう。小学生4名による開会宣言の後、知内高等学校吹奏楽部の演奏とコーラスサークルソレイユの歌声に合わせて「知内讃歌」を合唱した。その後パズルアート製作や未来の自分へのメッセージをタイムカプセルに入れて埋めたほか、記念の植樹を行なう。最後に北海道警察音楽隊とカラーガード隊による「ドリル演奏」が披露された。 [広報しりうち11月]
	9日	・「第3回子ども会対抗コスモスロード駅伝大会・第1回WAラシャンドロードレース大会」開催。 [広報しりうち11月]
	15日	・「危険物安全協会防火ドッチボール大会」がスポーツセンターで開催。 [広報しりうち11月]
	23日	・10月2日に80歳で亡くなった大野重樹元知内町長の町葬（葬儀委員長：脇本哲也町長）が中央公民館で執り行われ、町民や管内の町長など約350名が参列した。 [広報しりうち11月]
	28日	・東京、札幌、胆振（苫小牧、室蘭）函館の4つの「知内ふるさと会」の交流会が、町内会連合会（岡田貞雄会長）の主催で中央公民館を会場に開催。会員のほか町議会議員や町内会役員、町内各団体の代表など約200名が出席。 [広報しりうち12月]
		・ON対決。巨人（長嶋監督）がダイエー（王監督）を4勝2敗で下した。
11月	4日	・前期旧石器時代の文化が日本にも存在していたとして注目された、宮城県築館町（現・栗原市）の上高森遺跡の捏造が発覚。
	9日	・「いきいき健康セミナー」を保健センターで開催。コレステロールを押さえる料理の調理実習を行なう。 [広報しりうち12月]
	15日	・「知内町ニラ生産組合」（小西勝則組合長・65戸）の創立30周年記念式典と祝賀会が中央公民館で行われた。創立30周年記念誌『風雪に耐え北に育つ』（B5判81ページ）を発刊。 [広報しりうち12月]
	26日	・「しりうち町健康づくりフェスティバル」（主催：知内町）が中央公民館で開催。玉田富子ヘルス・フードアドバイザーの講演や「タオル体操」のほか健康食品の試食コーナーが設けられた。町民約150名が参加。 [広報しりうち01年1月]
	30日	・つくしっこクラブの育児講演会「子育てを楽しむ」が知内幼稚園で開催。 [広報しりうち01年1月]
12月		・三洋食品知内工場が敷地内に「直売所」を設置し、販売を開始。 [広報しりうち01年1月]
		・町民センター1階（旧センター歯科）内に「在宅介護支援センター」がオープン（開設）。 [広報しりうち12月]
	2日	・「知内町4Hクラブ」（北島道男会長・会員10名）の創立50周年記念式典と祝賀会が中央公民館で行なわれ、来賓や会員など約70名が出席。記念誌『あぐる瞬間』を発刊。 [広報しりうち01年1月]

年	月日	できごと
2000年	12月 2日	・「木古内地区林産協同組合」（齊藤毅会長・会員6名）の創立50周年記念祝賀会が木古内町で行なわれ、来賓や組合員など約50名が出席。創立50周年記念誌を発刊。[広報しりうち01年1月]
	14日	・2回目となる「ナイター議会」を行なう。町民約60名が傍聴に来る。[広報しりうち01年1月]
	31日	・新世紀の訪れを祝う記念事業「カウントダウンイヤー」が12月31日から1月1日かけて中ノ川八幡神社前で開催。中ノ川町内会（東出敏夫会長・99戸）が主催。花火を打ち上げられるとともに抽選券入りの祝餅をまき、新世紀の訪れを祝った。[広報しりうち01年2月]

2001年（平成13年）

- 1月 6日 ・ 第2次森内閣で従来の「1府22省庁」が、「1府12省庁」に再編された。
- 17日 ・ 「世代間交流会」が渡島知内の老人クラブ員と小学校児童が昔の遊びをとおして交流を深めた。[広報しりうち2月]
- 29日 ・ 知事の市町村訪問「ふれあいトーク」で堀達也知事が町を初訪問し、漁協のカキ加工処理施設を視察した後、中央公民館で松前、福島、知内、木古内、上磯、大野の6町長と懇談した。[広報しりうち3月]
- 31日 ・ 「ふれあい介護教室」（共催：知内町・知内町社会福祉協議会・しおさい園が『食事・口の清潔編』と題して行われた。[広報しりうち3月]
- ・ 湯ノ里保育所で雪中運動会を開催。[広報しりうち3月]
- 2月 ・ 「牛乳パックのリサイクルが本格化」これまで業者が行っていた学校給食で出されている牛乳パックの回収が中止となり、2月から児童生徒が自分たちで洗浄・乾燥させリサイクルする運動が始まる。[広報しりうち3月]
- 18日 ・ 第3回「しりうち味な合戦冬の陣 カキ・ニラまつり」が中央公民館で開催。1,500人が訪れた。[広報しりうち3月]
- 27日 ・ 知内町体育協会「創立30周年記念式典並びに祝賀会」を開催。[広報しりうち4月]
- 3月 11日 ・ 「サンデー議会」を開催。[広報しりうち4月]
- 28日 ・ 名画を上映する会「名画座シリウス」が「2001年宇宙の旅」を中央公民館で上映する。
- 30日 ・ 「知内町クリーンセンター（下水終末処理場）」が完成し処理を開始。[知内町クリーンセンター]
- 4月 ・ 「広報しりうち」4月号からこれまでのB5判がA4判に規格変更になり、文字も大きくなって読みやすくなる。
- 2日 ・ 「元町定住団地」分譲地の販売を開始。[広報しりうち]
- ・ 1999年度から整備を進めていた防災行政無線システムの完成に伴う「防災行政無線開局式」が町民センターで町議会議員など約30名が出席して行なわれた。開局にあたって脇本町長が無線放送で挨拶を行い、防災無線放送が開始した。[広報しりうち4月]
- 19日 ・ 離乳食講習会「すくすく教室」が保健センターで開催。[広報しりうち4月]
- 5月 10日 ・ 70歳以上の独居・夫婦世帯を対象にした「ふれあい給食会」が湯ノ里地区で行なわれた。[広報しりうち6月]
- 13日 ・ 出産を控えた女性を対象にした「マタニティ教室」を保健センターで開催。[広報しりうち6月]
- 6月 7日 ・ 山形県天童市で行なわれた「第13回全国身体障害者ゲートボール大会」に町身体障害者福祉協会のゲートボールチーム（佐竹勲監督）が北海道代表として初出場。2部決勝トーナメントでベスト8入りをした。[広報しりうち6・7月]
- 9日 ・ 郷土資料館ふれあい体験塾の「農業に挑戦」でビニールハウスをかけてからトマトの苗植えを行なう。[広報しりうち7月]
- 22日 ・ 「知内町クリーンセンター（下水終末処理場）」が町議会議員や各町内会会長など約50名が出席して通水式を行う。[広報しりうち7月]
- ・ 「かごしま北海道久成の会」会員が来町。村橋久成が初代社長を務めていた「知内村牧畜会社」の跡に建立したモニュメント「知内農業発祥の地」（上雷）を見学に訪れた。[広報しりうち400号記念号]

年	月日	できごと
2001年	6月23日	・「重内老人クラブ創立30周年記念」の式典と祝賀会が行われた。[広報しりうち400号記念号]
	7月	・「北海道故郷桜元気快の会」(浅利政俊代表・本部:函館)が『第5回ふるさと景観賞』を発表し、重内神社周辺と元町公園が函館市の五稜郭公園、根室市の清隆寺とともに選ばれた。[広報しりうち400号記念号]
	19日	・知内高校野球部が「第83回全国高等学校野球南北海道大会」(札幌円山球場)に2年連続出場するが、初戦敗退。[広報しりうち400号記念号]
	21日	・湯ノ里ホテルの会(佐藤新一会長・23名)主催の「ホテル祭」が4年ぶりに復活し、旧湯ノ里小学校跡のホテル公園で行なわれた。[広報しりうち8月]
	24日	・(有)幸和が「ローソン知内店」をきらく地区に開店する。
8月		・ダニエル・キム外国語指導助手が来町。小・中・高校の英語指導をする。[広報しりうち10月]
		・「広報しりうち」が400号を迎えた。昭和26年8月5日「知内村弘報」として発行。
	13日	・「北島三郎芸道40周年祝賀会」が中央公民館で行われた。
	14日	・第17回「サマーカーニバルin知内」と同時に第6回「知内おっばいまつり」第1回「知内雷光まつり」開催する。“歌手生活40周年記念北島ファミリー大いに唄う”を実施する。[広報しりうち400号記念号]
18・19日		・共通課題をもつ半島地域同士が野球を通じて交流を深め、活性化に役立てることが狙いの「半島いきいきネットワーク形成促進事業」(国土交通省)として渡島半島代表で知内高校、紀伊半島代表で中津分校が選ばれ、同じく甲子園出場経験を持つ函大有斗高校と弘前市の弘前実業高校も参加した野球大会が、しおさい球場で行なわれた。[広報しりうち9月]
	19日	・コンサドーレ札幌ユースチームの財前恵一監督が、サッカー少年団の指導に訪れた。[広報しりうち9月]
9月	1日	・管内の外国語指導助手や留学生を招き、町内の青年たちと交流をはかることで国際的視野を広げようと「青年国際交流会」を中央公民館で開催。[広報しりうち10月]
	11日	・「アメリカ同時多発テロ事件」発生。旅客機2機がニューヨーク世界貿易センタービルツインタワーに衝突し、ビルは倒壊した。死者3,025人。負傷者6,291人以上。容疑者はアルカイダ。
	18日	・「涌元町内会演芸の夕べ」で涌元出身の演歌歌手「伍代三郎演歌ショー」などを開催。[広報しりうち11月]
10月	7日	・元町町内会は知内小学校グラウンドで、前浜町内会は前浜子ども広場でそれぞれの町内会の「大運動会」を開く。[広報しりうち11月]
	14日	・湯ノ里町内会「創立50周年記念式典と祝賀会」が行われる。創立50周年記念誌『萩砂里』(B5判263ページ)を発行。[広報しりうち11月]
	20日	・「しりうち読書まつり」を開催。読書感想画・感想文の優秀賞受賞者への表彰や本の朗読会などが行なう。[広報しりうち11月]
	27日	・ふれあい体験塾「楽しい炭焼講座」でナラやカシワの木を使った木炭づくりを行なう。[広報しりうち11月]
11月	3日	・「三線の夕べ+津軽三味線とのジョイントコンサート」(郷土資料館主催)が中央公民館で開催。[広報しりうち11月]
	6日	・コープ札幌函館本部会員による「知内カキ見学会」が行なわれ、カキ加工処理施設の見学や試食会が行なわれた。[広報しりうち11月]
	9日	・「知内土地改良区」(森永勉理事長・組合員270名)の設立50周年記念式典と祝賀会が中央公民館で開催。同土地改良区は、土地改良法にもとづく道内3番目の改良区として1951年7月設立。記念誌『知内川』(A4判68ページ)を発刊。[北海道新聞11月12日・広報しりうち02年1月]
	10日	・健康の大切さを再認識する「すこやかフェスティバル」が中央公民館で開催。講演会や体力測定などを行なう。[広報しりうち11月]
	25日	・21世紀記念事業「成人教育セミナー—21世紀の子どもたちをどう育むか—」を中央公民館で開催。池上公介(池上学院)院長の「教育は家庭から」の講演や「今、家庭・学校・地域は何をすべきか」をテーマにパネルディスカッションを実施。[広報しりうち02年1月]

年	月日	できごと
2001年	12月 1日	・皇室にて愛子内親王誕生。
	17日	・知内郵便局が知内産カキの「ふるさと小包」を翌年3月20日まで行なう。[北海道新聞12月17日]
2002年(平成14年)		
	1月10日	・「ふれあい懇話会」が、上雷地区を皮切りに行なわれる。[広報しりうち2月] ・肥満にならないための「健康アップ講座」が涌元地区で開催。[広報しりうち2月]
	12日	・「新春陶芸展」がしおさい園で開催。入居者や職員の製作した作品を展示。[広報しりうち2月]
	16日	・岩手県の泉沢ミヨ子農村生活アドバイザーを講師に招き「冬季営農講座」を中央公民館で開催。[広報しりうち2月]
	18日	・道道小谷石渡島知内停車場線の「いさりびトンネル」で貫通式が行われる。このあと内装工事や舗装工事が行なわれ、本年12月に開通予定。[広報しりうち2月]
	25日	・「創作料理試食会」(町主催)が函館ハーバービューホテルで開催。地場農産物の知名度向上や消費拡大のために、知内ふるさと函館会会員や函館消費者協会会員に市場関係者など約150名が参加してにぎわう。[広報しりうち3月]
	28日	・悪徳商法などの被害を事前に防止するため「消費者問題講座」を防犯協会(岡田義道会長)と民生委員協議会(工藤寅雄会長)の共催で中央公民館で行う。生活安全推進委員や民生委員など約40名が参加。[広報しりうち3月]
2月	1日	・渡島・檜山管内13農協が合併した「新函館農業協同組合」(函館市・道南農業会館内)の発足式が、函館で開催。正組員数は、4,856名、販売取扱高は283億円と道内1。 [広報しりうち3月] ・JA知内は「JA新函館知内支店」となり。知内支店運営委員長小西勝則、知内支店長網野仁。[広報しりうち3月ほか]
	12日	・知内高校で消防署員による「救急救命法」の講座が行なわれ、人形を使用した心肺蘇生法を体験。[広報しりうち3月] ・知内高校の社会科授業で「郷土史」を郷土資料館学芸員が講師となって4日間8時限行なう。[広報しりうち3月]
	18日	・上雷倶楽部ときわ会「創立30周年記念式典と祝賀会」が開催される。[広報しりうち3月] ・ごみの分別が4月から変更になることから、町の担当職員が各町内会に行き「ごみ分別収集説明会」を実施。[広報しりうち3月]
	21日	・「吉田霊源23回忌法要」を知内歴史研究会(上林侃会長・会員13人)が大乗寺で行なう。
3月	3日	・「知内町レディースフォーラム」で女と男が共に輝く社会をテーマに講演会(題・自分らしく生きる一秒の重さ)や分科会が行なわれた。[広報しりうち4月]
	9日	・ふれあい体験塾(郷土資料館)で「春を探そう―燈明岳登山」を開催。塾生など40名が参加して、野鳥の観察や樹木につけられたヒグマの背こすり跡などを観察しながら燈明岳(577 ^米)に登頂。[広報しりうち4月]
	10日	・町議会定例会でサンデー議会を開催。[広報しりうち4月] ・田島隆教育長は町議会で、新年度から知内高校に2学期制を導入することを表明した。[広報しりうち4月] ・町議会第1回定例会で新収入役に大野幸孝総務課長が選任。[広報しりうち4月]
4月	1日	・完全学校週5日制の「ゆとり教育」がスタート。 ・北海道プラントサービス株式会社知内営業所が「北海道パワーエンジニアリング知内営業所」になる。 ・知内商工会内に「旅館サービス分科会」が組織され町内の民宿、旅館の9軒が会員となる。 ・きらく老人クラブを「きらく健友会」と改称する。[きらく町内会記念誌] ・学校週5日制の完全実施にともない児童向けの「土曜生き活き学級」(町教委)開始。
	13日	・「中高年体力づくり講座」が保健センターで行なわれ、ダンベルを使い自宅で簡単にできる体操などを指導。[広報しりうち6月]
	22日	・林野火災に備えた「空中消火用資機材捜査訓練」が知内川河川敷地で行われた。[広報しりうち5月]

年	月日	できごと
2002年	4月27日	・「ライラック街道植樹祭」が重内と森越間の農免道路に町民約150名が集まり、ライラック235本を植えた。[広報しりうち6月]
	5月3日	・第11回「さくらまつり青空市」を道の駅しりうちで実施。(～5日)[広報しりうち6月]
	25日	・「子ども会防火ドッチボール大会」を開催。[広報しりうち7月]
	28日	・経済団体連合会(経団連)と日本経営者団体連盟(日経連)が統合、日本経済団体連合会(日本経団連)が発足する。
	31日	・藤本義汎助役が病気のため退任する。
	6月1日	・新しくなった中学校野球場で管内6チームが参加して「新装オープン記念中学校野球大会」を実施。[広報しりうち7月]
	13日	・ホームヘルパー利用者が一同に会した交流会が行なわれ、ステージでは民謡などが披露された。[広報しりうち7月] ・「30代・40代フィットネス教室」を保健センターで実施。[広報しりうち7月]
	30日	・元町老人クラブ「創立30周年記念式典と祝賀会」が開催される。[広報しりうち7月]
	7月5日	・「郵政官署法」の施行を受け、町と町内の郵便局が、高齢者の安否確認や不法投棄の情報提供などの協定を結んだ。[広報しりうち8月]
	12日	・「知内町・今別町友好町締結記念交流会」を開催し、『友好の証』を交換したほか、知内町からステンドグラスサークル「雅楽巢の会」が製作したステンドグラス、今別町からは特産の錦石の置物が記念品として贈られた。[広報しりうち8月]
	13日	・「四町少年野外活動リーダー養成交流会」(町教委)を水の広場で実施。
	14日	・「湯の里ほたるまつり」を旧湯ノ里小学校跡で開催。ほたるクイズやラムネの早飲み大会、ホテル観賞会などが行なわれる。[広報しりうち9月]
	19日	・「JA夏まつり」が野菜集出荷貯蔵施設前で実施。[広報しりうち8月]
	20日	・初の「演歌のふるさと知内町カラオケ大会」が行なわれ多くの人に参加。[広報しりうち9月]
	21日	・第40回「北海道障害者スポーツ大会」のソフトボール競技を開催。[広報しりうち8月]
	22日	・第3回臨時議会で今村宏幸元北海道庁総合企画部参事が助役に選任。
	30日	・上磯町で開催の第53回「北海道中学校軟式野球大会」に知内中学校が4年ぶり5回目の全道大会出場を果たした。2回戦で敗退。[広報しりうち9月]
	31日	・知内高校の大学・短大進学希望者を対象とした合宿「実力講座」が旧矢越小学校で実施。(～8月2日)[広報しりうち9月]
	8月2日	・滋賀県の小学生を招いた「ホームスティキャンプ」を実施。イカのつかみ取りや川下りを行なう。(～3日)[広報しりうち9月]
	5日	・「住民基本台帳ネットワークシステム」が開始する。
	14日	・第18回「サマーカーニバル in 知内」第7回「知内おっばいまつり」第2回「知内雷光まつり」が開催される。[広報しりうち9月]
	25日	・第23回「渡島管内スポーツ少年団剣道交流会」が七飯中学校体育館で行なわれ、「町剣道少年団(竹田徹夫監督)」が小学生女子の部と個人戦で優勝。小学生団体男子が3位入賞を果たした。[広報しりうち10月]
	27日	・ソニーが「ベータマックス」のビデオ機器の生産終了を発表。
	30日	・「社団法人北海道建築士会函館支部」が、創立50周年を記念し、町へ車椅子を寄贈。[広報しりうち10月]
	31日	・第28回「渡島支庁地区身体障害者福祉大会」と第23回「渡島支庁地区身体障害者スポーツ大会」を当町を会場に開催。[広報しりうち10月] ・北海道石油コンビナート防災災害訓練が発電所内で行なわれた。[広報しりうち03年1月]
	9月4日	・中ノ川八幡神社の大漁祈願祭の「船祭り」に中の川小学校の全校児童が初めて参加。[広報しりうち10月]
	7日	・第2回「北海道知事杯北海道軟式野球選抜選手権大会」が旭川スタルヒン球場で行なわれ、「町野球協会(大野幸孝監督)」が優勝し、全国大会出場を決めた。[広報しりうち10月] ・町内の青年たちの国際的視野を広げるため、管内の外国語指導助手や留学生を招いた「青年国際交流会」を中央公民館で開催。(～8日)[広報しりうち10月] ・「ハマナス団地」2階建が完成する。

年	月日	できごと
2002年	9月12日	・「子ども芸術劇場」が知内小学校を会場に行なわれ。民話芸術座の「雨ふり小僧」を上演。[広報しりうち10月]
	13日	・環境美化などに功績があった団体として「きらく町内会」（岡田義道会長）が感謝状と楯を受贈。[広報しりうち10月] ・「北海道公民館協会道南ブロック研修会」が中央公民館で開催。[広報しりうち10月]
	17日	・小泉首相が、日本の首相として史上初めて、朝鮮民主主義人民共和国を訪問する。
	20日	・「渡島公立幼稚園教育研究大会」が知内幼稚園で行われる。[広報しりうち10月]
	27日	・町議会第3回定例会で田島隆教育長が退任の挨拶を行なう。
	30日	・田島隆教育長の退任式を役場ロビーで開催。その後中央公民館大研修室で、教育委員会職員と校長会、教頭会の人々が参集して「田島教育長 永い間ごころうさまでした会」が行なわれる。
10月	5日	・「第55回秋季北海道高等学校野球大会」に知内高校野球部が5年ぶり6度目の出場をするが、札幌麻布球場で行なわれた緒戦で敗退。[広報しりうち11月]
	15日	・北朝鮮に拉致された日本人5人が帰国。
	16日	・新教育長に松本征八前函館市立金堀小学校長が就任。[広報しりうち11月]
	18日	・道内1の生産量を誇るニラと町産のトマト、ホウレンソウを消費者にPRするためのパンフレット「知内産—にら・トマト・ほうれん草—お料理ブック」（A5判48ページ・5,000部）を知内町と新函館農協知内支店で発行。[北海道新聞10月18日]
	19日	・「ラテンな夜のライブパーティ」がきらく地区にある斉藤製作所倉庫で、ラテンバンド「AMIGOS（アミーゴス）」が出演し、町内の青年団体フロンティア21（岡田敬司代表）主催で行われた。[広報しりうち11月]
	18日	・笑いと健康と題した「介護教室」（主催：知内町福祉協議会）が開かれ、町民約60人が落語家による講演や介護機器の説明を聞いた。[広報しりうち11月]
	20日	・知内高等学校（成田雅昭校長）「創立50周年記念」の式典・祝賀会を開催（主催：知内高等学校創立50周年記念事業協賛会-藤谷利弘会長）。式典には在校生や同窓生、来賓など約500人が出席。手塚祐介生徒会長が挨拶。式典後に時計塔と第65回選抜甲子園出場記念碑の除幕式が同高校玄関前で行なわれた。創立50周年記念誌『知内を翔ける疾風となれ』（B5判349ページ）を発行。[広報しりうち12月]
11月		・「知内町の将来を検討する会」が発足、町民センターで第1回会議を開いた。会の委員は45人。沢岡孝弥会長・笠松悦子副会長が選任。[広報しりうち12月]
12月		・旧Aコープ店舗を改装した施設「わくわく工房」を拠点に「知内雷公力餅グループ」を設立し、町内外のイベントで餅加工品の販売開始。[広報しりうち06年1月]
	1日	・東北新幹線が八戸駅まで開業したのを機に、八戸駅での東北新幹線との接続、及び津軽海峡線の快速「海峡」の廃止による置き換えで、八戸駅—青森駅—函館駅間で運転を開始する。
	2日	・「小谷石町内会館」が完成し、住民の集いの場として活用されている。2階の展示室には、2000年3月に閉校した矢越小学校舎の百分の一の模型や小学校で使用していた品を展示している。[北海道新聞12月2日] ・長嶋茂雄巨人終身名誉監督が野球日本代表監督に就任。
	15日	・「道新オントナ」が企画したカキ料理を楽しむツアーの一行（札幌市と近郊の女性グループや家族連れなど）が来町。前日に函館で開催中の「クリスマスファンタジー」を見学後大沼に泊りして知内に入り、バイキング形式の昼食を楽しんだ。[北海道新聞12月17日]
	15日	・国有林を学校などに開放し体験学習の場として提供する「遊々の森制度」の協定をしりうち緑の少年団育成会（五十嵐捷爾会長）と桧山森林管理所が結ぶ。[広報しりうち03年1月]

2003年（平成15年）

- 1月11日・函館信用金庫知内支店と町内の商工業者でつくる信知会（東出隆之会長・会員36人）は、「創立20周年記念」の式典・祝賀会を行なう。知内の魅力を名刺大CD-ROMにして出席者に配布。[北海道新聞1月11日]
- 18日・「小谷石町内会館」の落成・祝賀会が小谷石町内会館で行われ、町内会会員や来賓約80名が出席。[広報しりうち2月]

年	月日	できごと
2003年	1月21日	・任期満了に伴う知内町長選挙と現職辞任に伴う町議会議員補欠選挙（欠員1）が告示され、町長選は無投票で脇本哲也町長が再選。[広報しりうち2月]
	25日	・「子ども会三世代交流広場」が中央公民館で行なわれ、参加者はかるたなどで異世代間の交流を深めた。[広報しりうち3月]
	26日	・町議会議員補欠選挙を3人で実施。西山和夫町議会議員が誕生。[広報しりうち2月]
2月	3日	・成人セミナー「刻字講座」が竹浪敏雄講師の指導によりふれあい工房で開催。
	11日	・知内高野球部の「選抜甲子園出場記念碑建立」や野球部後援会創立10周年記録集「白球ひとすじ夢を追って」（A4判）の発刊、などを祝う祝賀会が行われた。[広報しりうち3月]
	16日	・第5回「しりうち味な合戦・冬の陣カキvsニラまつり」が町特産品販売促進協議会とフロンティア21、観光協会の共催により中央公民館で開催。2,500人が来場。
	23日	・「知内町・今別町女性団体交流演芸会」が中央公民館で行われ、舞踊や寸劇などが披露された。[広報しりうち4月]
3月	4日	・第1回「チャリティ民謡ショー」が知内民謡会（長内柁親会長）の主催により中央公民館で行われ、約300人の聴衆が訪れた。[広報しりうち4月]
	9日	・信知会が創立20周年を記念して作製した、町PRの名刺大CD-ROM50枚が町に寄贈された。[広報しりうち4月]
	14日	・郷土資料館ふるさと講座で「大野土佐日記から読み解く北海道史・知内の歴史」と題した講座を講師に田端宏道都大学教授を招いて開催。[広報しりうち4月]
	19日	・「知内町の将来を検討する会」の6回目の会議が行なわれ、これまでの内容を報告書としてまとめられた。報告書は3月20日、沢岡孝弥会長と笠松悦子副会長から脇本町長に手渡された。[広報しりうち4月]
	28日	・アメリカ・イギリスによるイラク侵攻作戦開始（イラク戦争開始）。 ・ふれあい体験塾の修了式で「一日新聞記者に挑戦」を北海道新聞の西出真一朗記者を講師に実施。取材方法や記事の書き方などを学ぶ。[郷土資料館報告]
	3月31日	・新年度から育児支援の拡大策として「子育てサロン」（主催：知内町教育委員会）が月一回のペースで町内各地域で巡回開催する。[北海道新聞3月28日]
	4月1日	・「さけ稚魚放流式」（主催：知内町漁業協同組合）が独立行政法人さけ・ます資源管理センター渡島支所知内事業所（上雷）で行なわれ、稚魚60万尾が知内川に放流された。2月中旬から始めた放流が4月までに知内川980万尾、福島川に80万尾を放流した。[広報しりうち5月]
	16日	・郵政事業庁が「日本郵政公社」になる。（生田正治総裁）
	23日	・町の農業の未来について考える「知内町春季営農講座」（主催：知内町農業委員会）が知内町農業センターで開催され、20代から30代までの若い農業者が今後の稲作について話し合った。[北海道新聞4月16日]
5月	23日	・北海道知事選で当選した高橋はるみが、第15代北海道知事に就任。
	5日	・「知内町の将来を考える」をテーマに、5月に「広報しりうち特集号」を発行する。
	9日	・ふれあい体験塾が「ミュージアム・パル」に名称変更して最初の講座「手作り絵本作家養成講座」を実施する。会員22名が出席して世界に一冊しかない自分だけの絵本を作り挑戦した。[広報しりうち6月]
	11日	・小惑星探査機「はやぶさ」、内之浦宇宙空間観測所でM-Vロケット5号機により打ち上げ。
	25日	・「平成15年度町民植樹祭」が知内ダム公園で、町と林産業活性化議員連盟が湯ノ里町内会などの協力で行ない、小学生から一般まで約100名が参加して、エゾヤマツツジの苗木100本を植樹した。[広報しりうち6月]
	27日	・若手農業後継者でつくる知内町4Hクラブ（佐々木誠会長・会員9人）が、町内の北電公園向いの畑に設けた市民農園「4Hクラブ版DASH村？」の開園式が行なわれ、町内と木古内、函館から約20人が参加。[北海道新聞5月14日]
	25日	・「湯ノ里三世代交流事業植樹祭」が湯ノ里墓地付近の広場で、湯ノ里町内会（八木年幸会長）と湯ノ里老人クラブ（泉清会長）に湯ノ里地区山びこ子ども会・つばめ子ども会約100人が参加して、八重咲きの桜「カンザン」50本を植えた。
	27日	・キム・ダニエル外国語指導助手による「韓国語講座」が6回にわたって行われる。

年	月日	できごと
2003年	5月30日	・NHKBS ハイビジョン「エクササイズタイム」の収録を共同育成牧場跡地で大千軒岳をバックに行われた。[広報しりうち7月]
	6月2日	・「小谷石地区ふれあいクラブ」が、小谷石地区の70歳以上の高齢者を対象に、小谷石町内会館で初めて開催。33人が体操や宝引などのゲームを楽しんだ。[北海道新聞6月2日]
	8日	・「青函トンネル撮影台」(湯ノ里)の補修と「小谷石休憩所」(小谷石)の環境整備を知内観光協会(松崎永三会長)、知内商工会青年部(構口光部長)、女性部(岸本英子部長)約30名が集って行なった。[広報しりうち7月]
	10日	・知内・木古内両町の郵便局と木古内警察署が地域の安全に関する「協定調印式」を行なった。調印式には知内郵便局(川合敏隆局長)と湯ノ里郵便局(森谷正彦局長)に涌元郵便局(斉藤証義局長)の町内3局と木古内町3局そして警察関係者が出席して署名・押印し協定が結ばれた。[広報しりうち7月]
	27日	・社会教育が抱える課題を解決するために関係者が研究、協議する「第1回渡島管内社会教育主事並びに社会教育関係職員等研修会」(主催:渡島社会教育主事会)が中央公民館で開催。[北海道新聞7月4日]
7月		・今年の7月は冷夏。7月の平均気温が例年なら20.1度。今夏は16.2度。町民プールの開館日数は、平年の46%減だった。[広報しりうち9月]
	3日	・「車椅子の贈呈式」が行われた。北海道信用農業協同組合と新函館農業協同組合から知内町社会福祉協議会(能代久司会長)へ車椅子が3台が寄贈。[広報しりうち8月]
8月		・リアム・パートリー外国語指導助手が英語指導のため来町。[広報しりうち9月]
	1日	・生き活き体験塾の「海の子探検隊」が国内ホームステイ事業で滋賀県から来町している中学生6名を含む34名の子どもたちが参加して、海岸に行き海草の標本作製を行なう。[広報しりうち9月]
	8日	・児童がお年寄とふれあい人とかかわりあいなどを学ぶ初めての「ふれあい1日体験学習会」(主催:社会福祉協議会)が知内しおさい園(七尾大寿施設長)で開催。[北海道新聞8月10日]
	13日	・北島三郎の寄付で新築された荒神社の奉納奉告祭が知内公園内の同神社で行われた。[北海道新聞8月15日]
	14日	・「第19回サマーカーニバル in 知内」「第8回知内おっぱいまつり」「第3回知内雷光まつり」が開催。今年初めて「義経伝説」と題した歴史劇が行われた。
	25日	・住民基本台帳ネットワークシステムが開始。
	31日	・中ノ川町内会(西山忠会長・104戸)「町内会創立55周年記念」の式典・祝賀会が行われる。記念誌『中ノ川』(A5判、250ページ)を発刊。[広報しりうち10月]
9月	1日	・「湯ノ里地区農業集落排水(湯の里クリーンセンター)」が供用を開始。[広報しりうち04年1月]
	2日	・「家族のための介護講座」で介護福祉士による講演や車椅子などを使った実技講習が2日間にわたって行われた。[広報しりうち10月]
	7日	・「知内町アスパラガス生産組合」(西山忠会長・5戸)が減農薬の植酸有機農法により身体に優しいヘルシーアスパラガス作りに取り組んでいる。[函館新聞10月7日]
	8日	・天候不順で水稻生育11日の遅れで渡島支庁長らが知内町と木古内町を視察し激励する。[北海道新聞9月9日]
	12日	・台風14号の影響で小谷石漁港でプレジャーボート一隻が沈没するなどの被害が起きた。[広報しりうち]
	26日	・北海道釧路沖で地震が発生(2003年十勝沖地震)、死者1人、重軽傷者200人以上。
10月	2日	・平成15年度「渡島管内学校給食栄養職員研修会」が中央公民館で開催。「学校給食指導におけるポイント」と題した講演会のあと、会場を中の川小学校へ移し同校児童とともに「バイキング給食」の試食会が行なわれた。[広報しりうち11月]
	3日	・「ニラ販売額6億円達成を祝う会」を野菜集出荷場(重内)で新函館農協と町ニラ生産組合(小西勝則組合長・67戸)共催で開催。知内のニラ「北の華」の販売額が、1月5日から9月30日までの期間で6億円を突破した。生産量は127万7,211kg。[広報しりうち11月]
	10日	・町内会連合会主催の「平成15年度役員研修会」が町民センターで実施。約70人が参加。8回目となる今回は、「市町村合併をめぐる動向について」題した研修会を実施。[広報しりうち11月]

年	月日	できごと
2003年	10月16日	・「知内スタンプ協同組合」(田中雄二理事長・14店舗)がポイントカードに『教育支援券事業』を開始。消費者が加盟店で支払った一部を、町内の学校やサークルなどの団体に還元して活動を支援する事業。[函館新聞10月16日]
	26日	・「今別町・知内町ママさんバレーボール大会」を行ない、スポーツを通じて友好町との親睦が深められた。[広報しりうち12月]
	30日	・観光客向けのPR誌として宿泊施設ガイド『しりうちの宿』(A5判10ページ)を知内商工会が作製。[北海道新聞10月30日]
	11月2日	・「知内ふるさと函館会」(帰山一弥会長・会員199人)がバスツアーを行う。参加者29人が、第20回知内町産業まつりに参加したあと、こもれび温泉に行き昼食をとったあと入浴等で日頃の疲れを癒した。[広報しりうち11月]
		・「第20回知内町産業まつり」町民センター駐車場で開催。約3,000人が来場。[広報しりうち12月]
		・JA新はこだて青年部知内地区青年部(玉森健部長・15人)は、「元気な野菜っ子」と「しりうち育ち」を裏表に描いた手作りのPR看板を、中ノ川の国道228号沿いに設置。[広報しりうち12月]
	8日	・「知内健康づくりフェスティバル」が中央公民館で開催。体力年齢を調べたり、健康体操を行なう。また、『脳は若がえる』と題した講演を高田明和浜松医科大学名誉教授が行なう。[広報しりうち12月]
	9日	・第43回衆議院総選挙、投票即日開票。
	12日	・「寺参りコンサート」が大乗寺で初めて開催。ピアノを伴奏に函館在住のソプラノ歌手が、各地の民謡や叙情歌などを唄う。
	27日	・小谷石海岸にオットセイが上陸するが3時間くらいで沖合にもどる。[北海道新聞11月29日]
	12月11日	・青函トンネル出入り口を背景に写真撮影のできる「青函トンネル記念撮影台」をPRするため、手作り看板を国道228号沿いに設置。[北海道新聞12月11日]
	13日	・「上磯郡4漁協(知内町・木古内町・上磯町・上磯はまなす)合併仮契約調印式」が、4漁協組合長や3町の首長など約70人が出席して行われた。来年4月1日には、「上磯郡漁業協同組合」となり、本所は知内町漁協本所(涌元)に置き、ほかは支所となる。[北海道新聞・函館新聞12月14日]
	14日	・道南で最大規模の鋼鉄製大型魚礁(幅と奥行き10メートル、高さ約20メートル)4基を直線上に並べて、知内沖の水深約100メートルの海底に設置。[北海道新聞12月14日]
	16日	・涌元谷地町内会(松井盛泰会長・76戸)が市町村合併について勉強しようと「市町村合併に関する地区説明会」を役場から助役と総務課長を講師に招いて町内で初めての地区説明会実施。[広報しりうち04年1月]
	17日	・2004年度お年玉付年賀はがき・切手「ふるさと小包賞」に知内郵便局の「知内かき」が選ばれた。[函館新聞12月17日]
	20日	・町勢要覧『知内見聞録』(A4判29ページ・資料編23ページ)を発行。5年ぶりの改訂で町民の顔や声を多く掲載。[函館新聞12月20日]
	22日	・地域の要望を聞いて行政の施策に反映させようと町民センターで「町内会長会議」を開いた。[北海道新聞12月25日]

2004年(平成16年)

- 1月11日・町民と行政が語り合う「ふれあい懇話会」がほかの町内会に先駆けて、湯ノ里町内会で行われ、地域住民約40人が参加した。[広報しりうち2月]
- 23日・若手農業後継者で作る知内町4Hクラブ(手塚真広会長・8人)が、平成14年から開園した市民農園「4Hクラブ版DASH村?」の取り組みとハウレン草の病害防止として環境を考慮した消毒法を実践したことが評価され「北海道優秀農業青年クラブ表彰」を受けた。[広報しりうち3月]
- 25日・第1回「知内町フットサル大会」がスポーツセンターと知内中学校体育館で行われる。知内町のほか函館市、上磯町、木古内町、福島町、松前町から計14チームが参加。地元の「ファルコ・ロッソ知内」が初代チャンピオンになった。[広報しりうち3月]
- 31日・知内町女性団体連絡協議会(鳴海美江子会長)「設立55周年記念式典・祝賀会」が中央公民館で行われた。[広報しりうち3月]

年	月日	できごと
2004年	1月31日	・知内町漁業協同組合（西山大太郎組合長）は知内マコガレイと知内カキの安定したブランドを築くため町の支援を受け、それぞれの料理法を紹介したパンフレットを製作。マコガレイのパンフレット「知内真子鯨」は、A5判34ページで3,000部。カキのパンフレットは「海峡育ち知内かき」B6判6ページで6万部。
	2月3日	・「第15回全国ニラ生産者北海道大会」が中央公民館で行われた。生産者の栽培技術向上と産地間交流を目的に1971年から2年に1度開催されており、北海道では初めての開催。[広報しりうち3月]
	8日	・「第6回しりうち味な合戦・冬の陣 カキ vs ニラまつり」（主催：知内町・町特産品販売促進協議会・フロンティア21）が中央公民館で開催。2,500人が訪れた。
	11日	・教育大学函館校の博物館実習生男女2名が、保健センターの「リハビリ教室」に参加して回想法を実習。[広報しりうち3月]
	15日	・「四町合同ケアマネージャー研修会」が中央公民館で開催。介護現場に役立つ講演や分科会、意見交換会が行なわれた。[広報しりうち3月]
	20日	・「経営体育成・認定農業者研修会」で『夢を持てる地域農業の確立に向けて』と題した講演会を実施。[広報しりうち4月]
	3月13日	・「知内町漁業協同組合（西山大太郎組合長・組合員95人）」が中央公民館で解散式を行う。組合員や町関係者など約200人が出席し、1968年誕生してから36年の歩みをふり返った。[広報しりうち4月]
	16日	・知内町選挙管理委員会（福士宏蔵委員長）が平成15年11月9日に行われた衆議院議員総選挙の投票率が、4年前の同選挙に比べて増加、または維持した市区町村に贈られるもので、北海道選挙管理委員会から表彰される。[広報しりうち4月]
	28日	・「知内町議会議員選挙」が行なわれる。議員定数が16人から12人へと4議席削減したなかでの選挙。投票率は89.65%。[広報しりうち4月]
		・函館地方法務局木古内出張所が廃止された後に、町民センターで実施してきた「登記相談所」の開設を3月末で終了。[広報しりうち3月]
	4月1日	・「上磯郡漁業協同組合」が誕生。知内、木古内、上磯、上磯はまなす4漁協が合併し、正組合員数330人（うち知内95人）。
		・知内消防署（阿部島譲署長・署員22人）に新しく「水槽付き消防ポンプ自動車」が導入された。[広報しりうち5月]
	14日	・第1回臨時議会で、松井盛泰議長と伊藤政博副議長を選出。
	21日	・信知会（岡田敬司会長・会員29人）が町の現状と市町村合併について理解を深めようと「知内町の現状と将来について」と題した研修会を脇本町長と大野総務課長を講師に招き知内商工会館で開催。会員など30人が出席。[広報しりうち5月]
	25日	・「創作舞踊発表会」が知内舞踊サークル（田中レミ子代表）と涌元新舞踊光流会（秋元弘子代表）の共催で中央公民館で行なわれ、約250人が観賞。[広報しりうち6月]
	25日	・2002年度から町内の小学校教諭や郷土資料館学芸員などで作る編集委員会が、各関係機関や地元企業の協力を得て作成していた小学校3・4年生の教材「社会科副読本」が完成し、各小学校の授業で使用されている。[広報しりうち7月]
	25日	・町内の教師たちが集り、授業での郷土資料の活用や日頃悩んでいる問題を気楽に語り合う「ミュージアム・サロン」を4月から月1回金曜日の夜に開催。[北海道新聞7月31日]
	5月9日	・「町民植樹祭」が小谷石・涌元海岸道路のナマコ岬の台地で行なわれ、参加者はミズナラやケヤマハンノキなど100本を植樹。[広報しりうち6月]
		・昭和48年9月24日の小谷石豪雨災害の復興30周年を記念した「ふれあい運動会」が旧矢越小学校グラウンドで、小谷石町内会（松崎永三会長・88戸）主催となって実施。[広報しりうち6月]
		・中の川小学校（武田誠校長・児童31人）が森越川にサクラマス稚魚1,000尾を放流。渡島西部森づくりセンターの協力を得て実施。[広報しりうち6月]
		・「初めてのパパママ教室」が保健センターで開催。講義と実技から子育てについて学ぶ。[広報しりうち7月]
	6月	・「わくわく工房」（元町）を拠点に活動してきた「知内雷公力餅グループ」が、夢や幸せが沸くようにとの願いを込めてグループ名を「わくわく工房」に改称し、新たに味噌や漬物、赤飯の販売に着手した。[広報しりうち06年1月]

年	月日	できごと
2004年	6月11日	・「渡島町村対抗ゲートボール大会」が河川敷地のゲートボール場で開催。渡島管内の12町から21チームが参加。[広報しりうち7月]
	13日	・町内の郵便局員が環境美化に協力しようと、知内川河川敷地のファミリースポーツ広場周辺のごみ拾いを実施。[広報しりうち7月]
	17日	・「渡島西部観光モニター」一行60人が来町し、知内温泉旅館や道の駅「しりうち」などを視察。[広報しりうち7月]
	19日	・第48回高松宮賜杯全日本軟式野球大会南・北海道大会がしおさい球場で行われ、「知内町野球協会」(大野幸孝監督・20人)が地区優勝し、全道大会に出場が決まる。
	30日	・「知内町交通安全安心まちづくり演奏会」がスポーツセンターで開催。木古内・知内地区安全安心まちづくり住民大会実行委員会(門間辰太郎会長)が主催。町内の幼稚園・保育園児や小中高生のほかしおさい園の入所者や一般町民、関係者など約1,000人が訪れた。[広報しりうち7月]
	7月1日	・道の駅「しりうち」の知内物産館の2階にラウンジにレストラン「アジアンフードの店『ティンティンTIN TIN』」が開店。[広報しりうち7月]
	11日	・第20回参議院議員通常選挙投票実施。
	16日	・町内の砂浜で、銀白で細長い体と大きな目が特徴のサケガシラ(約140センチ、フリソデウオ科)が波打ち際で捕獲された。[北海道新聞7月23日]
	24日	・JA新はこだて知内支店の「第10回夏まつり」が重内の野菜集出荷場で開催。夏まつり運営委員会(小西勝則委員長)が中心に企画、開催。収益は青年部と女性部の活動費に充てられる。例年1,000人近い来場があるなど人気のため、今年は開催時間を30分早めた。[函館新聞7月27日]
	8月	・登下校する児童の転落防止のため、新知内橋の欄干の高さをかさ上げした。[函館新聞8月14日]
		・重内町内会では、浄化槽を設置し水洗化した「公衆用便所」を重内神社前の広場に設置。[広報しりうち9月]
	1日	・「しりうち大生鮮市・まこがれいまつり」(主催:知内町)が中ノ川漁港で開かれ、函館などから約1,000人が訪れた。[北海道新聞8月3日]
	6日	・北海道教育大学函館校による「アートキャラバン2004in知内」を開催。(～8日)[広報しりうち9月]
		・「中の川バドミントン少年団」(斉藤信宇監督・部員17人)の団員6人が、室蘭市で開催の第23回北海道バドミントン大会に出場。
	8日	・少年野球チーム「知内元町ジャガーズ」(松本泰行監督・部員22人)が第11回太陽グループ杯争奪北海道少年軟式野球選抜大会渡島支部大会でブロック優勝。渡島代表決定戦に進出し第3位になった
	13日	・「サマーカーニバルin知内」の開催に尽力された北島三郎の功績をたたえ「ありがとうサブちゃん!!感謝の集い」が中央公民館で開催された。[広報しりうち9月]
		・アテネオリンピック開幕(～8月29日)
	14日	・今年で20回目を迎える「サマーカーニバルin知内」と9回目となる「知内おっぱいまつり」、4回目となる「知内雷光まつり」が知内川河川敷特設会場で行なわれ、約2万人が訪れた。[広報しりうち9月]
	19日	・のびのび教室とつくしっこクラブ合同の「水遊び」が水の広場で行なわれた。[広報しりうち9月]
	20日	・台風15号未明襲来。知内川増水。
		・「JAヘルシー講座」が保健センターで行なわれ、農協女性部員が簡単な運動で心地よい汗を流す。[広報しりうち9月]
	9月	・道南生まれのコメ「ふっくらんこ」が今シーズンから渡島・檜山支庁管内で販売される。
	4日	・郷土資料館の「せせらぎサイエンス」事業で古川沼の水質や水深、流れの早さなどを調査。[広報しりうち10月]
	8日	・台風18号襲来。典型的な風台風だったため、稲の被害は少なかったがハウスの半分くらいは破損。コンクリートの電柱も倒れた。郷土資料館の体験学習用畑のソバは倒伏して刈り取りは不能。[広報しりうち10月]
	29日	・「知内町交通安全緊急総決起大会」が中央公民館で行われ、町民一丸となって交通安全の意識の高揚を図った。[広報しりうち11月]

年	月日	できごと	
2004年	10月3日	・「知内町地域防災計画（防災訓練計画）」に基づいた防災訓練が元町地区で行なわれた。[広報しりうち11月]	
	6日	・町立湯ノ里保育所で食中毒発生。給食を食べた園児16人と職員4人が、発熱や腹痛、下痢などの食中毒のような症状を訴え、12人が医療機関に行き治療を受けた。12人の便からサルモネラ属菌が検出。[広報しりうち11月]	
	15日	・「移動消費生活センター研修会」が中央公民館で行われた。老人クラブ会員や各団体関係者、一般町民が約130人が「悪質商法」や「おれおれ詐欺」に関する知識や対処法などを学んだ。[広報しりうち11月]	
	23日	・「知内川の清流を守る会」（沢出志郎会長）が子供たちを対象にしたサケ釣大会を初めて開催した。[函館新聞10月28日・広報しりうち11月]	
	24日	・上雷町内会（丸山義隆会長・61戸）が雷公神社の前身である賀茂両社の創建760周年と山田農場の創立123周年を記念した碑「雷創拓」の除幕式を行なう。その後、中央公民館で記念式典と祝賀会を開催。記念誌『上雷』（A4判240ページ）を発刊。[広報しりうち11月]	
	11月		・知内高校野球部が「第57回秋季全道野球大会」でベスト4を決めた。
			・新紙幣発行。肖像画は、1万円札が旧紙幣と同じく福沢諭吉、5千円札が樋口一葉、千円札が野口英世。
		14日	・「健康づくりフェスティバル」が中央公民館で行われ、110人が訪れた。「国民栄養状態」と題した講演の後、椅子に座りながらでもできる健康体操が指導した。[広報しりうち12月]
	22日	・文部科学省から「学力向上フロンティア事業」の指定を受けている知内中学校（大西正光校長・生徒153人）が、「平成16年度教育実践発表会」を同校で行った。町関係者約70人のほか近隣市町村や胆振地方、青森県から教職員25人が参加。[広報しりうち05年1月]	
	12月	1日	・JA新はこだて知内支店女性部（笠松悦子部長）が創立40周年を迎えて、記念式典と祝賀会が中央公民館で行われた。坂本繁組合長ら約120人が出席。[函館新聞12月3日・広報しりうち05年1月]
		4日	・函館市は隣接する戸井町・恵山町・楳法華村・南茅部町と合併。
			・「南北朝道考古学情報交換会」（松崎水穂会長）の25回目の「総会と研修会」を中央公民館で開催。道南や東北地方、東京などからの研究者や考古学に関心のある人など約120人が出席。初日の第1部で渡島・檜山管内の市町で進められた発掘調査の報告。第2部はストーン・サークルを題材に研究討議を行ない。2日目は同交換会の総会后、第3部の北海道埋蔵文化財センターが調査した上磯町などの発掘状況を紹介して終了。（～5日）[広報しりうち05年1月]
2005年（平成17年） 知内町フロンティア800年記念の年			
1月		・知内高等学校と函館大学が、「高大連携教育協定調印式」を行う。互いに連絡、つながりを深める教育活動を展開することを目的に協定。[広報しりうち]	
	25日	・「町クリーンセンター」の処理能力を高めるための増設工事着手。[広報しりうち3月]	
2月	8日	・知内中学校（大西正光校長・生徒153人）が、学校教育において優れた実績をあげた学校および教職員を表彰する「平成16年度北海道教育実践表彰」を受賞。同校は、1971年度以来2度目の受章。[広報しりうち3月]	
	11日	・「市町村合併問題に関する町民懇談会」が知内町議会（松井盛泰議長）主催で中央公民館で開催。[広報しりうち3月]	
24日		・成人セミナー「男の料理教室」が中央公民館で開催。手軽に美味しくできる料理を習得した。[広報しりうち4月]	
	26日	・平成5年度に結成された中の川小学校児童で組織するバレーボールチーム「中の川ウィングス」が、部員の減少にともない、12年間の活動に終止符を打つことになり、「解散記念交流大会」を催して解散した。[広報しりうち4月]	
3月		・平成15年7月に制定された「次世代育成支援対策推進法」に基づいて『知内町次世代育成支援対策地域行動計画』（役場民生課）を策定した。[広報しりうち5月]	
		・安全で良質な水道水を供給するために、水質検査の項目や場所、回数などを定めた『平成17年度水質検査計画書』を作成した。今後も利用者の意見を参考に毎年見直しに行く予定。[広報しりうち5月]	

年	月日	できごと	
2005年	3月4日	・郷土資料館ふるさと講座「地質学から考える郷土の姿」と題した講座を雁沢好博(北海道教育大学函館校)教授を招いて開講。[広報しりうち4月]	
	19日	・知内町ニラ生産組合(小西勝則組合長・72戸)が「第11回ホクレン夢大賞」を農業部門で受章する。[広報しりうち4月]	
	31日	・郷土資料館のミュージアム・パルで「修了式」と「コーヒーの淹れ方の手順書作り」を行なう。[広報しりうち5月]	
	4月	・矢越岬灯台は、平成17年度の工事で新たに太陽電池パネル(24V/264W)3面が屋根に設置され太陽電池式の灯台になった。小谷石から山越えで設置されていた、電柱23箇所とケーブル1,428メートルが撤去された。[函館海上保安部]	
	1日	・「知内町個人情報保護条例」が施行する。 ・元町定住団地分譲の条件を緩和し、住宅建設の年限条件をなくした。	
	11日	・知内幼稚園(中村政雄園長・62人)で「3歳児教育」が始まる。地域の要望と次世代育成支援の観点から導入した。[広報しりうち5月]	
	20日	・「知内町福祉有償運送等運営協議会」の初会合を開催。要介護者などを病院へ移送する際の手数料を有償にする仕組みを検討するために立ち上げた。会長は岡田貞雄(町内会連合会長)。[函館新聞4月23日]	
	22日	・湯ノ里地区で自らの経験や技術を地域のために還元するための「シニア有償ボランティアの会」が設立する。[北海道新聞4月22日]	
	26日	・「知内町季節労働者組合」(野戸多喜雄会長)の設立総会が、はまなす集会所で開催。季節労働者や出稼ぎ者の援護のため元町・涌元・小谷石の地区にあった労働者組合が統合した。会員数は73人。[広報しりうち6月]	
	28日	・「道の駅しりうち」(湯ノ里)2階のレストランが、名前を「しりうち道の駅レストラン」に変更して営業を開始。[函館新聞4月28日]	
	5月2日	・町の特産品をPRする「第14回さくらまつり青空市」(主催:知内町特産品販売促進協議会)が湯ノ里の農村活性化センター前で開催。3日間で約1万3千人が訪れた。3日には、町観光協会(松崎永三)が町出身の歌手松前ひろ子を招いて、昨年7月発売した歌「母ざくら」にちなんだ記念植樹を脇本町長ほか3人と実施。最後にミニライブを行なった。(～4日)[広報しりうち6月]	
	6日	・日本プロ野球史上初のセ・パ交流戦が開幕。	
	7日	・知内町フロンティア800年記念事業「水土里(みどり)の植樹祭」が雨が降りしきる町道重内1号線沿いで行われた。知内町森林・林業・林産活性化議員連盟と美土里ネット知内(知内土地改良区)が共催で実施。町の関係者や重内町内会員など約130人が参加。渡島西部森づくりセンター職員による植樹指導のもと5地区で植樹を行なった。[広報しりうち6月]	
	8日	・「知内・今別友好町締結15周年記念」の式典が「今別町町制施行50周年記念」とあわせて青森県今別町開発センターで開催。知内町からは脇本町長をはじめ42人が出席。[広報しりうち6月]	
	8日	・木古内・知内ライオンズクラブ(近藤攻会長・会員33人)の「認証40周年記念式典」が中央公民館で行われた。同クラブや道南各クラブの会員、来賓ら約170人が出席。40周年を記念してスキー記録測定器の資金130万円を知内町スキー協会に贈った。[北海道新聞5月10日夕]	
	10日	・「過疎地有償運送」事業者の承認書が北海道運輸局函館運輸支局から知内町社会福祉協議会(能代久司会長)に交付。16日から移送を開始する。介護保険料のなかに料金が含まれるため、利用者の負担はこれまでと変わらない。[函館新聞5月13日]	
	11日	・知内町福祉協議会(能代久司会長)主催の「子育てサポートボランティア講座」が保健センターで開催。延べ57人の町民が出席。(～13日)[広報しりうち6月]	
	19日	・「交通安全指導車」がエンジンとモーターで駆動するハイブリットカーに更新された。16日に納車され19日から使用開始。[広報しりうち6月・函館新聞5月27日]	
	27日	・町内の9スポーツ少年団を組織化するため「知内町スポーツ少年団」(上野忠明本部長)を結成することになり、各少年団の団員や指導者約217人が出席し、結団式を行なった。[広報しりうち・函館新聞6月1日]	
			・小谷石の民宿「海の宿 矢越」が所有する漁船を遊覧船として届けて、「道南の知床」ともいわれる矢越岬周辺の遊覧を6月から開始する。[北海道新聞5月27日]

- 2005年 6月 7日 ・ 知内町森林・林業・林産業活性化議員連盟主催の「いつかは実を結ぶ植樹祭」が涌元小学校（吉井保弘校長）で実施。児童と協力してブルーノの木6本を植えた。[広報しりうち7月]
- ・ 「ブックススタート事業」を導入し、10ヶ月の乳幼児健診で保健センターに来る親子に、無料で絵本を3冊渡した。また、読書サークル「ライラックの会」が、親子に読み聞かせを行い、自宅でも実践するようにすすめた。[北海道新聞6月9日]
 - ・ 「傾聴ボランティア講座」が町社会福祉協議会主催により中央公民館で実施。2005年度地域福祉ネットワーク事業の一環で初めて開催。町内の地域ボランティアやホームヘルパー、民生委員など40人が参加。平田口腔顎顔面外科がんにビレッジ（札幌）の木村睦子副院長が「お年寄の悩み・苦しみに耳を傾けよう」と題して講演。[函館新聞6月7日]
- 15日 ・ 環境美化の一環にと、北電知内火力発電所などの職員60人が、構外の道路や海岸の清掃を行なった。[広報しりうち7月]
- 16日 ・ 郷土資料館の大人向けの新事業「知内学のすすめ」を始める。自学自習をモットーに、「知らないことを知り、知っていることは再確認」しようと、町内や函館市・七飯町・木古内町・福島町などから18人が開講式に出席。[広報しりうち7月]
- 20日 ・ 「明るく豊かな町づくり」のために「第1回知内町花いっぱいコンクール」を知内町花いっぱいコンクール実行委員会主催で実施することになり、6月20日から7月29日まで参加者を募集する。[開催要項]
- 26日 ・ 「平成17年度渡島地方消防総合訓練大会」（主催：道消防協会渡島地方支部）が知内川河川敷地で開催。管内12市町の消防団計約920人が訓練の成果を披露した。[広報しりうち・北海道新聞6月27日]
- 27日 ・ 今上天皇と皇后が太平洋戦争戦没者の慰霊の為にサイパン島を訪問。（～28日）
- 7月 1日 ・ 町の始まりから800年を記念した「知内フロンティア800年記念事業」の全体像がまとまった。7月の「町民大運動会」をメインに。教育フォーラムや記録映像の製作など事業数は17。町の成り立ちへの理解を深めながら世代を超えて交流するのが目的。[函館新聞6月30日]
- 2日 ・ 函館地区予選を勝ち抜いた知内バレーボールクラブ（荒木周子監督・部員32人）が、苫小牧市総合体育館で行なわれた「ペプシカップ第25回全日本バレーボール小学生大会南北海道大会」に出場しベスト8入りを果たした。知内バレーボールクラブは、平成9年に結成された。[広報しりうち8月]
 - 14日 ・ 知床半島の世界自然遺産への登録が決まる。
 - 15日 ・ 「小・中・高野球全道大会出場合同壮行式」が中央公民館で行われた。野球スポーツ少年団の知内ジャガーズと知内中学校野球部、知内高等学校野球部が同時期に全道大会を決めたことから、町はじまって以来の快挙を祝おうと体育協会（中島邦博会長）が主催し、選手や父母、町民など約250人が集った。[広報しりうち8月]
 - 31日 ・ 知内町フロンティア800年記念事業「町民大運動会」（代表実行委員長・岡田貞雄町内会連合会長）が知内中学校サッカーグラウンドで行われた。町制施行30周年を記念した平成9年以来8年ぶりの開催。町内会対抗で実施。子どもからお年寄まで約700人が参加した。[広報しりうち9月]
- 8月 5日 ・ 知内町フロンティア800年記念事業の「教育フォーラム」が、知内町教育委員会と渡島教育研究所、知内町教育研究所の共催で知内中学校で行われた。渡島管内の教職員や児童・生徒の保護者、教育関係者など約200人が参加。第1部は「元気の出る学校づくり」と題した早稲田大学の菊池助教の講演会。第2部は「地域の中の学校を考える」をテーマにシンポジウムが行なわれ、大沢照雄知内小学校校長や大西正光知内中学校校長、千葉功前知内町PTA連合会長がパネリストを務め、討論が繰り広げられた。[広報しりうち9月]
- ・ 7日まで「異世代交流美術展」が中央公民館で開かれ、3日間で280人が来場した。開会式のテープカットには、大野幸孝収入役や松本征八教育長らがハサミを入れた。展示作品は渡島管内の幼児や小・中・高校生、一般社会人などから応募のあった233点のほか北海道教育大学函館校の学生の作品17点も並べられた。6日には「デッサン会」を開催した。[広報しりうち9月]

年	月日	できごと
2005年	8月5日	<ul style="list-style-type: none"> ・「知内町行政改革推進委員会」（沢岡孝弥会長）の答申がまとまり、沢岡会長が脇本町長へ答申書を手渡した。町では、この答申を受けて新しい行政改革大綱を策定し、将来を見据えた行政改革を進めていく。[広報しりうち9月] ・知内町4Hクラブ（手塚真宏会長・8人）が平成16年度「全国優秀農業青年クラブ等表彰」で農林水産大臣賞を受章した。[広報しりうち10月] ・第1回「知内町花いっぱいコンクール」（知内町花いっぱいコンクール実行委員会）の審査の結果最優秀賞は、きらく健友会の花壇に決定。 ・新しい外国語指導助手としてオーストラリア生まれのサミュエル・ウィルソン（27歳）が着任。[広報しりうち9月]
	9月1日	<ul style="list-style-type: none"> ・檜山北部3町の北檜山町・瀬棚町・大成町が合併し「せたな町」として新たに誕生。
	11日	<ul style="list-style-type: none"> ・第44回衆議院議員総選挙投票日。（郵政選挙と呼ばれ、与党の自由民主党・公明党が圧勝。） ・明星大学（東京）の「へき地教育研究会」の学生6人が、5日間にわたって湯ノ里小学校（校長丸山隆一郎校長・27人）で実習を行なった。[北海道新聞9月16日]
	15日	<ul style="list-style-type: none"> ・「糖尿病を知る会」が保健センターで行なわれ、参加者は血糖値が下がった実体験などを語り合った。[広報しりうち10月]
	25日	<ul style="list-style-type: none"> ・「知内町・今別町ママさんバレーボール交流大会」を実施。[広報しりうち10月] ・「ホームヘルパー利用者交流会」が知内温泉で行なわれ、参加した55人は、入浴や美容体験などを行なった。[広報しりうち11月]
	28日	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道新幹線新青森・新函館間の工事実施計画が4月に認可。湯ノ里の知内駅周辺でも工事が行なわれることから、「独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備機構北海道新幹線建設局」（札幌市）主催による地元説明会が、湯ノ里町内会館で開催。[広報しりうち11月]
	29日	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道大学水産学部に所属する留学生とその家族や教員、研究員など33人が町の水産施設見学のため来町。[広報しりうち11月]
	10月	<ul style="list-style-type: none"> 第18回国勢調査 2,050世帯 男2,628 女2,819 計5,447人
	6日	<ul style="list-style-type: none"> ・河川やダム湖などを有効活用し、住民の生活文化の向上と地域の発展を目的に組織する「北海道河川環境整備促進協議会」の担当者48人が、全道各地から集り研修会を行なう。（～7日）[広報しりうち11月]
	8日	<ul style="list-style-type: none"> ・道内の強豪社会人野球チームとして知られるNTT北海道野球部と航空自衛隊千歳野球部が参加して「野球教室」と「社会人野球記念大会」が知内高校野球部後援会と知内高校野球部父母の会の共催で開催される。[広報しりうち11月]
	9日	<ul style="list-style-type: none"> ・知内民謡会の発会25周年を記念して「チャリティ民謡ショー」（主催：知内民謡会）が、野口三絃会（野口孝夫会長）と日本民謡協会道南木古内支部（泉秀夫支部長）の協力得て中央公民館で行なわれ、約200人の人が訪れた。[広報しりうち11月]
	12日	<ul style="list-style-type: none"> ・イカ釣り漁船模型「第一天正丸」が、製作者の小林正友（中ノ川）より町へ寄贈。[広報しりうち11月]
	15日	<ul style="list-style-type: none"> ・「第1回わくわく青空市」（主催：特産品販売促進協議会）が知内町農村活性化センター（湯ノ里）で実施。町、農協や漁協、商工会会員など5店舗が出店。[広報しりうち11月]
	16日	<ul style="list-style-type: none"> ・『フロンティア800年に輝く女性達』と題した「大演芸会」を知内町女性団体連絡協議会（鳴海美江子会長・240人）主催で舞踊やカラオケ歴史劇などを中央公民館で実施。約200人が来場。[広報しりうち11月] ・第21回「渡島管内スポーツ少年団交歓大会」（主催：渡島管内スポーツ少年団協議会）が森町民体育館であり、「中の川バドミントン少年団（斉藤信宇監督・18人）」が男子団体の部で初優勝。[広報しりうち12月]
	17日	<ul style="list-style-type: none"> ・知内町防犯協会が主催で青色回転灯を装備した防犯パトロール車の「出発式」を実施する。[広報しりうち]
	22日	<ul style="list-style-type: none"> ・23日まで「ニュースポーツ指導者養成講習会」を北海道教育委員会と共催で中央公民館とスポーツセンターを会場にして実施。[広報しりうち12月]
	27日	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回「知内・木古内地区地域安全運動子ども会対抗ドッジボール大会」が、スポーツセンターで行われた。[広報しりうち12月]
	11月3日	<ul style="list-style-type: none"> ・「ほくでんファミリーコンサート」が札幌交響楽団（尾高忠明・指揮）によってスポーツセンターで行なわれる。[広報しりうち12月]

年	月日	できごと
2005年	11月4日	・「電気のふるさとシンポジウム」が町主催により中央公民館で開催。電気学会の長谷川淳会長（函館工業高等専門学校長）が「電力・エネルギー事情と知内町の役割」と題した基調講演を行なう。その後のパネルディスカッションでは「北海道新幹線着工と青函トンネル玄関口・電力供給基地としての知内町の未来」テーマに討議する。[広報しりうち12月]
	12日	・「知内町フロンティア800年記念事業」の一環として「特別功労表彰」と「記念講演会」・「記念祝賀会」を町と連合町内会が主催して中央公民館で実施。約250人の町民が集った。田島隆前教育長が特別功労者として表彰される。記念講演では小檜山博講師が「ひとりでは生きられない」を話す。[広報しりうち12月]
	19日	・知内町フロンティア800年記念特別展「『歴史と伝世の品々』—しりうち800年の歴史をたどる—」を郷土資料館で12月10日まで開催。[広報しりうち06年1月]
	24日	・初めての「観光ガイド交流研修会」（主催：知内町観光協会）を中央公民館で実施。渡島・桧山管内の観光ガイドや運転手など約30人が参加し、知内町・福島町・木古内町の観光スポットや名勝・旧跡を学ぶ。昼食後バスで町内を移動しながら小谷石海岸や知内公園等町の主要個所を見学。[広報しりうち06年1月]
	25日	・新函館農協知内支店女性部の目的別加工グループ「わくわく工房」（笠松悦子会長）が『平成17年度農村の暮らしと地域を活かす女性・高齢者グループ表彰』の奨励賞を受章。[広報しりうち06年1月]
	28日	・妊婦を対象にした「プレママ教室」を保健センターで開催し、出産前後の注意点や準備用品などの説明を行なう。[広報しりうち06年1月]
	12月4日	知内商工会女性部（岸本英子部長）がそば打ち講習会を商工会で開催。参加者は自分で打ったそばを試食した後、知内しおさい園へ慰問に訪れ、約120食分のそばを振る舞った。[広報しりうち06年1月]
	17日	・食育について知識と理解を深める「食育・健康フェア in 知内」（主催：知内町・NHK・農山漁村文化協会）がNHKの健康フェアの一環としてスポーツセンターで開催。町民ら約850人が来場。俳優の辰巳琢郎、本田京子管理栄養士、お笑いコンビのテツ and トモがゲストで登場。[広報しりうち06年1月]

2006年（平成18年）

- 1月4日・出稼ぎ労働者の就労の安全確保とグリープリーダーの資質の向上を図るための「グリープリーダー講習会」が職業援護相談所（脇本哲也所長）主催で中央公民館で行う。[広報しりうち2月]
- 15日・今年度の「ふれあい懇話会」がはまなす町内会と湯ノ里町内会を皮切りに開始。[広報しりうち2月]
- 21日・渡島知内町内会の老人クラブ「老友会」（沓沢チカ子会長・56人）が「創立40周年記念式典と祝賀会」を竹内旅館で行なった。[広報しりうち2月]
- 23日・民営化の準備を行なう会社として「日本郵政株式会社」発足。
- 30日・北海道教育委員会が進める「子どもが健やかに育つ学校応援生徒指導総合推進事業」の一環として『夜回り先生（水谷修）講演会』（主催：教育委員会・校長会）を中央公民館で開催。知内中・高校の生徒や父母、教師のほか一般町民など約450人が来場。[広報しりうち3月]
- ・有限会社小辻商店のプロパンガスと灯油部門がエア・ウォーター・エネルギー株式会社と統合する。
- 2月1日・北斗市誕生（上磯町と大野町が合併）合併後の面積は397・29km²、人口は約49,500人（平成17年12月末現在の住民基本台帳による）
- 10日・第20回オリンピック冬季競技大会トリノオリンピック開幕。（～26日）
- 18日・会場周辺にペットボトルキャンドルを設置して「雪灯かり屋台村」がカキ vs ニラまつりの前夜祭として初めて開催した。[広報しりうち3月]
- 19日・第8回「しりうち味な合戦冬の陣 カキ vs ニラまつり」（主催：知内町・町特産品販売促進協議会・フロンティア21）がスポーツセンターで開催。約3,000人が来場。[広報しりうち3月]
- 23日・トリノオリンピック女子フィギュアスケートで、荒川静香が金メダル獲得。

年	月日	できごと	
2006年	2月 24日	・「きらく納税貯蓄組合」が解散。[きらく町内会記念誌]	
	25日	・知内町役場青年婦人部の「知内ねぶた」の囃子方として結成された「知内ねぶた囃子愛好会」(遠藤芳雄会長・50人)主催の『創立15周年記念祝賀会』を中央公民館で開催。会員や関係者など約120人が出席。[広報しりうち4月]	
	3月 8日	・知内男女共同参画プラン推進協議会(敦沢良子会長)主催の特別講演会で「女と男・すてきな関係」を講談師の宝井琴桜講師が話した。[広報しりうち4月]	
		・「まちづくり総合計画審議会」(岡田貞雄会長・30人)で検討が重ねられてきた『第5次知内町総合計画』を脇本町長に答申する。[広報しりうち9月]	
		・「知内町納税貯蓄組合連合会」(堂守正敏会長)が解散に向けた臨時総会を開き、承認されて48年の活動の幕を下ろした。同会の創立は、昭和33年。納税率が50%を下回ったところに向上をめざして結成された。[広報しりうち5月]	
	31日	・「糖尿病を知る会講演会」(主催:知内町)が保健センターで開催。のべ12回にわたって開催された「糖尿病を知る会」の集大成的な催しで、町民21人が参加。[広報しりうち5月]	
		・4月2日まで「北日本第5回ラージボール卓球漁火大会」が函館卓球協会(森川基嗣会長)主催によりスポーツセンターで開催。函館市や札幌市などの道内のほか、青森県や秋田県、千葉県など全国各地から中高年を中心に153人の選手が参加。	
		・平成12年4月スタートした「介護保険制度」が改正。これまでの介護中心から介護予防に重点を置いた制度改正になる。新たに設置された「地域包括支援センター」がその役割を担う。介護保険料(65歳以上)も月額3,100円から3,500円に改定。	
	4月 1日	・地域の子どもたちを犯罪などから守り安全に育てようと、涌元町内会(福士宏蔵会長・280戸)が「子ども安全見守り隊」の結団式を涌元漁村センターで行なった。	
		27日	・「健康サポーター研修会」が社会福祉協議会主催で開催。
		30日	・元町の阿部島ストアが閉店する。
	5月	・「知内町新生活運動推進協議会」が1990年度から回収を続けている使用済みの紙パックが50万枚の大台を突破した。	
		21日	・知内町社会福祉協議会がすすめる「福祉救援ボランティア活動」の一環として、町内会連合会が購入した「レスキューキッチンの使い方を学ぶ講習会」が涌元漁村センター前で行なわれた。[広報しりうち7月]
	6月 1日	・「渡島西部事務組合火災予防条例」が施行されるため住宅用防災警報器または住宅用火災報知器を設置し維持しなければならなくなる。[広報しりうち7月]	
		24日	・オーストラリアのクイーンズランド州のブラックヒース・アンド・ソーンパーク・カレッジ、以下BTCに通う15歳から17歳までの生徒5人の留学生を受入れた。それぞれ知内高校生がいる家庭にホームステイした。(～7月4日)[広報しりうち8月]
		26日	・65歳以上の運転免許を持つ高齢者を中心に組織する「町シニアドライバーズクラブ」(藤田政美会長・101人)が結成され、大会を開催した。[広報しりうち8月]
		27日	・今村宏幸助役が任期満了で退任。[広報しりうち8月]
		・『第5次知内町総合計画』が6月定例会で議決。[広報しりうち9月]	
	7月 3日	・「知内小学校改築工事安全祈願祭」が知内高校向かいの同校建設敷地内で行われた。[広報しりうち8月]	
		4日	・財団法人北海道文化財団・しりうち食文化事業実行委員会(白井政則委員長)が北海道電力株式会社の協力を受けて「知内食文化フェスタ」を中央公民館で行った。知内町の食材を活用した創作料理の調理方法や食のあり方などを学び、北海道の食文化の向上を図ろうと開催。東海林明子料理研究家の料理教室や講演のほか創作料理試食会とコンテストがあり、町内や近隣市町から165人が来場。[広報しりうち8月]
		7日	・「小谷石地区災害図上訓練」が小谷石町内会館で行われ、緊急時の避難場所や経路などを確認した。[広報しりうち8月]
		12日	・しりうちジャズ愛好会主催による初めてのジャズ・コンサート「登 敬三 with The Trio Jazz」が、「スナック・ジャンボ」で開かれた。[広報しりうち8月]
		22日	・今村宏幸助役の任期満了に伴い、大野幸孝収入役が助役に就任。[広報しりうち8月]
		8月 5日	・「国民体育大会軟式野球(一般B)北海道大会」がしおさい球場で行なわれ、熱戦が繰り広げられた(6日まで)。知内町野球協会はベスト4。[広報しりうち9月]

年	月日	できごと
2006年	8月13日	・「北島三郎氏芸道45周年記念祝賀会」(主催:サマーカーニバルin知内実行委員会)が中央公民館で開催。サマーカーニバル協賛事業所や実行委員など150人が出席。
	14日	・サマーカーニバルin知内実行委員会(臼井政則会長)による22回目の「サマーカーニバルin知内」と6回目となる「知内雷光まつり」が、知内川河川敷特設会場で行われ、昨年の1万人を大きく上回る約2万5千人が来場した。また、北島三郎歌謡ショーで「今年で歌謡ショーはいったん休ませてもらう」との発言があった。[広報しりうち9月]
	30日	・花による環境美化とより一層の住民交流を深めることを目的として実行委員会が開催している第2回「知内町花いっぱいコンクール」の審査会が町民センターで行われ、団体の部と個人の部でそれぞれ、入賞作品を選考した。[広報しりうち10月]
	9月2日	・「国際交流の集い」が中央公民館などで行なわれ、49人の町民が渡島・桧山管内の留学生や外国語指導助手と親睦を深めあった。[広報しりうち10月]
	13日	・新幹線と在来線が共用するために敷設するレール240本が、JR知内駅付近の湯ノ里軌道基地に搬入。(～28日)[広報しりうち10月]
	10月1日	・「心の健康づくり講座」が保健センターで開催。参加者は精神病の知識やストレス解消法などを学んだ。10月7日も実施する。[広報しりうち11月]
	19日	・「園芸のための土づくり・苗づくり」と題した土作り講習会を、知内町花いっぱいコンクール実行委員会(松崎永三委員長)主催により中央公民館で開いた。講師は渡島農業改良普及センター渡島南部支所の北島潤主査で、町民約30人が出席。[広報しりうち11月]
	20日	・「防災気象講演会」が函館海洋気象台と知内・木古内町との共催により中央公民館で実施。「地域気象と天気図の見方」と「防災について」の講演が行われた。
11月		・湯ノ里地区の国道228号線に架かる「出石橋」「萩茶里橋」「七峰橋」の3ヶ所の高欄取替工事が行われ、湯ノ里小学校(丸山隆一郎校長・24人)の児童のデザインした橋名板が取り付けられた。[広報しりうち07年1月]
	1日	・「北海道教育の日」が制定される。
		・知内診療所が「内科外来診療」を始める。常駐になった山本馨医師が院長。[広報しりうち10月]
	4日	・知内町ニラ生産組合(石本顕生組合長・70戸)が「ニラ販売額7億円達成祝賀会」をレストラン北都で開催。今年は夏季のニラ生産に力を入れたことが奏功。1kg当たりの単価が500円と安定し販売額が昨年を大きく上回った。[広報しりうち12月]
	5日	・第25回「町民剣道大会」がスポーツセンターで開催。
	7日	・知内高校で初の試みとなる「PTA公開講座」が行われ、参加者はパン作りやトールペイント制作を行なった。27日にも行なう。[広報しりうち12月]
	12日	・「知内村・小谷石村合併100周年、小谷石町内会創立60周年記念式典・祝賀会」を小谷石町内会(松崎永三会長・84戸)が小谷石町内会館で実施。記念誌『矢越』(B5判90ページ)を発刊。[広報しりうち12月・北海道新聞11月15日]
	19日	・知内幼稚園の「開園30周年記念発表会」が中央公民館で開催され、園児たちは、遊戯や楽器演奏などを披露した。[広報しりうち12月]
		・知内町と新函館農協知内支店は、ニラやホウレン草、トマト、ミツパなど、栄養価が高く知内町を代表する野菜を紹介するために、パンフレット『知内の健康野菜』(A5版22ページ)を5,000部を製作した。[広報しりうち12月]
	12月8日	・知内町女性団体連絡協議会(鳴海美江子会長)が、コミュニティ運動の実践や進展に顕著な功績を上げている団体に贈られる「渡島コミュニティ運動委員会会長表彰」を受賞。[広報しりうち07年1月]
	17日	・「年忘れゲートボール大会」がスポーツセンターで開催された。[広報しりうち07年1月]
	22日	・65歳以上を対象にした「脳の若返り教室」が保健センターで開かれ、参加者は頭の体操や工作などで脳を活性化させた。[広報しりうち07年1月]
	24日	・知内商工会(臼井政則会長・会員137団体)が、会員店をPRする『2007年版ポスターカレンダー』を2,700枚作製し、町内全戸に配布。B2判で上部が12ヶ月のカレンダー、下部に会員店の店名広告が掲載。[函館新聞12月24日]

2007年(平成19年) 町制施行40周年記念の年

- 1月 9日・防衛庁が省に昇格し、防衛省が発足。
- 10日・2007年度で閉校になる中の川小学校(佐藤一夫校長・児童24人)で「閉校記念実行委員会」の設立総会が開かれ、会長に西山忠中ノ川町内会長が選ばれた。[函館新聞1月12日]
- 14日・今年度の「ふれあい懇話会」がきらく町内会を皮切りに開始。[広報しりうち2月]
- 15日・「観光ガイド交流研修会」が中央公民館で開かれた。知内観光協会(松崎永三会長)が、町の後援や上磯郡漁協、新函館農協知内基幹支店、北電知内発電所、知内町木材加工協同組合、三洋食品知内工場の協賛を受けて実施。観光バス会社6社と函館地区バス協会などから16人が参加した。[広報しりうち2月]
- 23日・任期満了に伴う知内町長選挙及び現職の死去に伴う知内町議会議員補欠選挙(欠員1)が告示されたが、どちらも立候補者の届け出が1名だったため、町長選挙は脇本哲也、町議会議員補欠選挙は福井肇が、無投票で当選。[広報しりうち2月]
- 27日・中高生を対象にしたティーンズCLUBの講座「手作りチョコに挑戦」が中学校で行われた。[広報しりうち3月]
- 2月 8日・「知内町地域活動支援センター」が知内町保健センター内に開設する。
- 8日・町民自主企画講座の「トラベル英会話講座」が中央公民館で行われ、受講者は、道案内の仕方などを学んだ。[広報しりうち3月]
- 20日・観光ガイド冊子『まるごと知内』(A5判16ページ)が電源地域産業育成支援事業の助成を受けて発行する。[広報しりうち4月]
- 21日・「家族介護予防講演会」が開かれ、高齢者のニーズや健康づくりの方法などを学んだ。[広報しりうち3月]
- 3月 6日・北海道夕張市が正式に「財政再建団体」に移行。
- 17日・1月26日に亡くなった山本鉄弥知内高校野球部監督の「偲ぶ会」を開催。
- 18日・前浜町内会(敦沢良子会長・75戸)が「55周年記念式典・祝賀会」を町内会員や各団体長ら約100人が出席して前浜町内会館で開催。記念誌『まえはま』(A4判60ページ)を発刊。[広報しりうち4月]
- 19日・知内郵便局で行っていたポストからの取集及び貯金・保険の集金事務が、木古内郵便局で行うようになる。
- 19日・木古内郵便局の中に「木古内配達センター」が設けられ、窓口業務と貯金・保険の募集・集金業務を担当する「木古内郵便局」と郵便物配達・取集・集荷だけを担当する「木古内配送センター」に別組織として分離した。
- 20日・「裁判員制度町民講座」(主催:函館地方検察庁)が、中央公民館で行われた。[広報しりうち5月]
- 21日・松本征八教育長が逝去。
- 26日・田中健一教育委員が新教育長になる。[広報しりうち4月]
- 31日・知内小学校新校舎が完成。
- 4月 1日・役場の執務時間が、午前8時30分から午後5時15分に変更。[広報しりうち4月]
- ・「助役」の名称が「副町長」に変わる。地方自治法の一部改正に伴い、助役制度が見直されたため。[広報しりうち4月]
- ・役場の機構が8課から「総務企画課」「生活福祉課」「産業振興課」「建設水道課」の4課に変更になった。[広報しりうち4月]
- ・「水道料金納入通知書兼領収書」「水道料金計算書兼請求書」の書式が変更になる。
- ・「温泉施設入浴優待事業」が変更になる。利用を希望する方の申し込みで交付することになり、年間の交付枚数は、これまでの15枚から12枚になる。
- 12日・障がい者を対象とした「地域活動支援センター」が保健センターに開設され、参加者は版画や縫い物などに取り組んだ。[広報しりうち5月]
- 24日・郷土知内の風土と文化を、様々な分野から学んでいこうと、郷土資料館ゼミナール「知内学のすすめ」が開講。特別講義として、田島隆元教育長が『教育者人生60年学びの世界―「我以外皆我師」「生涯一書生」を標榜して』の題で話す。

年	月日	できごと
2007年	4月28日	<ul style="list-style-type: none"> 初めての丸山登山会「道南春一番! 登山の集い」(主催: 知内町ふるさと活性化実行委員会・小谷石町内会)が28日・29日に行われた。2日間で約100人が参加。[広報しりうち6月]
	29日	<ul style="list-style-type: none"> 2005年に成立した改正祝日法により、「昭和の日」になる。 昨年の11月開所した「知内診療所」が、診療を止めて院長だった山本馨医師が撤退した。
	5月4日	<ul style="list-style-type: none"> 2005年に成立した改正祝日法により、「みどりの日」になる。
	19日	<ul style="list-style-type: none"> ニラとホウレンソウ生産組合は知内産のニラとホウレンソウに「QRコード」を添付する取り組みを3月頃から始めた。[北海道新聞5月19日]
	20日	<ul style="list-style-type: none"> 渡島知内町内会「創立60周年記念植樹」が重内川支流の河口付近で行う。町内会員や町関係者、しりうち緑の少年団員など70人が集まった。[広報しりうち6月]
	6月13日	<ul style="list-style-type: none"> 渡島管内高等学校教育相談研究会研修会が行われ、ピアサポートプログラムについて実践を交えて学ぶ。[広報しりうち7月] 「南北海道友釣り同好会」(筆村一二会長・70人)と「知内川の会」(沢出志郎会長・10人)が、知内川上流の湯ノ里付近でアユの幼魚9,000匹を放流した。[函館新聞6月23日]
	28日	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者福祉大学「認知症の理解と予防」が行われ、写真を見たりテストをしたりして認知症について学ぶ。[広報しりうち8月]
	7月1日	<ul style="list-style-type: none"> 「きっずコーナー」が知内町中央公民館の図書室に読み聞かせスペースに新設。[広報しりうち8月]
	7日	<ul style="list-style-type: none"> 読書サークルライラックの会(佐藤日路美会長)が、児童用図書約170冊を「ライラック文庫」として、中央公民館図書室で貸し出しを始めた。[広報しりうち7月]
	16日	<ul style="list-style-type: none"> 知内高校野球部が夏の甲子園大会北海道大会に進出し、勝利を目指して力いっぱい戦った。[広報しりうち8月]
	26日	<ul style="list-style-type: none"> 初めての「ノルディックウォーキング講習会」をスポーツセンターで開催。講義や歩き方の練習をした後河川敷へ向かい、実際にポールを持って歩いた。[広報しりうち9月]
	27日	<ul style="list-style-type: none"> 「第22回チャリティーピアガーデン」(主催: 知内商工会青年部)が、中央公民館前庭で開かれた。[広報しりうち9月]
	8月1日	<ul style="list-style-type: none"> 保健センターで「血液サラサラ講演会」が函館五稜郭病院の老松寛副院長の講師で開催、40名が出席。[広報しりうち9月]
	10日	<ul style="list-style-type: none"> 「お泊まり資料館」が行われ、野外での危険回避を学んだり釣り竿を自分で作って溪流釣に挑戦した。[広報しりうち9月]
	14日	<ul style="list-style-type: none"> 「第23回サマーカーニバル in 知内」が知内川河川敷特設会場で行われた。[広報しりうち9月]
	17日	<ul style="list-style-type: none"> 元町町内会(福井肇会長・405戸)で「元町子ども見守り隊」を結成し、登下校時などにあわせて活動を始めた。[広報しりうち9月]
	19日	<ul style="list-style-type: none"> 「パークゴルフ大会」(主催: けっぱれ会)が行われ、約90名の選手が優勝目指してお互いに競いあった。[広報しりうち9月]
	19日	<ul style="list-style-type: none"> 外国語を指導するための外国語指導助手として、オーストラリアのブリスベン出身のショーン・ホフ外国語指導助手が着任。[広報しりうち9月]
	9月7日	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者福祉大学「脳を若返らせるために」が中央公民館で開催。「みんなで脳トレ楽しく脳を活性化〜」というテーマで、約50名が参加。[広報しりうち10月]
	13日	<ul style="list-style-type: none"> 「特別支援コーディネーター研修会」が行われ、教員らが学習障害などをもつ子どもへの対応の仕方を学ぶ。[広報しりうち10月]
	27日	<ul style="list-style-type: none"> 町制施行40年を記念して、シルバー芸能発表会「ねんりんコンサート」(主催: 町老人クラブ連合会)が、中央公民館で開催された。友好町である今別町の老人クラブの方々など、170名が来場。[広報しりうち11月]
	10月1日	<ul style="list-style-type: none"> 郵政民営化に伴い、日本郵政公社が解散。 「町制施行40周年記念式典と祝賀会」を中央公民館で開催。式典では町の歩みをまとめたDVDが上映された後、脇本町長が「先人たちが築き上げた『笑顔輝く躍動の舞台』を、次の時代に伝えるため努力する」と式辞で述べた。北島三郎さんもお祝いに駆けつけ、思い出を語った。40周年記念誌『知内の歩み』(A4判)発行。

年	月日	できごと		
2007年	10月 2日	・全国共済農業協同組合連合会北海道本部から「高規格救急車」(本体513万円)が寄贈され、知内消防署で受納式が行われた。また、町では車両の寄贈に合わせ装備品(2700万円)も一新。より重傷の患者にも対応できるようになった。		
		4日	・町制施行40周年記念-アートシアター観賞事業「SUPER CHORUS SPIRITS 公演」を実施。[広報しりうち12月]	
		12日	・「4署消防総合訓練」が、強い地震により知内町で火災・要救助者・交通事故が同時発生、周辺町に応援を要請し対応するという想定のもとで行われた。	
		14日	・「ぶらっと散歩知内発電所」が行われ、消防車の見学やフリーマーケットなどに多くの人が来場した。[広報しりうち11月]	
		17日	・「知内高校ボランティア部員」らが郷土資料館前で防犯のメッセージカードとクッキーを配った。[広報しりうち11月]	
		18日	・渡島管内交通安全指導員研修会が中央公民館で行われ、約110人の関係者が改正された道路交通法について学んだ。[広報しりうち11月]	
		27日	・ユニオンアンサンブル公演会&知内小・中学校吹奏楽部合同発表会。	
	11月	9日	・知内町ニラ生産組合(石本顕生組合長・73戸)が、出荷したニラ「北の華」の販売金額が8億2400万円(11月現在)と、初めて8億円を超えたことを記念した「式典・祝賀会」を中央公民館で行う。また、北海道食の安全・安心委員の(株)森哲の矢萩達也取締役社長が講演を行う。[広報しりうち12月]	
			・「知内グルメトーク&クッキングライブ」がスポーツセンターで行われた。俳優の村野武範と東海林明子料理研究家の料理ショーを見ようと約120人が集まった。[広報しりうち12月]	
			・「第11回経営体育成・認定農業者研修会」(主催:渡島西部地区農業振興対策促進協議会)が約60人の参加者を集め中央公民館で行われた。青森県の(株)田代ファーム代表土橋信夫取締役と、ハンバーガーチェーン店ラッキーピエロ王一郎社長がそれぞれ講演を行った。[広報しりうち08年1月]	
			・知内町健康保養センター「こもれび温泉」が入館者100万を突破する。同温泉は1996年4月、町直営でオープンしたのち、97年4月(株)スリーエスの運営となった。[北海道新聞11月27日]	
			・知内幼稚園(中村政雄園長・園児57人)の開園30周年記念展示「行事から見る、30年の歩み 懐かしい笑顔と、楽しかった思い出にタイムスリップ」が30日まで中央公民館ギャラリーで開催。[函館新聞11月27日]	
	12月	3日	・「しりうち緑の少年団」(10人)が、熊本で開かれた全国みどりの少年団活動発表大会(主催:国土緑化推進機構)で優良賞を受章した。[北海道新聞12月7日]	
			19日	・「ハートフル・コミュニケーション~子どもの心に寄り添うために~」講演会(主催:渡島教育局・町教委)が、町内外から約30人が参加して開かれ、言葉の掛け方や物事の受け答えなどを実践的に学んだ。[函館新聞12月19日]
			・「知内中おやじの会」(千葉功司会長・13人)が発足。ふだん学校に関わる機会のもてない父親が自ら活動の場を作り、子どもたちにその姿を見せようと、知内中学校(前田治彦校長・149名)に通う生徒の父親で構成。[広報しりうち08年1月]	
	2008年(平成20年)			
	1月	25日	・森越簡易郵便局が廃止になる。	
			・喫茶店「かくれんぼ」(皆川龍二店長)が、元町のコロナイ川林道沿いで開店。[北海道新聞4月17日]	
	2月	3日	・「知内小学校閉校式典と語る会」開催。	
			14日	・3月に行われる定例議会に条例案を提出するのに先だって「知内町議会基本条例(案)町民説明会」を開催した。地方分権が進み地域の責任が重くなる中、町民の代表となる議会の活性化と議員の資質向上のため、条例を策定する背景や策定後の活動の概要を話した。30名の町民と、10名の議員が参加。[広報しりうち3月]
・郷土資料館に展示している「青い目の人形」のことを授業で学習した知内小学校4年生の児童が、人形に名前がないことを可哀想に思い、新たにつけることを提案。クラス全員で考えて青い目の「ブルー」に、日米の友好をイメージして「チェリー(桜)」併せて「ブルーチェリー」と名づけた。[広報しりうち3月]				
24日			・「中の川小学校閉校式典並びに思い出を語る会」開催。	

年	月日	できごと
2008年	2月29日	・廃止になった森越簡易郵便局の一部業務を郵便局株式会社の直営で、森越生活改善センターで取り扱うことになった。
	3月13日	・「生活習慣病予防教室」が保健センターで開催された。函館市の高橋清仁医師を招き、約30名の町民が参加。[広報しりうち4月]
	18日	・町議会議員選挙が行なわれ、定数12名に対し、現職11名と新人1名が立候補し、初の無投票で全員当選。[広報しりうち4月]
		・湯ノ里町内会で「子ども見守り隊」が、涌元・元町町内会に続き結成された。
	4月1日	・75歳以上は、これまでの「老人保険制度」に代わり「後期高齢者医療制度」に加入するようになる制度がスタート。
	6日	・上磯郡漁協浅海部会の「ライフジャケット講習会」が、小谷石町内会館で実施。函館海上保安部から講師を2名招き、25名が参加。[広報しりうち5月]
	7日	・中の川小学校と知内小学校が統合して、全校児童209名の新しい知内小学校となり「開校式と入学式」を行なう。[広報しりうち5月]
	10日	・臨時町議会で、松井盛泰議長と敦沢良子副議長を選出。[北海道新聞4月11日]
		・知内町ニラ生産組合(石本顕生組合長・74戸)のキャラクター「にららちゃん」が今春から着ぐるみとして誕生しPRに活躍。
		・「津波防災地図」(A1判)を2,500部作製し、4月中旬に全戸配布。[北海道新聞5月16日夕]
		・函館地方電気工事協同組合(佐藤征次理事長)が、知内小学校にからくり時計を寄贈。[広報しりうち5月]
	5月1日	・北海道・東北・中国・四国・北九州地域では、自動販売機でタバコを購入する際にtaspoが必須となる。
	3日	・『古の道を歩く』講座が「知内学のすすめ/ミュージアム・パル」の合同で実施。小学生4年生以上から大人までの20人が参加。[広報しりうち6月]
	11日	・高橋知事が道内各地をまわる『まちかど対話』で、知内町を訪れた。今回はニラ農家の見学が目的で、野口健一宅(上雷)を訪れた。[広報しりうち6月]
	18日	・「レスキューキッチン講習会」(主催:町婦人赤十字奉仕団・社会福祉協議会)を災害によりライフラインが止まった時に備えようと、小谷石地区で開催。[広報しりうち6月]
	25日	・湯ノ里地区の共同育成牧場跡(出石)で、「植樹祭」(主催:知内町・知内町森と緑の会)が行なわれ、ニトリの「北海道応援基金」により寄贈されたエゾヤマザクラ、キタコブシ、ヤマモミジ合わせて500本の樹を植えた。[広報しりうち7月]
	6月1日	・75歳以上の人が運転するときは、高齢運転者標識(もみじマーク)をつけることが義務となる。
	9日	・講談社の「おはなし隊」が、初めて来町し知内幼稚園を訪れ、絵本の読み聞かせや紙芝居などを行った。幼児と保護者ら約80人が参加。[広報しりうち7月]
	11日	・中ノ川の漁師の網に、本来なら寒い海にいる「オオカミウオ」が、知内で初めてかかった。[広報しりうち7月]
		・「災害対応型自動販売機」を町民センターロビーに設置した。北海道コカ・コーラボトリンク(株)が町と協定を結び、災害の際の情報や無料で飲料水の供給を行える。[広報しりうち7月]
		・北海道ペプシコーラ販売(株)からAED(自動体外式除細動器)が寄贈され、スポーツセンターロビーに設置した。[広報しりうち7月]
	28日	・「姥杉社」(知内公園内)が立て替えられた。[広報しりうち8月]
	29日	・オーストラリアのブラックヒース・アンド・ソーンパーグ・カレッジ、以下BTCに通う15歳から17歳までの生徒5人と引率の教諭5人が、家庭にホームステイしながら交流を行なった。(～7月6日)[広報しりうち8月]
	7月3日	・BTCに通う15歳から17歳までの生徒5人と引率の教諭5人が、郷土資料館に行き、町の歴史と文化を学んでから「竹とんぼ作り」を行なった。
	9日	・「人参倶楽部 サラ・フレンド」(渥美悌三店長)が森越地区で開店。競馬グッズの販売や喫茶コーナーを設けている。[北海道新聞7月9日]
	17日	・「渡島スポーツ・レクリエーションフェスティバル」のゲートボール大会が町内で行われ、22チームが競った。[広報しりうち8月]

年	月日	できごと
2008年	7月18日	・「平成20年度 渡島管内女性大会」が中央公民館で開催。現代社会に適応した女性活動の推進を目的として、札幌市の荒木孝司講師が「生きている、そして、生きていく」というテーマで講演を行なう。各市町から約320名が参加。[広報しりうち8月]
	22日	・戦争と平和、人類のあり方について問題提起する企画展「アウシュビッツ写真展」を中央公民館で開催。ポーランド在住の化学者ピオトル・クルピンスキ夫妻が企画。[函館新聞7月22日]
	26日	・涌元小学校で「サマーキャンプ・国際交流の集い」が行われ、留学生らとカレー作りや花火をしながら楽しく過ごした。[広報しりうち9月]
8月	1日	・「学童保育」（中央公民館児童室）を開設し始まる。町内の小学1～3年生で、小学校の授業終了後等に、保護者の就労などで保育の難しい児童が対象。
	6日	・知内町と東京都北区の人や物など多様な交流を進めるため、区長と区議会自民党議員団の視察団14人が初めて来町し、町の産業や宿泊施設を視察。[北海道新聞8月9日]
	8日	・「ホクレン知内給油所」が重内31番地の国道沿いで営業開始。 ・第29回夏季オリンピック競技大会北京オリンピックが開幕。(24日閉会式)
	10日	・ミュージアム・パル「せせらぎサイエンス」が行われ、羽ばたき水車を使った発電や、涌元漁港やコロナイ川の水質検査をした。[広報しりうち9月]
	14日	・第1回「グルメカーニバル in 知内」は中央公民館で、アイデア料理コンテストを実施。第24回「サマーカーニバル in 知内」は、雨天のためスポーツセンターでよさこいソーランやひのき屋のライブのほか北島三郎杯全国カラオケ大会が行なわれた。最後に和田青児歌謡ショーが披露。[広報しりうち9月]
	24日	・まこがれいまつりが「しりうち大漁まつり」と名前を変えて涌元漁港で行なう。1,200人の来場者があった。[広報しりうち9月]
	29日	・「セブン-イレブン知内町店」がきらく地区で開店。[北海道新聞8月29日]
9月	1日	・木古内町の「みそぎスタンプ店会」のシールがグリーンから変更になる。
	3日	・「イエローハウス ひまわり」（元町-旧小辻スタンド跡）が10時に開店。町内産の新鮮な農産物を販売し、地域住民の交流の場となる店舗づくりを行なう。
	5日	・札幌市で行われた「第53回北海道吹奏楽コンクール」C編成の部(25人以下)で、知内高吹奏楽部が8年ぶり2度目の金賞に入賞した。[広報しりうち10月]
	6日	・「上雷老人クラブ」が祭典に合わせて神社のしめ縄作りを行い、2時間ほどかけて完成させた。[広報しりうち10月]
	7日	・「第38回渡島松山小中学生剣道大会」がスポーツセンターで行われ、300人あまりの選手が日頃の練習で鍛えた剣の腕を試した。[広報しりうち10月]
	15日	・米国のサブプライム住宅ローン問題で大手投資銀行のリーマン・ブラザーズが倒産した事を引き金に「リーマン・ショック」が発生した。
	24日	・「水谷修 夜回り先生講演会」が中央公民館で開催。
10月	1日	・「道南エアウォーター・エネルギー株式会社 知内サービスセンター」から道南がとれエアウォーター・エネルギー株式会社 知内サービスセンター」に変更になる。 ・NHKが受信料の訪問集金および放送受信章を廃止する。 ・「知内ニラ生産組合」は、GAP（農業生産工程管理手法）の基本的な60項目に絞った独自版を作り、全74戸で10月から取り組みを始めた。[北海道新聞11月7日]
	5日	・「子ども会対抗親子キンボール大会」（主催：知内町子ども会育成連絡協議会）が、初めてスポーツセンターで実施。[北海道新聞11月5日夕]
	8日	・のびのび教室「秋の大運動会」が行われ、玉入れや障害物競走などで一気に駆け回る子どもたちの姿が見られた。[広報しりうち11月]
	25日	・苫小牧市周辺市町村に住む知内町出身者で組織する「胆振知内干軒会」（高橋則夫会長・40名）が『設立30周年』の記念事業として産業まつりで賑わう「ふるさと知内訪問一泊旅行」を実施した。[広報しりうち12月] ・郷土資料館第26回特別展「思い出の松前線一廃線になって20年」を開催。当時の駅で使われていた標示板や沿線の写真などを展示。(～11月23日)
	29日	・小谷石で20年前に揚げて陸上に保管していたブイが、戦前の海軍訓練用の機雷であることがわかって大騒ぎになり、自衛隊が撤去する。[北海道新聞10月29日]

年	月日	できごと	
2008年	10月31日	・メタボリックシンドロームの予防と改善を目的として、「健康の黄金律」と題した講演会が行われた。[広報しりうち12月]	
	11月	6日	・コープさっぽろ主催の「産地見学会」が行われ、カキの殻むきの見学をした後、様々な料理の試食を行った。[広報しりうち12月]
		8日	・「渡島管内 PTA 研究大会」が知内小学校で行われ、PTA 活動や家庭教育の取り組みのほか、薬物の実態について学んだ。 ・「函館社会人サッカー連盟杯フットサル大会」がスポーツセンターで行われ、町内外から6チームが参加した。
	11月	11日	・「土づくり講習会」が知内・木古内の農家を集めて中央公民館で行われ、知内産そばの評価や土壌、農薬の散布などについて学んだ。
	16日	・東京周辺在住の知内町出身者で組織する「知内ふるさと東京会」(佐藤信夫会長・98名)が、第14回交流会を開催。来賓として参加した脇本町長・松井議長のほか、町内会連合会(福士宏蔵会長)の各町内会長11名も出席。[広報しりうち09年1月]	
	18日	・「第12回経営体育成・認定農業者研修会」(主催:渡島西部地区農業振興対策促進協議会)が、地域振興を担う地域リーダーや担い手の育成を目的に行われた。[広報しりうち09年1月]	
	30日	・知内ふるさと札幌会(秋田喜美男会長・89名)の「総会・交流会」が、ホテル・ポールスター札幌で開催された。来賓として脇本町長・松井議長が出席。総会で3代目会長として秋田会長が選任され、堂守前会長は相談役に就任。[広報しりうち09年1月]	
	12月	1日	・「広報しりうち」が500号を迎えた。前身の「知内村弘報」第1号が、1951年8月5日に発行されてから58年で達成した。
		3日	・シロザケの中でも捕れるのは数千匹に1匹というメジカを、町内の釣愛好者が、重内海岸で釣り上げた。体長73センチ、4.5キロ。[北海道新聞12月5日]
		6日	・女性団体・町男女共同参画推進プラン主催による「こぶし座」の演芸会が行われた。[広報しりうち09年1月]
		12日	・JA新はこだて知内支店女性部(笠松悦子部長)による「農村生活工夫展」が30回目を迎え、記念大会として子どもやPTAを対象に料理講習会を行った。
		18日	・町議会主催による旧知内小・中の川小学校舎の活用に関する町民懇談会が行われ、活発な意見が交わされた。(～19日)[広報しりうち09年2月]
		2009年(平成21年)	
	1月	16日	・「世代間交流ふれあい広場」が中央公民館で行われ、けん玉やおはじきなどで子どもからお年寄まで一緒に楽しんだ。[広報しりうち2月]
22日		・HBCのテレビ番組「森崎博之のめぐり王国北海道」のロケが町内で行われ、めぐりっ子隊の子どもたちが、ニラ生産家や野菜集出荷施設を訪ねた。[北海道新聞1月24日]	
2月		・2011年から既存住宅に義務づけられる火災報知器を、国から交付される「地域活性化・緊急安心実現総合対策交付金」を活用して町内の各世帯に一個、町が無償で配布し設置する。[広報しりうち2月]	
		・「渡島管内教育実践表彰」を、知内町女性団体連絡協議会(鳴海美江子会長・会員230名)が受賞した。同協議会は発足以来、生活に身近な課題の解決のために、女性ならではの視点から実践してきたことが評価された。[広報しりうち3月]	
1日		・「ファムファターズ杯バスケットボール大会」が行われ町内外からの参加チームが優勝を目指した。[広報しりうち3月]	
	6日	・「平成20年度 家族介護予防講演会」(町社会福祉協議会主催)を開催。函館市の介護施設に勤務している中本明憲介護福祉士が、「いつまでも自分らしく」という題で講演を行った。[広報しりうち3月]	
	19日	・「知内町ふるさと活性化実行委員会」主催で辻井達一グリーン・コーディネーターを招き「知内ふるさと植物園」と題した講座を開催。[広報しりうち3月]	
		・カキ vs ニラまつり協賛「はして酒 ふらふらリー」を初めて実施。町内の飲食店5軒中3軒まわってスタンプを集めると賞品が当たる。(～22日)[広報しりうち4月]	
22日	・「第11回しりうち味な合戦冬の陣 カキ vs ニラまつり」(主催:知内町・知内町特産品販売促進協議会)が、スポーツセンターで開催。過去最多の4,000人が来場。[広報しりうち4月]		

年	月日	できごと
2009年	3月 2日	・「連携協定」を独立行政法人函館工業高等専門学校（長谷川淳校長）と知内町教育委員会（斎藤徹全教育委員長）が締結。函館高専が地域の教育委員会と連携協定を結ぶのは初めて。[北海道新聞 3月3日]
	3日	・「学校支援ボランティア」の講習会が行われ、ボランティアの意義や活動の心構えを学んだ。[広報しりうち4月]
	7日	・「どうなん・追分シーニックバイウェイルート運営代表者会議」の第4回会合が知内で初開催。[北海道新聞 3月10日]
4月	1日	・4月から介護保険制度が変わり「第4期介護保険事業計画」がスタートする。主な改正内容は、 <ul style="list-style-type: none"> ○介護報酬が改定。 ○介護保険の財源として65歳以上の方が負担する割合が変わった。 ○介護保険料が変わったことである。
		・「知内町情報公開条例」が施行される。[広報しりうち5月]
		・役場の勤務時間が変更になる。それに伴い、役場の昼の休憩時間が12時から午後1時（従来は12時45分）になる。[広報しりうち4月]
	10日	・知内小学校旧校舎解体工事（4月10日～6月30日）
5月		・知内高校バドミントン部（石本孝明部長・部員14名）が、団体としては初となる全道大会への切符を手にした。[広報しりうち7月]
		・知内消防署は、消防団員の勤めている町内の各事業所で、事業主に消防団の活動への理解と便宜を図ってもらうための「消防団協力事業所」のプレートの掲示する制度を始めた。[広報しりうち6月]
	9日	・「古の道をたどる」が郷土資料館事業で行われ、涌元から小谷石までの昔の道をたどった。[広報しりうち6月]
	22日	・自主的な防犯活動のために使用される青色回転灯装備車11台が集まり、「出発式と町内パレード」が行われた。[広報しりうち7月]
	27日	・「木古内・知内ライオンズクラブ」が郷土資料館前で街頭啓発を行い、道行く車にパンを配りながら交通安全を呼びかけた。[広報しりうち7月]
	31日	・湯ノ里の旧共同育成牧場跡で、やすらぎの森植樹祭（主催：知内町・知内町森と緑の会など）を開催。約170人が参加し、キタコブシの苗木20本の植樹を行った。[広報しりうち7月]
6月	1日	・絵画サークル「ぱれっとの会」が中央公民館で、油絵や版画などの作品展を行う。（～10日）[広報しりうち7月]
	3日	・成人セミナー「大人の陶芸教室」が行われ、トレイや木の葉などを利用して粘土で皿などを作った。[広報しりうち7月]
	6日	・知内小学校のグラウンドが完成してから初めての運動会が行われた。
	20日	・「渡島教職員体育大会」のうち、野球など3種目が町内を会場に行われ、管内の学校から教職員が集まって熱戦を繰り広げた。[広報しりうち7月]
	24日	・「渡島スポーツ・レクリエーションフェスティバル」のゲートボール大会が行われた。[広報しりうち8月]
7月	2日	・「町民ソフトボール大会」が行われ、全11チームが3日間に渡って熱戦を繰り広げた。[広報しりうち8月]
		・「婦人赤十字奉仕団」主催による海浜清掃が行われ、町内の小中高生や父母、各事業所などから360人が参加した。
		・郷土資料館特別展「北海道の砂金掘り学」を8月23日まで開催。期間中に「砂金掘り学」の講座の開設と歴史追体験で「砂金掘り」を行なった。
		・知内中学校相撲部5名が、鹿児島県で行われた全国中学校相撲選手権大会に北海道代表として初出場した。[広報しりうち9月]
		・リフレッシュ・運動編「いきいきヨガ教室」を保健センターで開催。ヨガによる健康促進法。[広報しりうち7月]
8月	3日	・「しりうち元気町民養成講座」が保健センターで行われ、参加者は自分の食事や生活習慣を振り返りながら健康について学んだ。[広報しりうち9月]
	10日	・独立行政法人科学技術振興機構「サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト」の一環として函館高等専門学校が「環境に優しいエネルギー技術の体験と水環境を調べよう」というテーマで羽ばたき水車発電等の出前授業を行い、中学生がのべ21名が参加。（～11日）

年	月日	できごと	
2009年	8月14日	・第2回グルメカーニバル in 知内・第25回サマーカーニバル in 知内（実行委員会主催）が知内川河川敷特設会場で開催。知内高校生による演劇「義経の矢」を上演。ライブには KAZUMI が出演した。	
	27日	・旅行ライター館浦海豹（あざらし）講師による「知内の観光と未来」講演会を知内観光協会（松崎永三会長）の主催で開催。	
	30日	・「第45回衆議院議員総選挙」町内投票率は71.62%。 ・知内町役場は来年4月採用の一般事務職員について、独自の「自己アピール採用試験」を導入。 ・企業の社会貢献活動の一環として町内に事業所を構える建設会社、ガイアートT・K北海道支店、東出組、斉藤建設の3社が、各学校でペンキ塗りや道路舗装などのボランティア活動を行った。[広報しりうち9月]	
	9月1日	・消費者庁が発足する。	
	3日	・函館市立北中学校の2年生が町を訪れ、知内温泉に宿泊して2日間にわたって漁業体験や農業体験などを行った。[広報しりうち10月]	
	4日	・知内高校吹奏楽部（遠藤榎部長・部員26名）が札幌市で行われた「北海道吹奏楽コンクール」C編成の部で金賞を受賞。北海道代表として東日本大会への出場を決めた。[広報しりうち10月]	
	23日	・1973年9月の「小谷石集中豪雨災害」から36年経ち、小谷石地区の慰霊碑前で町内外の僧侶や遺族、関係者ら約30名が集まり、犠牲者の37回忌法要が行われた。	
	10月1日	・「知内診療所」（山内賢二医師）が診療を開始する。[北海道新聞9月29日] ・10月1日から平成23年3月31日までの出産について、出産一時金が、42万円に引き上げられ、原則として、加入する医療保険から医療機関に出産育児一時金が直接支払われる直接支払い制度に変わる。[広報しりうち10月] ・「第53回北海道公民館大会」が、全道から約80名が参加して開催。大西康之全国社会教育委員連合常務理事が「公民館の将来像を見据えて」と題して基調講演を行い、その後シンポジウムで活動事例を報告した。2日目は公民館での活動のヒントとなるようなワークショップを行った。 ・手打ちそば店「清八」が山加製粉（石狩市）で製造した、知内産ソバ粉のアイスクリーム「そば屋のアイスクリーム」販売を開始した。	
	3日	・「三洋食品杯少年野球大会」がしおさい野球場で行われ、町内外から4チームが参加した。	
	29日	・青函トンネルを挟んで両隣の友好町、青森県今別町との友好町交流事業として、中央公民館でシルバー芸能発表会「ねんりんコンサート」（主催：知内町老人クラブ連合会）が行われた。	
	11月	・国道228号線役場前の信号機が、知内橋側に移設。	
	12日	・「天皇陛下即位20周年祝賀式典」を内閣府主催国家行事として挙行。	
	18日	・「しりうち元気町民養成講演会」（主管：保健センター）が伊藤一輔国立病院機構函館病院副院長（日本笑い学会理事）を講師に招き、「笑いと健康のステキな関係」という題で開催された。	
	12月5日	・「知内町ほうれん草生産組合」（南茂敏組合長）が20周年を迎え中央公民館で祝賀会を開催。現在年間約2億円の売り上。	
	8日	・「障害者地域活動支援センター」による作品展が、町民センターロビーで行われた。	
	16日	・知内町観光協会が1997年12月に設置した「青函トンネル撮影台」が老朽化したため屋根付きに建て替えた。	
	2010年（平成22年）		
	1月1日	・社会保険庁は、非公務員型の「日本年金機構」として生まれ変わり、「社会保険事務所」から「年金事務所」に名称も変更された。 ・「こもれび温泉」が館内の暖房や温泉の加温、給湯などをボイラーをヒートポンプに換え、お湯も循環式から掛け流し式に代えて営業を再開。[広報しりうち2月]	
	11日	・「中ノ川森越漁業推進部会」が中ノ川漁港で「大漁祈願祭」を行なった。 ・「矢越漁船部会」が永称寺と小谷石漁港で「大漁祈願祭」を行なった。[広報しりうち2月]	

年	月日	できごと
2010年	1月15日	・町長ほか行政関係者が、住民と意見を交換する「ふれあい懇話会」が森越地区を皮切りに各地区で開催。[広報しりうち2月]
	20日	・ライラックの会による「お楽しみ図書館」で、絵本の読み聞かせやカルタ、福笑いなどの正月遊びを行なった。[広報しりうち2月]
	27日	・「消費者トラブル防止講習会」がこもれび温泉で行われ、振り込め詐欺や次々販売の被害に遭わないための心構えを学んだ。[広報しりうち3月]
	30日	・「第40回記念北海道教職員美術展-地方移動展」(主催:公立学校共済組合北海道支部など)が、森越地区の知内町文化交流センター(旧中の川小学校)で2月7日まで開催。[函館新聞2月2日]
	2月1日	・「しりうち元気町民養成講座」(主催:知内町民健康推進委員会)の、「ヨガ教室」(1月30日)と「室内ウォーキング」(2月1日)が保健センターで開催。合わせて約50名が参加した
	7日	・結成して20年たつ「知内吹奏楽団」(久村英旦団長・40人)が、恒例の「ホワイトコンサート」を開いた。[広報しりうち3月]
	18日	・「知内みらい大学」の地域教室がきらく町内会で行われ、「男の料理教室」として乳製品を使った簡単な料理を習った。
	19日	・「介護予防教室」(主催:知内町社会福祉協議会)が、町民57人を集め中央公民館で開催。寸劇のあと講演会を実施。[北海道新聞3月10日夕]
	21日	・「第12回しりうち味な合戦冬の陣 カキ vs ニラまつり」(主催:知内町・知内町特産品販売促進協議会)が、スポーツセンターで開催。過去最多の4,200人が来場。[広報しりうち4月]
	22日	・「ほっかいどう企業の森林づくり」のため、知内町(脇本町長)と生活協同組合コープさっぽろ(小林函館地区本部長)の「協定調印式」を渡島支庁(寺山支庁長)で行なった。町所有の山林0.7ヘクタールにミズナラ、ホオノキ、ハリギリ、アオダモ、キタコブシ計280本を5年間植栽し、植栽後4年間は下草刈り等の保育活動も継続する支援。[北海道]
		・道立林業試験場道南支場の越冬地調査で、知内の森がエゾシカの食害で深刻な状況にあることが判明。[北海道新聞3月5日]
	24日	・「東日本学校吹奏楽大会」に昨年全道代表として出場した知内高校吹奏楽部の部員21人らが、湯ノ里小学校で初めて演奏を披露した。[函館新聞3月2日]
		・「知内町子ども読書推進計画」を町教委としりうち子ども読書推進協議会が策定した。2014年度までの5年間で、児童生徒が読書習慣を身につけるための環境整備などを目標。推薦図書のリストも作成。[函館新聞2月28日]
	3月	・函館バスの「木古内駅前—小谷石線」が本年度限りで廃止となる。[北海道新聞3月11日]
		7日・海峡登山友の会(土佐龍一代表)が知内の山を歩く「冬山縦走登山会」を開催。函館などから15名が参加。[北海道新聞3月12日夕]
		9日・知内沖で「ツブかど漁」が3年ぶりに5日間解禁する。[北海道新聞3月10日]
		14日・町議会第1回定例会で「サンデー議会」が行われる。平成22年度の予算審議を14名の町民が傍聴。[広報しりうち4月]
		28日・知内中・高校と木古内中学校の吹奏楽部が、初めての企画となる合同コンサートを中央公民館で行う。
		・旭友ストア木古内店が閉店する。
	4月1日	・改正支庁再編条例施行に伴い、渡島支庁は渡島総合振興局、桧山支庁は桧山振興局に名称を変更する。
		22日・介護予防教室「シャキラッと教室」が保健センターで行われ、体力測定やボールを使った運動などが行われた。[広報しりうち6月]
		23日・木古内町国保病院の「落成記念式典」が開催される。
		28日・社団法人渡島さけ・ます増殖事業協会が福島町三岳に建設していた「福島さけ・ます孵化場」が完成し落成式を開催。
	5月6日	・「木古内町国保病院」が新築移転する。
		9日・ミュージアム・パルで「サケ人工孵化場調査隊」が袋沢を実施。1944年まで使われていた建物跡の発掘などを行った。[函館新聞5月11日]

年	月日	できごと
2010年	5月16日	・「コープ未来(あした)の森づくり」植樹祭を湯ノ里地区で開催。コープさっぽろ組合員・知内町・地域住民等約60人が参加。看板の除幕を終えた後植樹を行なった。[北海道]
	23日	・「旧知内小学校記念庭園」で知内小学校閉校記念事業実行委員会の主催による植樹祭が行なわれ、実行委員会が「ローソン緑の街基金」から苗木の助成を受けたドウダンツツジ140本を植えた。[広報しりうち7月]
	25日	・「特別支援教育支援員養成研修会」が行われ、教員や一般町民らが障害の特徴や対処方法などを学んだ。[広報しりうち7月]
6月	8日	・公民館講座「健康ヨガ」が開催され、3日間(8日・15日・22日)でのべ60名の参加者が瞑想やストレッチの後、様々なポーズを行なった。[広報しりうち7月]
	10日	・知内みらい大学(高齢者福祉大学)に、河村貴仁臨床心理士が講師として招かれ、「気軽に脳トレ!楽しい"みらい"の心理学」と題した講演を行なう。[広報しりうち7月]
	12日	・「しりうち土曜生鮮市」が町民センター駐車場で行われ、新鮮な魚介類や加工品を求めて多くの人を訪れた。[広報しりうち7月]
	13日	・小惑星探査機「はやぶさ」が、小惑星イトカワから地球への60億キロメートルの旅を終えて帰還。
	26日	・第20回「函館信用金庫杯争奪中学校野球大会」がしおさい球場で開催。渡島西部の町から4チームが参加した。[広報しりうち8月]
7月	13日	・第17回「ぶらっと散歩 知内発電所」を北電知内発電所(保苅伸広所長)が一般開放イベントとして実施。家族連れなど約380人が来場。[北海道新聞7月13日]
	24日	・知内中学校吹奏楽部(南怜花部長3年)が、函館市民会館で行われた第55回「北海道吹奏楽コンクール函館地区大会」のC編成の部(25人以下)で金賞を受賞し、全道大会への出場を決めた。(～25日)[広報しりうち9月]
	28日	・中日本航空(愛知)の所属の小型プロペラ機が遭難。新潟空港から丘珠空港に向う途中、岩部岳山中(知内と福島町の町境付近)で墜落。[北海道新聞7月31日/8月2日通達-日本航空機操縦士協会]
	29日	・商工会青年部主催の「ビアガーデン」が中央公民館で行われた。
8月	6日	・第30回「シルバースポーツ大会」がスポーツセンターで開催。各老人クラブとしおさい園、身障者協会の15チームの選手が競技を行なった。
	7日	・「こもれび温泉盆踊り大会」が行われ、温泉を無料で開放。
	14日	・第3回「グルメカーニバル in 知内」・第26回「サマーカーニバル in 知内」(実行委員会主催)が知内川河川敷特設会場で開催。郷土の歌手北島三郎と北島軍団が、4年ぶりに出場。全国から8,000人が来場。 ・知内小6年生が社会科授業で縄文時代のことを理解するため、郷土資料館学芸員の指導で縄文土器作りを行った。
9月	3日	・湯ノ里小学校で、「あすなろコンサート」が行われ、3名のプロの演奏家が曲を演奏したり、児童の器楽の演奏体験が行われた。[広報しりうち10月]
	4日	・第33回「東日本軟式野球南北海道大会」(会場:北広島市など)で、知内町野球協会(大野幸孝監督)が優勝し、8年ぶりに全国大会への出場を決めた。[広報しりうち10月]
	10日	・脇本哲也町長が、町議会定例会で今期限りの引退を表明。(5期20年)[北海道新聞9月10日]
	24日	・日本道路建設業協会北海道支部が「道の駅しりうち」にAED(自動体外式除細動器)を寄贈し、贈呈式が行なわれた。[広報しりうち11月]
10月		・知内ニラ「北の華」の販売額が10億円を突破。知内町ニラ生産組合(石本顕生組合長・74戸)。道内1位で国内では4位前後の生産規模。[北海道新聞11月13日] ・「北海道知内町観光ガイド」を郷土資料館等の協力で知内町観光協会が1万部作成した。[広報しりうち11月]
	1日	・第19回国勢調査 2,009世帯 男2,461 女2,613 計5,074人
	8日	・「子ども会対抗親子キンボール大会」(主催:知内・木古内防犯協会など)がスポーツセンターで開催。[北海道新聞10月21日]
	18日	・町議会(松井盛泰議長)が議員の定数と報酬について町民の意見を聴く「地区別議会報告会」が、19日の渡島知内地区と中ノ川地区を皮切りに始まる。[北海道新聞10月19日]

年	月日	できごと
2010年	10月30日	・第43回「町民文化祭」(主催:町文化団体連絡協議会・町教委)が、31日には第27回「知内町産業まつり」(主催:実行委員会)が開催され、は海産生鮮魚のせりが行われた。[広報しりうち12月]
	11月	・地域住民の学習活動に貢献した公民館に贈られる「第63回優良公民館表彰」(文部科学省選定)を、町中央公民館が受賞した。
	3日	・湯倉神社(知内温泉ユートピア和楽園)の社殿が、44年ぶりに新築され、御神体を移動させる遷座祭を行った。[北海道新聞11月4日夕]
	6日	・「道南スギ利用促進交流会(主催:道南スギ産地形成推進協議会・渡島総合振興局西部森林室)が中央公民館で開催され、町民ら60人が参加した。[北海道新聞11月26日]
	11日	・「子どもの健康的な生活を援助する」との演題で、はるこどもクリニックの高柳滋治院長が講演を行い、子どもを持つ親など約60名が訪れた。[広報しりうち12月]
	16日	・「知内町英語教育推進協議会研究大会」を開催。文部科学省から研究開発学校の指定を受け、小・中・高一貫した英語教育のための研究に取り組んでいるなか、小・中・高校の研究授業を行なった。[広報しりうち12月]
	18日	・松前町、福島町、木古内町、知内町の防災担当者が集り「土木災害図上訓練」が行なわれた。
	26日	・郷土資料館ふるさと講座「歌の魅力と不思議」というテーマで声の様々な表現について声楽家の引地桂子講師が話す。
	28日	・「渡島四町交流ソフトバレー大会」が6チーム総当たりのリーグ戦で行なわれた。
2010年	12月1日	・知内カキの出荷作業が海水温が高かったため実入りが遅く、例年より約20日遅れて、上磯郡漁協中ノ川支所で直売を始めた。[北海道新聞12月2日]
	4日	・東北新幹線八戸駅ー新青森駅間が開業し、同線が全通する。
	8日	・知内町ニラ生産組合(石本顕生組合長)は、知内ニラ「北の華」の年間販売額10億円達成を祝う「記念式典と祝賀会」を函館市内のホテルで開いた。[北海道新聞12月9日]
	14日	・町議会第4回定例会で「福祉灯油購入費助成事業補助金」が決まり、5,000円分の購入助成券を年内に交付する。[函館新聞12月15日]
	18日	・「知内町・今別町友好町締結20周年記念交流会」(主催:実行委員会)を開催。20周年を記念して作成された「友好の証」が脇本知内町長と小鹿今別町長によって交換された。[広報しりうち11年1月]
2011年(平成23年)	自治制施行140年記念の年	
	1月	・北海道庁は、涌元の寺院沢と神社裏の沢川の2地域を土砂災害警戒区域に指定した。[広報しりうち1月]
	12日	・農協女性部(笠松悦子部長)が中央公民館で、「食育講習会」を行い、参加した小学生ら約25名にべこ餅作りを指導した。[広報しりうち2月]
	15日	・知内高校野球部がボランティアでしおさい園の雪かきを行い、非常口や屋根の雪ろしを行った。
	27日	・高齢者食生活改善講座「ピンピンかまど塾」が保健センターで行われ、必要な栄養などを学んだあと、料理実習を行った。[広報しりうち3月]
	28日	・「観光ガイド交流研修会」(主催:知内観光協会)を4年ぶりに開催。函館市内のバス会社のガイド等に知内の魅力を知ってもらおうと、カキやニラの生産施設や観光ポイントを巡見。歴史や自然を資料館学芸員が紹介した。[函館新聞1月30日]
	2月3日	・道南生まれのブランド米「ふっくりんこ」を生産する「函館育ちふっくりんこ蔵部」(木本勉部長・837戸)が『第40回日本農業賞』の集団組織の部で特別賞を受賞した。[北海道新聞2月3日]
	6日	・脇本哲也町長引退に伴う知内町長選挙及び現職の死去に伴う知内町議会議員補欠選挙(欠員1)が行なわれ、町長選挙は無投票で大野幸孝前副町長が初当選。町議会議員補欠選挙は吉田峰一が初当選。[広報しりうち3月]
		・大相撲八百長問題の影響で、大相撲春場所が、本場所としては65年ぶり2度目の中止。
	13日	・「おやじバンド演奏会」(主催:知内町男女共同参画プラン推進協議会・知内町女性団体連絡協議会)が中央公民館で開催。190人が来場。
	14日	・脇本哲也町長退任式が役場庁舎で行われた。

年	月日	できごと
2011年	2月15日	・第3代町長（第29代首長）大野幸孝町長が初登庁。「公正・公平な町づくり」を政治理念として、町民とともに活力ある元気で豊かな知内町を実現する。[広報しりうち3月]
	18日	・町の特産のカキとニラをPRしようと紙芝居風にまとめた「知内カキニラ・ラブストーリー」(A4判カラー)を100部制作した。役場女性職員が物語を考え、ライラックの会（佐藤日路美会長）が絵を描いた共同作品。20日の「カキ vs ニラまつり」で配布。
	19日	・コープさっぽろと知内観光協会は、「産地交流ツアー」を実施。札幌の消費者にカキとニラの生産現場を見てもらうとともに「第13回しりうち味な合戦冬の陣 カキVSニラまつり」にも参加する。[北海道新聞2月20日]
	20日	・「第13回しりうち味な合戦冬の陣 カキ vs ニラまつり」(主催:実行委員会)がスポーツセンターと中央公民館で開催。過去最多の6,500人が来場。[北海道新聞2月21日]
	27日	・「知内中おやじの会」(岡田寿典会長)と教職員20人が、中学校で椅子の修繕を行なった。[北海道新聞3月8日]
3月	8日	・第1回定例町議会で、網野真生活福祉課長を副町長に選任する人事案に同意した。15日付で就任する。[北海道新聞3月9日]
	9日	・町議会は全員協議会を開き、時期改選時から議員定数を2減の10とし報酬を現状維持の一人当たり月額16万2千円とする条例改正案を決議。[北海道新聞3月10日]
	11日	・午後2時46分頃三陸沖を震源に国内観測史上最大のM9.0地震が発生。知内は震度4。
	12日	・気象庁は「平成23年東北地方太平洋沖地震」と命名した。マスコミは「東北関東大震災」「東日本大震災」等と呼称。
	17日	・東日本大震災の被災者支援のため知内町町内会連合会、知内町共同募金会、日本赤十字知内町分区の3団体は義援金の受付を始める。
	21日	・知内中、木古内中、知内高吹奏楽部による「合同コンサート」が中央公民館で行われた。
	26日	・「知内観光マップ」を知内観光協会（松崎永三会長）がリニューアルした。地図の改定は約10年ぶり。[函館新聞3月26日]
	30日	・木古内・知内ライオンズクラブ（繁田一義会長）は、両町の若手経営者らで青年団体「若獅子会」(岡田敬司会長)を設立し、中央公民館で記念式典を開いた。[北海道新聞3月30日夕]
4月	1日	・農地を効率的に利用できるようにするための「農地利用集積円滑化事業」がスタート。
5月	15日	・町の自治制140周年記念で「NHKのど自慢」(主催:知内町・NHK函館放送局)の公開生放送が、スポーツセンターで開かれた。約1,000人が来場し、ゲストは伍代夏子と北山たけし。[広報しりうち6月・みなみ風5月16日]
	21日	・郷土資料館第29回特別展「横山朝覧展－幽玄と幻想の風景－」を中央公民館講堂で6月5日まで開催。37点の油絵と16点のレーザーアートを展示。[北海道新聞5月22日夕]
	22日	・「コープ未来(あした)の森づくり」植樹祭(2年目)を湯ノ里地区で開催。コープさっぽろ組合員・知内町・地域住民等約60人が参加した。[北海道]
	24日	・「子ども会対抗防火ドッジボール大会」がスポーツセンターで開催。169人の子どもが参加した。[広報しりうち7月]
	29日	・元町町内会（福井肇会長）は、町の自治制施行140年を記念する植樹祭を旧知内小学校跡地で行ない、ヤエザクラ50本を植えた。[北海道新聞6月20日]
6月	1日	・住宅用防災警報器の設置が義務になる。
	14日	・午後4時30分頃、元町の国道228号線を、クマ1頭が横切るを走行中の男性が目撃し、役場に届け出た。[北海道新聞6月15日]
	18日	・油絵作品展「鈴木秀明の世界」(主催:知内町教育委員会)が知内町文化交流センター（森越-旧中の川小学校）で開催。45点を展示。(～26日)[函館新聞6月18日]
7月	17日	・町内の「交通事故死ゼロ日数」が3千日を達成し、役場で知事感謝状の贈呈式が行なわれた。[北海道新聞7月20日]
		・ドイツ・フランクフルトでサッカー女子ワールドカップ杯で、なでしこジャパンが初優勝。

年	月日	できごと
2011年	7月29日	・知内高校吹奏楽部（高橋卓也部長・部員36名）が、第56回「北海道吹奏楽コンクール函館地区大会」B編成（35人以下）で金賞を受賞し、2年ぶりの北海道大会への出場を決めた。[広報しりうち9月]
	8月3日	・町内の消費拡大と商店の活性化を図ろうと、10月31日まで使える「プレミアム商品券」が発売された。[広報しりうち9月]
	5日	・絵画サークル「パレットの会」（八谷菊枝代表・11人）の会設立30年と藤田健一会員の傘寿（80歳）を迎えたことを記念した作品展を中央公民館で開催。木版画41点と油絵や水彩画33点を展示。[北海道新聞8月5日]
	8日	・東日本大震災で被災した宮城県の石巻商業高校野球部（水沼武晴監督・32人）が町の招きで来町。「被災地支援・宮城県石巻商業高校野球交流大会」と銘打って函大有斗高や知内高校と試合を行なう。[北海道新聞8月11日]
	14日	・第27回「サマーカーニバル in 知内」（主催：実行委員会）が知内川河川敷地で開催。知内高校生の演劇「義経の剣～幕末編」が行われた。ライブには、Kazumiとみや雅彦が出演。3,000人が来場。[北海道新聞8月16日]
	15日	・知内のキャラクター「かき太郎」の人形を作りサマーカーニバルで販売開始。
	15日	・町内の教職員対象の研修「まなびセミナー」が行われ、アイヌ文化や社会適応力の養い方などを、中村和之函館工業高等専門学校教授から学んだ。[広報しりうち9月]
	21日	・小谷石漁港で先祖と海難や東日本大震災犠牲者の霊を弔う灯籠流しが行なわれた。永称寺（小谷石・佐藤暁樹住職）と国本寺（涌元・金森一真住職）が毎年盂蘭盆に合わせて実施。[北海道新聞8月21日]
		・東京都北区の体験観光で来た一行に町内案内と琥珀の玉づくり講座を郷土資料館が行なう。
	24日	・25日朝にかけて知内と木古内は、大雨に見舞われた。1時間雨量の最大は、28.5ミリを記録。[北海道新聞8月26日]
	26日	・「ぼっこりおなか解消教室」が保健センターで行われ、食事と運動の両面からメタボ解消の方法を学ぶ。[広報しりうち10月]
9月		・スズメバチの巣の撤去は、9月時点で300件。昨年は1年間で約100件。[衛生係]
		・夜間飛び回っている大型のガは、クスサンというガで去年は道東で大量発生。
	8日	・札幌や函館の旅行業者らを招いた「観光モニターツアー」を知内観光協会（松崎永三会長）が9日にかけて実施する。[北海道新聞9月10日]
	10日	・郷土資料館ふるさと講座「菅江真澄の旅からみる松前東在の暮らし—松前と箱館の間—」を菊池勇夫宮城学院女子大学教授を講師に招いて開催。[広報しりうち10月]
	12日	・「知内町カートレイン等基地整備促進期成会」の設立総会が、中央公民館で開催。約30人が出席して斎藤仁会長と岡田敬司副会長を選出した。[北海道新聞9月14日]
	13日	・小中高が連携した英語教育の推進を目指し、町英語教育推進協議会の研究大会が行われた。[広報しりうち11月]
	16日	・道市町村振興協会（札幌）が取り組んでいる「ニューツーリズムによるまちおこし」研究の実践調査地に知内町が選ばれ、観光戦略を話し合うワークショップの2回目を中央公民館で開催。[北海道新聞9月22日]
	19日	・涌元漁港で「磯舟競走選手権大会」（主催：涌元町内会）が12年ぶりに開催。
	25日	・函館バスケットボール協会のリーグ戦がスポーツセンターで行われ、6チームが競い合った。
	29日	・「ピンピンかまど塾」が保健センターで開かれ、高血圧や老人性貧血などについての講話や調理実習が行われた。[みなみ風10月11日]
10月	10日	・「NHKジュニアバレーボール教室」がスポーツセンターで行われた。アトランタオリンピックなどで活躍したバレーボールの大林素子元全日本代表ほか1名が講師を務め、町内外から小中学生8チームが参加。[広報しりうち11月]
	11日	・渡島西部広域事務組合（総合管理者-村田駿福島町長）の「4署消防総合訓練」が役場前駐車場で実施。
	16日	・「チャリティー民謡ショー」が森越町内会館で行われ、民謡や三味線の演奏などが演奏された。[広報しりうち11月]

年	月日	できごと		
2011年	10月24日	・町議会の活動を町民に理解してもらうため、全13町内会で開催する「地区別議会報告会」が始まる。[広報しりうち12月]		
	27日	・1989年設立された「のすり旬会」(藤田健一会長・6人)が高齢による会員数の減少により解散する。[北海道新聞10月29日]		
	31日	・「湯ノ里地区防災対策会議」(八木年幸議長・事務局湯ノ里小学校)が、湯ノ里地区(232世帯・563人)で立ち上げた。[みなみ風11月10日] ・「町づくり懇談会」が始まる。大野町長が、町づくりの基本方針や現在取り組んでいる具体的な事業、今後検討が必要な課題などを説明し、出席者と意見交換を行なう。[広報しりうち12月] ・小沢建具工業(株)が、木製ベンチ12台を町に寄贈した。[広報しりうち11月] ・外国為替市場で1ドル=75円31銭をつけ、ドルの最安値(円高)を記録。		
	11月		・知内ニラ「北の華」の販売額が2年連続で10億円を突破。知内町ニラ生産組合(石本顕生組合長・73戸)。[北海道新聞12月2日]	
		1日	・町議会の活動を町民に知ってもらうための、「地区別議会報告会」が全13町内会を訪問して終えた。[広報しりうち12月]	
		12日	・元駒大苫小牧高野球部の香田監督が「夢をかなえるために」との題で講演を知内高校で行う。[広報しりうち12月]	
		13日	・寺参りコンサート「歌とピアノの調べ」が大乗寺(元町・斉藤徹全住職)で開催。	
		15日	・「自殺予防講演会」を北海道教育大の森谷康文准教授が行ない、うつ病など、予兆に気づくのが大切などと話した。[広報しりうち12月]	
		16日	・「町づくり懇談会」が10月31日から11月16日までに行われ、大野町長が町内の13町内会を訪問。各町内から約200名が参加した。[広報しりうち12月]	
		17日	・「自治制施行140年」を記念し、第3回「ほくでんファミリーコンサート」をスポーツセンターで開催。札幌交響楽団が「交響詩『前奏曲』(リスト作曲)」など全5曲を演奏し、町内外から約500名が来場。	
		20日	・「道民芸術祭渡島管内祭」の舞台発表が中央公民館で行われ、中ノ川太鼓や詩吟など、管内の優れた芸能が披露された。	
		26日	・「道市町村振興協会」(札幌)の呼びかけで観光についての作業部会が、企画案を発表。「登山愛好者を小谷石地区の山に呼び込むプラン」と「お試し暮らし体験プロジェクト」と題した移住体験誘致プランを提案が最終報告。[北海道新聞9月22日]	
		28日	・「自治制施行140周年記念式典」を開催。関係者175名が出席。DVD映像で140年のまちの歩みを振り返り、大野町長の式辞、町頭彰条例に基づく表彰式が行われ、永井正博渡島総合振興局長と松井盛泰町議会議長の祝辞、最後に出席者全員で知内讃歌を合唱し、式典を閉じた。式典後には、北大経済学部の吉見宏教授による「交通新時代における知内町が果たすべき役割と可能性」を題に記念講演した。	
		12月	1日	・道道湯の里渡島知内停車場線の「湯の里大橋」は、補修工事のため平成24年3月10日(土)まで通行止め。[広報しりうち12月]
			7日	・知内町ニラ生産組合(石本顕生組合長・73戸)の「創立40周年記念式典・祝賀会」が、組合員や市場関係者など約250名が出席し、中央公民館で開催。[広報しりうち12年1月]
			10日	・「知内温泉ユートピア和楽園」が改築し落成式を行なった。[北海道新聞12月21日]
			13日	・町議会定例会で、高齢者世帯などの屋根の雪下ろしに対する町独自の助成を行なう予算案が、可決された。[北海道新聞12月14日]
	16日		・第1回「知内生活工夫展」が中央公民館で開催。昨年まで実施していた「農村生活工夫展」を発展させ、農産物だけに限定しない工夫展として開始。	
	19日		・教育講演会「夢は途中 福島千里と共に」が知内高校で開催。講師は中村宏之北海道ハイテクアスリートクラブ監督。	
	22日		・「知内町安全・安心シニアサポート隊」が発足し、発会式と除雪機の引き渡しが行われた。 ・きらく健友会「創立30周年記念式典」をレストラン北都で開催。[町内会記念誌きらく]	
	2012年(平成24年)			
		1月13日	・土砂災害防止法に基づき「土砂災害警戒区域指定」とする渡島総合振興局建設管理部の説明会が、小谷石地区で開かれた。[北海道新聞1月21日]	

年	月日	できごと
2012年	1月15日	・町長ほか行政関係者が、住民と意見を交換する「ふれあい懇話会」が、湯ノ里地区を皮切りに始まる。[広報しりうち2月]
	27日	・渡島西部4町の観光資源をバスガイドらに紹介する「観光ガイド交流研修会」(主催:知内観光協会)を開催。40人が参加。[北海道新聞1月28日]
	28日	・「木古内・知内地区ライオンズ記念町民スキー大会」(ライオンズ杯)が、小学生から一般までの参加者51人を集め、町民スキー場で行われた。[広報しりうち3月]
	30日	・湯ノ里地区の町営住宅で屋根の雪下ろし中の女性が、落雪に埋まった死亡事故が発生。前日にも別棟の住宅で重傷事故があった。[北海道新聞2月1日]
		・『特産品パンフレットしりうち』が13年ぶりに改訂。(A4判15ページ)町の女性職員7人が中心となって構成を考えて製作。[みなみ風4月24日]
2月	1日	・新函館農協(新函館農業協同組合)の経済3事業[1.生活店舗事業(Aコープ店舗等)、2.燃料事業(ガソリンスタンド・燃料等)、3.整備事業(自動車、農機具整備工場等)]は(有)新はこだて協同へ営業を移行する。
		・渡島西部4町の食材を使用した料理を約1ヶ月間にわたって提供する「松前街道美食フェア」がホテルオークラ(札幌)で始まり、観光と道南食材の魅力をアピールした。[北海道新聞2月3日]
		・知内町公式ホームページをリニューアルし、町民の方が書いた記事をホームページに掲載する「知内町民レポーター」コーナを設けた。[広報しりうち2月]
	7日	・高速インターネットの活用のため、フレッツ光の説明会が中央公民館で行われた。[広報しりうち3月]
	8日	・町内の各家庭に食材を定期的に宅配するサービスを展開しているコープさっぽろと町が、一人暮らしなどの高齢者の見守り活動で協定を結びんだ。[広報しりうち3月]
	9日	・「糖尿病予防講演会」(主催:知内町民健康推進委員会)が保健センターで開催。講師は高橋清仁クリニック院長。参加者は50人。[広報しりうち3月]
		・「子ども会交流キックゴルフ大会」(主催:知内町子ども会育成連絡協議会)を開催。6子ども会と学童保育の児童23人が参加した。[北海道新聞2月9日]
	15日	・道内市町村の広報技術を競う第58回「北海道広報コンクール」で広報しりうち2010年6月号が「広報誌部門(町村の部)」で、2011年3月号表紙が「一枚写真部門」で入選した。[広報しりうち3月]
	19日	・第14回「しりうち味な合戦冬の陣カキvsニラまつり」(同実行委員会主催)が行なわれ、友好町の青森県今別町からも出店があり、名産のもずくうどんやのしかなどが販売された。町内外から6千人が訪れた。[広報しりうち3月]
	21日	・記録的大雪と厳しい寒さの影響で、日照が少なく、ニラハウス内の地温が上がらないため、例年より10日から2週間程度、知内ニラの生育に遅れが出ている。[函館新聞2月21日]
	22日	・大雪で食糧不足のためか小谷石地区でシカ食害が住宅地で多発。[北海道新聞2月22日]
	26日	・「女性団体連絡協議会設立65周年記念演芸会」が行われ、11の女性団体が参加し多彩な芸に会場の約130人が笑いに包まれた。[広報しりうち4月]
	28日	・「認知症サポーター養成講座」が保健センターで開催。各町内のいきいきサロンで活動するスタッフら20人が参加。[北海道新聞3月7日]
3月	7日	・「地震・津波防災の備えと避難」と題した防災講演会を開催。町民43人が来場。[広報しりうち4月]
	11日	・第1回「しりうちフォトコンテスト」(主催:知内観光協会)で、風景・イベントの2部門合わせて45点の応募作品から13点の優秀作品が選ばれ、表彰式を実施。[みなみ風3月19日]
	25日	・町議会議員選挙を実施。定数12人から10人に減った初めて選挙で、現職11名と新人2名が立候補。投票率85.51%。[広報しりうち4月]
		・2011年度の渡島地方のエゾシカの猟期(10月22日から3月25日)で、知内は304頭(同197頭増)捕獲された。[北海道新聞6月16日]
	27日	・「子ども会リーダー養成研修会」がふるる函館で行われ、6年生になる児童たちを対象に、グループワークや実習が行われた。[広報しりうち5月]
4月	11日	・インドネシアのスマトラ島でM8.7の巨大地震発生。
	12日	・第3回臨時町議会で、伊藤政博議長と森永勉副議長を選出。[議会だより第68号]

年	月日	できごと
2012年	4月22日	・きらく町内会「シニア有償ボランティア」設立総会を開催。
	26日	・特産ニラ活用した「北の華カステラ」を(株)スリーエス(斉藤仁社長)が発売。4月26日から「道の駅しりうち」とこもれび温泉で発売。[北海道新聞5月3日]
	5月	・「A コープおつかい号」移動販売車が知内で運行開始。月曜日から金曜日まで朝9時30分から夕方4時頃までを予定に移動販売を行なう。[A コープ知内店のチラシ]
	17日	・初めての「男性限定シェイプアップ講座」が保健センターで始まり、町民7人が参加した。[北海道新聞5月22日]
	18日	・知内商工会(臼井政則会長)は第52回通常総会を開き、地域産業資源活用促進事業(仮称「知内ブランドマルシェ」)など本年度事業計画案を承認。役員改選で、臼井会長の後任に繁田一義会長になる。[北海道新聞5月31日]
	20日	・「コープ未来(あした)の森づくり」植樹祭(3年目)を湯ノ里地区で開催。コープさっぽろ組合員・家族としりうち緑の少年団約70人が参加した。[北海道]
	21日	・「部分日食観測会」を小谷石のイカリカイ駐車公園で実施。[郷土資料館報告]
	23日	・通称だいか裏の海岸(重内)で64センチのサクラマス1匹が捕獲された。
	6月4日	・南北海道友釣同好会(平井勇会長)は、知内川でアユの稚魚約80キロ(約8,000匹)を放流した。[みなみ風6月8日]
	14日	・知内火力発電所1号機(出力35万キロワット)の蒸気タービンの振動が上昇したため運転を停止した。[北海道新聞6月15日]
	18日	・重内の水田に国の天然記念物タンチョウが飛来した。[北海道新聞6月20日] 後日このタンチョウは、大陸出身の雄で秋田県大潟村で「八郎」と名づけられた個体であることが判明する。[北海道新聞6月26日]
	21日	・第2回定例町議会において、脇本哲也前町長を名誉町民に推薦する議案が全会一致で可決され、1997年以來5人目の名誉町民となる。[広報しりうち8月]
	24日	・「平成24年知内消防団総合訓練大会」をファミリースポーツ広場(河川敷地)で開催。[広報しりうち8月]
	27日	・労働災害の根絶を目指す「労働災害安全大会」(主催:知内商工会工業部会)と工業部会総会が知内商工会館で開催。建設業者ら約50人が出席。新しく岡田清博部会長が選出。[北海道新聞7月5日]
	30日	・「健康づくり講演会」が、約100名の受講者を集めて中央公民館で開催。知内診療所山内賢二院長による「知っておくと得する整形外科疾患」と題して講演が行なわれた。[広報しりうち9月]
	7月2日	・知内町役場で「パスポート(旅券)の申請・受取」ができるようになる。
	10日	・「自衛隊東日本大震災災害派遣写真展」が文化交流センター(旧中の川小学校)で開催。[広報しりうち8月]
	13日	・「全日本少年軟式野球北海道大会」(主催:道軟式野球連盟)の開会式が、しおさい球場で実施。14日から知内・木古内両町、北斗市の4会場で開幕。[広報しりうち9月・北海道新聞7月15日]
	18日	・住民基本台帳による渡島西部4町の人口が減少。松前町8,857人、福島町4,965人、知内町5,020人、木古内町5,001人。
	24日	・函館地方石油業協同組合(和田善助理事長)と町は、災害時に石油などの燃料の優先供給を受けることを定めた協定を結んだ。[北海道新聞7月25日]
	27日	・第30回夏季オリンピック競技大会ロンドンオリンピック開幕。(～8月12日)
	8月1日	・三洋食品知内工場(元町9)の敷地内に直売店がリニューアルオープンした。[函館新聞8月3日]
	2日	・「第39回日独スポーツ少年団同時交流事業」(主催:日本体育協会)で指導者1人を含む一行7人が町内に入り、6軒の民家に宿泊しながら知内高校生と交流した。[北海道新聞8月10日]
	4日	・「ニラの刈り取り健康ウォーキング」を実施。農業水利施設の多面的な機能を学び、収穫体験も行なう事業を「知内地区管理体制整備推進協議会」(手塚恵一会長)が主催で行なう。[みなみ風8月13日]
	13日	・「北島三郎氏芸道50周年」を祝して「サマーカーニバルin知内」の前夜祭が行われ、元町の実家前でねぶた囃子愛好会を中心に、町内の児童生徒や有志が踊りを披露した。[広報しりうち9月]

年	月日	できごと
2012年	8月14日	・第28回「サマーカーニバル in 知内」(知内川河川敷特設会場)を開催。今回初めての種目となる「綱引き大会」には当日飛び入りも合わせて計16チームが参加。「東日本大震災チャリティーオークション」では福島県産の桃や宮城県産の日本酒などが出品され、全て落札された。夜間は2年ぶりに北島歌謡ショーが行なわれた。
	24日	・道南産杉材の活用を図るため知内高校(広田定憲校長・生徒169人)の生徒用の机を入れ替える。[北海道新聞8月24日]
	25日	・東京のボランティア団体「栄養グループ『食彩』」のメンバー20人が体験観光モニターで来町。[北海道新聞8月29日]
	26日	・第15回「しりうち大漁まつり」(主催:上磯郡漁協)が涌元漁港で開催。東海林明子料理研究家がプロデュースした特大の「知内海鮮パエリア」が人気を呼んだ。[北海道新聞8月28日]
	29日	・第14回夏季パラリンピックロンドン大会開幕。(～9月9日)
	30日	・こもれび温泉で「温泉学セミナー」開催。町民28人が参加した。[北海道新聞9月4日] 「森と木の里造成事業」により1994年に造成された小谷石地区「啓発の森」遊歩道の補修を、知内町森林組合(森広武美組合長)が行なった。[みなみ風9月6日]
	31日	・スナック菓子大手のカルビー(東京)による食育教室「カルビースナックスクール」が、湯ノ里小学校(市川成美校長)で開催。児童23人がおやつを通じ、正しい食習慣と知識を学んだ。[北海道新聞9月5日]
9月	1日	・午後1時50分頃小谷石漁港を出港した7隻のカヤックのうち1隻が矢越岬沖で転覆。漁船と巡視船に救助された。[函館新聞9月2日]
	7日	・幼少期の発育に合わせた運動を紹介する「キッズ運動教室」がスポーツセンターで開催。子どものスポーツ教育に力を入れる大野町長の政策事業として初めて開催した。(～8日)[みなみ風9月12日]
	15日	・第19回「協会長杯争奪西南4町中学生野球大会」(主催:松前町軟式野球協会)が松前町民球場で開催。知内中学校が逆転で優勝。[みなみ風9月25日]
10月	5日	・メタボリック症候群を改善する「ヘル脂教室」が保健センターで開催。7人が参加した。[みなみ風10月18日]
	24日	・中ノ川水系の改修工事に着手するため、役場で「整備計画検討委員会」の初会合を開催して工事について説明し意見を聴いた。[北海道新聞10月27日]
11月	10日	・道南スギの間伐材利用促進のモデル事業として町が建設を進める教員住宅2棟の見学会が元町の建設現場で開催。[北海道新聞11月13日]
	15日	・読み書かせサークル「ライラックの会」(佐藤日路美代表)が読書推進運動協議会(東京)の「優良読書グループ」の全国表彰に選ばれた。[北海道新聞11月21日]
	17日	・知内高校(広田定憲校長)の「創立60周年記念式典」が記念事業協賛会(脇本哲也会長)主催で同校で開催。生徒168人と卒業生や歴代職員ら250人が出席。[北海道新聞11月18日]
	27日	・知内カキの出荷が上磯郡漁協中ノ川支所で始まった。夏の高水温の影響で例年より1ヶ月近く遅いスタート。[北海道新聞11月28日]
12月	9日	・知内町と木古内町の社会福祉協議会共催の「ボランティアスクール～住民福祉の集い」で三遊亭洋楽講師の講演会「笑い人間関係」が中央公民館で開催。[北海道新聞12月14日]
	12日	・町長を5期20年を務め、町特産のカキやニラのブランド化を推進した脇本哲也前町長に対する「名誉町民章」の授与式が、町議会定例会終了後の議場において議員や職員が多数出席するなか行われた。[北海道新聞12月15日]

『新・知内町史』

- I 「知内らしさ」の現在
 - II 「生活者の自治」をめざして
 - III 「懐かしい地元」の追想
-

新・知内町史 III 「懐かしい地元」の追想

平成二十七年三月二十日 印刷

平成二十七年三月三十日 発行

編集 知内町史編纂委員会

発行者 知内町長 大野幸孝

発行所 知内町役場

上磯郡知内町字重内二十一番地一

印刷 阿部総合印刷株式会社

函館市港町一丁目三十三番二十三号

